令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	野菜栽培と育種（野菜栽培）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科・野菜コース	学年・学期	2年・前期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・0.5単位（18単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

県内主要野菜のメロン、イチゴ、トマト、露地野菜などを中心とした野菜試験研究に関する最新技術について、栽培システム全般にわたる基礎と応用技術、主要野菜の品種特性について解説する。

授業計画

回数（月日）	項目及び内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1(4限) 6/15(月)	温室メロンの高品質生産	2	講義	視聴覚	研究員
2(4限) 6/30(火)	農作物の内容成分と機能性	2	講義	視聴覚	研究員
3(3限) 7/3(金)	農産物の品質と鮮度保持法	2	講義	第7講義室	研究員
4(3限) 7/8(水)	ワサビの栽培方法	2	講義	第7講義室	研究員
5(4限) 7/10(金)	レタスの生理・栽培方法	2	講義	第7講義室	研究員
6(3限) 7/15(水)	トマトの生理・栽培方法について	2	講義	第7講義室	研究員
7(3限) 7/27(月)	県産農産物の特徴と機能性	2	講義	第7講義室	研究員
8(4限) 7/29(水)	トマトの生理障害について	2	講義	第7講義室	研究員
9 8月	定期試験	2			

＊視聴覚：視聴覚ホール、３時間目（13:00～14:30 ）４時間目（14:40～16:10）

他の科目との関連並びに留意事項

農業技術研究所内の温室で実際の栽培を見学しながら講義する場合もある。

教材	テキスト 講義に応じてプリント資料を配付する。	参考書 施設園芸ハンドブック（施設園芸ハンドブック）

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	野菜栽培と育種、花き栽培と育種（育種）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科 野菜・花きｺｰｽ	学年・学期	2年・前期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・0.5単位（18単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

育種学の基礎と植物育種の基本技術、バイオテクノロジー技術の利用などについて学ぶ。

授業計画

回数（月日）	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1（3限）6/25(火)	育種学総論	育種の基礎知識	2	講義	視聴覚	研究員
2（3限）6/28(金)	育種技術(1)	水稲品種と種子生産技術	2	〃	視聴覚	研究員
3（4限）7/3(金)	育種技術(2)	胚・胚珠培養	2	〃	第1講義室	研究員
4（4限）7/3(水)	育種技術(3)	交配・交雑育種	2	〃	視聴覚	研究員
5（3限）7/9(火)	育種技術(4)	突然変異育種	2	〃	視聴覚	研究員
6（3限）7/16(火)	育種技術(5)	イチゴ育種の実際	2	〃	視聴覚	研究員
7（3限）7/18(木)	育種技術(6)	分子育種の導入	2	〃	視聴覚	研究員
8（3限）7/22(月)	育種技術(7)	遺伝子組換えと編集	2	〃	視聴覚	研究員
9 9月	定期試験					

3時限目（13：00～14：30） 4時間目（14:40～16:10）

他の科目との関連並びに留意事項

教材	テキスト	参考書
	講義に応じてプリント資料を配布する。	

平成31年度授業評価基準

学部・学科・コース　園芸学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
野菜栽培と育種	80	20		－	100

評価のポイント

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	園芸施設と経営（施設）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科　野菜・花きｺｰｽ	学年・学期	2年・前期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・0.5単位（18単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

園芸施設・機械及び環境制御に関する最新技術について解説し、より高度で専門的な知識の習得を目指す

授業計画

回数（月日）	項目及び内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1(3限) 6/29(月)	施設園芸と温室構造（環境制御と省力生産について）	2	講義	視聴覚	研究員
2(3限) 7/2（木）	農産物の加工と貯蔵流通	2	講義	視聴覚	研究員
3(4限) 7/6(月)	温室の省エネ対策について	2	講義	視聴覚	研究員
4(4限) 7/9(木)	農業機械と農作業安全	2	講義	視聴覚	研究員
5(3限) 7/14(火)	植物工場について	2	講義	視聴覚	研究員
6(4限) 7/20(月)	高度環境制御システムについて	2	講義	視聴覚	研究員
7(4限) 7/28(火)	養液栽培について	2	講義	視聴覚	研究員
8(3限) 7/31(金)	移植・防除の機械化について	2	講義	視聴覚	研究員
9 8月	定期試験	2			

＊視聴覚：視聴覚ホール、３時間目（13:00～14:30 ）　４時間目（14:40～16:10）

他の科目との関連並びに留意事項

農林技術研究所内の温室で実際の栽培を見学しながら講義する場合もある。

教材	テキスト 講義に応じてプリント資料を配付する。	参考書 設園芸ハンドブック（施設園芸ハンドブック）

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	園芸施設と経営（経営）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科　野菜・花きｺｰｽ	学年・学期	2年　前期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・0.5単位（18単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

本講義では、農業経営に関する基礎学習を踏まえ、先進的なビジネス経営と多様な担い手によるマーケティング戦略の潮流について、講義および現地研修により紹介する。

授業計画

回数（月日）	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1 6/29（月）	農業経営収支	農家と農業経営について	2	講義	視聴覚	研究員
2 7/7（火）	農業経営モデルの構築	農家の規模拡大と法人化について	2	講義	視聴覚	研究員
3 7/21（火）	経営の担い手育成	ビジネス経営体の育成支援について	2	講義	視聴覚	研究員
4 7/31（金）	労務管理	農家・法人の労務管理	2	講義	視聴覚	研究員
4～7 8/6（木）	現地視察	静岡県農業の明日を切り開く先進的経営体の視察	8	視察調査	浜松市（予定）	研究員
9	定期試験		2			

視聴覚：視聴覚ホール

他の科目との関連並びに留意事項

本講義は、研究課題に即した県内先進事例を数多く紹介し、受講者が農業経営を独自の視点で考える知識を習得することを目標にしています。

教材	テキスト	参考書 1．静岡県農業水産部：「新しい農業を創る人々　ビジネス経営体100事例－」（1）～（3） 2．静岡県経済産業部：「静岡県経済産業ビジョン」 3．静岡県経済産業部：「静岡県農ビジネス300事例集」

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　園芸学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
園芸施設と経営	80	20		0	100

評価のポイント

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	園芸病害虫と土壌肥料（病害虫）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科 野菜・花きコース	学年・学期	2年・前期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・0.5単位（18単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

植物防疫に関する事項について概説する。病害虫の発生生態や防除法についての内容が主になる。これ以外に、病害虫発生予察、生物的防除、環境に配慮した病害虫防除に関する内容等、最新の話題についても積極的に取り上げる予定である。

授業計画

回数	項目及び内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1 6/15(月)	病害の発生と伝播	2	講義	第1講義室	研究員
2 6/16(火)	水田の病害	2	〃	第1講義室	研究員
3 6/30(火)	水田の害虫	2	〃	第1講義室	研究員
4 7/1(水)	作物の地下部に発生する病害	2	〃	視聴覚室	研究員
5 7/2(木)	作物の地上部に発生する病害	2	〃	視聴覚室	研究員
6 7/7(火)	花きの虫害と防除法	2	〃	視聴覚室	研究員
7 7/10(金)	施設野菜の虫害と防除法	2	〃	視聴覚室	研究員
8 7/14(火)	露地野菜の虫害と防除法	2	〃	第1講義室	研究員
9 7/21(火)	農薬の種類と特性	2	〃	視聴覚室	研究員
10 7/29(水)	農薬取締法とGAP	2	〃	視聴覚室	研究員
11 8月	定期試験	2	〃		

他の科目との関連並びに留意事項

教材	テキスト	参考書 ・ 静岡県農作物病害虫防除基準 （静岡県植物防疫協会） ・ 写真で見る農作物病害虫診断ガイドブック （静岡県植物防疫協会）

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	園芸病害虫と土壌肥料（土壌肥料）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科　野菜・花きｺｰｽ	学年・学期	2年・前期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・0.5単位（18単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

土壌肥料の基礎から最新の事例まで学び、学生自らが土壌肥料の問題を解決できる力を養う。

授業計画

回数（月日）	項目及び内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1 7/6(月) 3時限目	有機物を活用した土壌管理技術	2	講義	第1講義室	研究員
2 7/9(木) 3時限目	土壌診断と環境に配慮した施肥技術	2	〃	視聴覚教室	研究員
3 7/13(月) 4時限目	県内農耕地土壌の特徴と土づくり	2	〃	視聴覚教室	研究員
4 7/20(月) 3時限目	肥料の種類と施用方法	2	〃	第1講義室	研究員
5 7/28(月) 3時限目	生理障害の原因と対策	2	〃	視聴覚教室	研究員
6 7/30(木) 4時限目	作物に合わせた効率的施肥技術	2	〃	視聴覚教室	研究員
7 8月	定期試験	2			

他の科目との関連並びに留意事項：　プロジェクタを用い講義を行う。

教材	テキスト	参考書　静岡県土壌肥料ハンドブック

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　園芸学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
園芸病害虫と土壌肥料	80	20		－	100

評価のポイント

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	農業経営研究講座		
担当者	園芸２年生担当者		
開講学科	園芸学科	学年・学期	２年・前期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・１単位（36 単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

市場での流通の仕組みや、県内の先進的な野菜・花きの経営事例を学び、就農後の経営に役立つ生産・流通上の実践知識を習得するとともに、就農５年後を想定した経営計画を策定する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～18	先進経営体、市場の仕組みと運営	・青果市場及び花き市場の仕組み ・生産法人等の生産実態	12	現地視察	現地	園芸２年生担当者
	生産・流通上の新しい動き	・農業経営の原理 ・生産段階及び流通段階における新しい取組み	12	現地視察	現地	園芸２年生担当者
	経営計画の策定と発表	・300 万円以上の所得を得るための農業経営計画の策定 ・計画の発表	12	演習	教室	園芸２年生担当者

他の科目との関連並びに留意事項

なし

教材	テキスト	参考書
	なし	なし

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部園芸学科　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
農業経営研究講座	0	20	10	70	100

評価のポイント
興味関心の強さ、実践力、考察の深さを重視するため、試験は行なわない。「講義中心の科目Ⅱ」を適用する。
上記項目について、「態度」「技能・レポート（発表会の内容等）」により評価する。

養成部　2年　専攻科目Ⅱ

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	大型機械		
担当者	山本千晶　鈴木鉄夫　鈴木利雄		
開講学科	園芸・茶業・果樹・畜産	学年・学期	2年　前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・２単位(72 単位時間)	免許・資格との関係	大特(農耕)取得を目指す

授業内容

大型乗用トラクターの運転操作、点検保守管理及び各種作業機の取扱いの技能とトラクターの構造と機能の知識、及び農作業安全について習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	トラクターの機能と基本操作Ⅰ	トラクター概論、各部の構造と機能	4	講義	講義室	鈴木利雄
2	トラクターの機能と基本操作Ⅱ	各部の構造と機能、基本作業と耕法・機械化作業体系(作業機)	4	講義	講義室	鈴木利雄
3	トラクターの機能と基本操作Ⅲ	燃料と潤滑油、各種工具の使用方法	4	講義	講義室	鈴木利雄
4	農作業安全	農作業事故を起こさないために注意すること	4	講義	講義室	山本他
5	仕業点検と保守管理	トラクターの点検方法	8	実習	格納庫	鈴木鉄夫他
6	作業機の着脱・調整	ロータリ・プラウの着脱・調整	4	実習	格納庫	鈴木鉄夫他
7	耕耘整地方法	ロータリ・プラウによる耕耘	4	実習	圃場	鈴木鉄夫他
8	コース走行練習	道路交通法による運転操作	30	実習	コース	山本他
9	成績評価試験	学科と仕業点検の試験	4	試験	講義室格納庫	山本他
10	運転免許試験	大特(農耕)の運転免許試験	4	実習	コース	山本他
11	免許即日交付手続き	免許の作成、公道走行の注意事項	2	講義	西部運転免許センター	山本他

他の科目との関連並びに留意事項

普通免許を未取得の場合、大特(農耕)の運転免許試験を受験できないため、本授業が開始される前に、普通免許を必ず取得しておくこと。

教材	テキスト	参考書
	「トラクターの機能と基本操作（改訂版）」 編著者：全国農業機械化研修連絡会 発行所：一般社団法人　日本農業機械化協会	

令和2年度　授業評価基準

学部・学科・コース　養成部（園芸、畜産、林業、茶業、果樹）　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
大型機械	70	15	15	0	100

評価のポイント
・試験、出席、態度により評価する。試験は学科及び実技（仕業点検）を実施する。
・学科試験は100点満点で採点し、5割未満は再試を行う。再試は同一問題で行い7割5分以上を合格とする。再試合格の評価は50点、不合格は不可とする。
・実技試験は100点満点で採点し、5割未満は再試を行う。再試は同一問題で行い7割5分以上を合格とする。再試合格の評価は50点、不合格は不可とする。
・出席点は15点満点で出席コマ数により計算する。遅刻早退はその割合により減点する。
・態度点は授業態度（講義・実習）により採点する。無断欠席1日につき5点減点する。

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	園芸流通		
担当者	萩原、園芸２年担当者		
開講学科	園芸学科　野菜・花きｺｰｽ	学年・学期	２年・前期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・１単位（36 単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

野菜・花き類の市場流通の仕組みや、小売店段階での消費動向を調査するとともに、小売段階での販売戦略事例を調査し、農産物の流通の実際を学ぶ。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～2	調査	調査場所の選定 調査地の概要調査 視察先のアポイント	4	講義 調査	講義室	萩原、園芸２年担当者
3～16	卸売市場の役割と機能	青果市場及び生花市場の仕組みと役割 市場の機能と新しい動き 流通側からの生産者への意見	２８	視察研修 調査	現地	萩原、園芸２年担当者
	小売店における消費動向	小売店における消費動向の変化 消費からの生産者への意見 小売店の販売戦略		視察研修 調査	現地	萩原、園芸２年担当者
	農産物の消費動向	流通・消費の最近の動向 地域特有の流通・消費動向		視察研修 調査	現地	萩原、園芸２年担当者
	生産技術の動向	植物工場の現状 最新技術の動向と課題		調査 視察研修	現地	萩原、園芸２年担当者
17～18	調査報告	調査報告書の作成及び発表	4	発表	視聴覚ホール	萩原、園芸２年担当者

他の科目との関連並びに留意事項

なし

教材	テキスト なし	参考書 なし

令和2年度　授業評価基準

学部・学科・コース　養成部園芸学科　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
園芸流通		20	10	70	100

評価のポイント
班別小売店等調査活動、個人レポート評価による評価を重視する。
態度には、研修中の態度、報告会の内容を加味する。

授業科目名	野菜栽培特論（メロン）		
担当者	杉山主査、河合講師		
開講学科	園芸学科　野菜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必修・16単位（576単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

温室メロンの栽培管理に関する実習を行いながら、GLOBAL G.A.P.認証に基づいた生産管理、温室メロンに関する栽培技術、主要な病害虫防除対策と経営の考え方、複合環境制御の方法、省力技術などについて習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1〜288	施設栽培一般	GLOBAL G.A.P.認証 に基づいた栽培管理 農業機械・器具の 利用方法及び操作方法 は種と鉢上げ 玉つりの方法 施肥管理 かん水と温度管理	288	実習 講義	ほ場 現場教室	杉山 河合
	温室メロン経営	GLOBAL G.A.P.認証の概要 作付け回数の検討 経費の確認	68	実習 講義	ほ場 現場教室	杉山 河合
	省力化技術の検討	GLOBAL G.A.P.認証 に基づいた生産体制の改善 複合環境制御方法と維持修理 自動潅水の検討	152	実習 講義	ほ場 現場教室	杉山 河合
	品質評価と流通	GLOBAL G.A.P.認証 に基づいた収穫及び出荷 糖度調査の方法 品質評価基準の習得 出荷調整の方法 市場価格調査	68	実習 講義	ほ場 現場教室	杉山 河合
	計		576			

他の科目との関連並びに留意事項

卒業論文

GLOBAL G.A.P.認証

教材		

授業科目名	野菜栽培特論（トマト）		
担当者	荒川主任、平野講師		
開講学科	園芸学科　野菜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必修・16単位(576単位時間)	免許・資格との関係	なし

授業内容

トマトの栽培管理に関する実習を通して、栽培技術、主要な病害虫防除対策、経営の考え方、複合環境制御の方法、省力技術を習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～288	トマトの栽培	隔離栽培方法 かん水と温度管理 養液栽培方法 施肥・養液管理 仕立て法と交配法 出荷調製方法	576	実習 講義	ほ場 現場教室	荒川 平野
	計		576			

他の科目との関連並びに留意事項

卒業論文

教材		参考書
	テキスト 「トマトオランダの多収技術と理論-100 トンどりの秘密」（農山漁村文化協会） 「養液栽培の新マニュアル」（誠文堂新光社） 「ハウスの環境制御ガイドブック」（農山漁村文化協会） 環境制御のための植物生理（農山漁村文化協会） 「AI 学習システム（トマト編）」（NEC ソリューションイノベータ）	

授業科目名	野菜栽培特論（イチゴ）		
担当者	藤田主幹、平野講師		
開講学科	園芸学科 野菜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数(単位時間)	選択必修・16単位(576単位時間)	免許・資格との関係	なし

授業内容

イチゴの栽培管理に関する実習を行い、栽培技術、主要な病害虫防除対策と経営の考え方、複合環境制御の方法、省力技術などについて習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～288	イチゴの栽培	・親株管理法 ・ポット育苗法 ・花芽分化検鏡法 ・土耕栽培法 ・高設栽培法 ・施肥・養液管理法 ・病害虫管理法 ・株管理法 ・摘花摘蕾法 ・摘葉管理法 ・出荷調製法 ・環境制御法	576	実習 講義	ほ場 現場教室	藤田 平野
	計		576			

他の科目との関連並びに留意事項

卒業論文

教材	テキスト	参考書
	「紅ほっぺの特性と栽培技術」 「栽培マニュアル　きらぴ香」	野菜栽培の基礎知識　(農文協) イチゴ大事典　(農文協)

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	野菜栽培特論（野菜一般）		
担当者	本間主任、平野講師		
開講学科	園芸学科　野菜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必修・16単位（576単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

野菜の栽培管理に関する実習を行い、栽培技術、主要な病害虫防除対策と経営の考え方、省力技術などについて習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1 ～ 288	野菜の栽培	野菜栽培方法 （温室、ビニールハウス、露地畑） 野菜の育苗方法 施肥・肥培管理 主要病害虫防除 出荷調整方法	576	実習 講義	ほ場 現場教室	本間 平野
	計		576			

他の科目との関連並びに留意事項

卒業論文

教材	テキスト	参考書

授業科目	野菜生産技術特論（野菜生産技術科）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科　野菜コース	学年・学期	2年前・後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・16単位（576単位時間）	免許・資格との関係	な　し

授業内容

主要野菜の栽培管理全般に関する実習を行うとともに、トマト・イチゴに関する養液栽培技術等を習得する。

授業計画

回数	項目及び内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～288	主要野菜の栽培管理	80	実習	研究所ほ場等	研究員
	トマト・イチゴ養液栽培技術	208	実習・ゼミ	研究所ほ場等	研究員

他の科目との関連並びに留意事項

教材		

授業科目	農業ロボット経営戦略特論		
担 当 者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科	学年・学期	２学年　前・後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・16単位（576単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

経営についての資料や文献の解析、現地調査などを行うことで、農業経営についての知識と技術を習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～288		(1) ビジネス経営体育成モデル	144	実習	研究所	研究員
		(2) 農産物流通とマーケティング	144	実習	研究所	研究員
		(3) 機械導入による農作業の効率化	144	実習	研究所	研究員
		(4) 開発した技術の経営的評価	144	実習	研究所	研究員
		(5) 移動運搬ロボットの開発	144	実習	研究所	研究員

他の科目との関連並びに留意事項

教材	テキスト	参考書

授業科目名	加工技術特論		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・16単位（576単位時間）	免許・資格との関係	な し

授業内容

野菜、果物の生産・加工・流通段階での品質管理技術、品質評価法および加工法について実習を行い習得する。

授業計画　（５７６時間）

	教育内容	時期	教育方法	担当者
(1)	野菜、果物の品質管理法	４～２月	実習・ゼミ	研究員
(2)	野菜、果物の品質評価技術	４～２月	実習・ゼミ	研究員
(3)	野菜、果物の加工法	４～２月	実習・ゼミ	研究員

他の科目との関連並びに留意事項

農林技術研究所内以外にも、現地のほ場、加工、貯蔵施設等で調査する場合もある。

教材	テキスト 特になし	参考書 講義内容に関連する参考文献等

授業科目	植物保護環境保全特論（植物保護）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科	学年・学期	2年　前・後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・16単位（576単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

植物保護に関する実験技術、研究課題に即した技術、及び環境保全型農業を進めるための基礎知識などについて学ぶ。

授業計画

回数	項目及び内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～288	(1) 施設野菜の病害の発生と防除	144	実習	研究所圃場他	研究員
	(2) 施設花きの虫害の発生と防除	144	実習	〃	研究員
	(3) 露地野菜の病害の発生と防除	144	実習	〃	研究員
	(4) 露地花きの虫害の発生と防除	144	実習	〃	研究員

他の科目との関連並びに留意事項

教材	テキスト	参考書
	・静岡県農産物病害虫防除基準（静岡県植物防疫協会） ・写真で見る農作物病害虫診断ガイドブック（静岡県植物防疫協会）	課題に関連した参考文献

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部園芸学科野菜コース　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
特論 （全特論共通）	0	20	10	70	100

評価のポイント
　興味関心の強さ、実践力、考察の深さを重視するため、試験は行なわない。「平成30年度評価基準表について」第3条の「講義中心の科目Ⅱ」を適用する。
　上記項目について、「態度」「技能・レポート」により評価する。
　出席には、当番活動をカウントせず、授業のみカウントする。欠席1コマにつき、0.5点を減点する。遅刻、早退は静岡県立農林大学校授業等に関する規定　第8条第1項による。
　態度には、当番活動を含む。当番の欠席は態度の評価に含む。

授業科目	花き栽培と育種（花き栽培）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科・花きコース	学年・学期	2年・前期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・0.5単位（18単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

主要花きの生産に関する最新の試験研究の情報を解説するとともに、花き栽培の歴史についても言及し、高度で専門的な知識の習得を目指す。

授業計画

回数（月日）	項目及び内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1(4限) 6/15（月）	静岡県における花き生産の特徴	2	講義	第8講義室	研究員
2(4限) 6/30（火）	花き栽培の現状と問題点	2	講義	第8講義室	研究員
3(3限) 7/3（金）	花の開花調節	2	講義	第8講義室	研究員
4(3限) 7/8（水）	切花の日持ち向上技術	2	講義	第8講義室	研究員
5(4限) 7/10（金）	花き栽培における環境制御技術	2	講義	第8講義室	研究員
6(3限) 7/15（水）	県内花き生産の特徴と事例	2	講義	第8講義室	研究員
7(3限) 7/27（月）	花の開花調節の実際	2	講義	第8講義室	研究員
8(4限) 7/29（水）	切花の日持ち向上技術　各論	2	講義	第8講義室	研究員
9 8月	定期試験	2			

3時限目　13:00～14:30
4時限目　14:40～16:10

他の科目との関連並びに留意事項

農林技術研究所敷地内で実際の栽培を見学しながら講義する場合もある。

教材	テキスト 講義ごとにプリント資料を用いる。	参考書

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	野菜栽培と育種、花き栽培と育種（育種）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科 野菜・花きｺｰｽ	学年・学期	2年・前期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・0.5単位（18単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

育種学の基礎と植物育種の基本技術、バイオテクノロジー技術の利用などについて学ぶ。

授業計画

回数（月日）	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1（3限）6/25(火)	育種学総論	育種の基礎知識	2	講義	視聴覚	研究員
2（3限）6/28(金)	育種技術(1)	水稲品種と種子生産技術	2	〃	視聴覚	研究員
3（4限）7/3(金)	育種技術(2)	胚・胚珠培養	2	〃	第1講義室	研究員
4（4限）7/3(水)	育種技術(3)	交配・交雑育種	2	〃	視聴覚	研究員
5（3限）7/9(火)	育種技術(4)	突然変異育種	2	〃	視聴覚	研究員
6（3限）7/16(火)	育種技術(5)	イチゴ育種の実際	2	〃	視聴覚	研究員
7（3限）7/18(木)	育種技術(6)	分子育種の導入	2	〃	視聴覚	研究員
8（3限）7/22(月)	育種技術(7)	遺伝子組換えと編集	2	〃	視聴覚	研究員
9 9月	定期試験					

3時限目（13：00～14：30） 4時間目（14:40～16:10）

他の科目との関連並びに留意事項

教材	テキスト	参考書
	講義に応じてプリント資料を配布する。	

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　園芸学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
花き栽培と育種	80	20		－	100

評価のポイント

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	園芸施設と経営（施設）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科　野菜・花きｺｰｽ	学年・学期	2年・前期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・0.5単位（18単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

園芸施設・機械及び環境制御に関する最新技術について解説し、より高度で専門的な知識の習得を目指す

授業計画

回数（月日）	項目及び内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1（3限）6/29（月）	施設園芸と温室構造（環境制御と省力生産について）	2	講義	視聴覚	研究員
2（3限）7/2（木）	農産物の加工と貯蔵流通	2	講義	視聴覚	研究員
3（4限）7/6（月）	温室の省エネ対策について	2	講義	視聴覚	研究員
4（4限）7/9（木）	農業機械と農作業安全	2	講義	視聴覚	研究員
5（3限）7/14（火）	植物工場について	2	講義	視聴覚	研究員
6（4限）7/20（月）	高度環境制御システムについて	2	講義	視聴覚	研究員
7（4限）7/28（火）	養液栽培について	2	講義	視聴覚	研究員
8（3限）7/31（金）	移植・防除の機械化について	2	講義	視聴覚	研究員
9 8月	定期試験	2			

＊視聴覚：視聴覚ホール、３時間目（13:00～14:30）　４時間目（14:40～16:10）

他の科目との関連並びに留意事項

農林技術研究所内の温室で実際の栽培を見学しながら講義する場合もある。

教材	テキスト	参考書
	講義に応じてプリント資料を配付する。	設園芸ハンドブック（施設園芸ハンドブック）

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	園芸施設と経営（経営）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科 野菜・花きｺｰｽ	学年・学期	2年 前期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・0.5単位（18単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

本講義では、農業経営に関する基礎学習を踏まえ、先進的なビジネス経営と多様な担い手によるマーケティング戦略の潮流について、講義および現地研修により紹介する。

授業計画

回数（月日）	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1 6/29（月）	農業経営収支	農家と農業経営について	2	講義	視聴覚	研究員
2 7/7（火）	農業経営モデルの構築	農家の規模拡大と法人化について	2	講義	視聴覚	研究員
3 7/21（火）	経営の担い手育成	ビジネス経営体の育成支援について	2	講義	視聴覚	研究員
4 7/31（金）	労務管理	農家・法人の労務管理	2	講義	視聴覚	研究員
4～7 8/6（木）	現地視察	静岡県農業の明日を切り開く先進的経営体の視察	8	視察調査	浜松市（予定）	研究員
9	定期試験		2			

視聴覚：視聴覚ホール

他の科目との関連並びに留意事項

本講義は、研究課題に即した県内先進事例を数多く紹介し、受講者が農業経営を独自の視点で考える知識を習得することを目標にしています。

教材	テキスト	参考書 1．静岡県農業水産部：「新しい農業を創る人々 ビジネス経営体100事例－」（1）～（3） 2．静岡県経済産業部：「静岡県経済産業ビジョン」 3．静岡県経済産業部：「静岡県農ビジネス300事例集」

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　園芸学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
園芸施設と経営	80	20		0	100

評価のポイント

養成部　2年　専門科目　共通科目

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	園芸病害虫と土壌肥料（病害虫）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科　野菜・花きｺｰｽ	学年・学期	2年・前期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・0.5単位（18単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

植物防疫に関する事項について概説する。病害虫の発生生態や防除法についての内容が主になる。これ以外に、病害虫発生予察、生物的防除、環境に配慮した病害虫防除に関する内容等、最新の話題についても積極的に取り上げる予定である。

授業計画

回数	項目及び内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1 6/15(月)	病害の発生と伝播	2	講義	第1講義室	研究員
2 6/16(火)	水田の病害	2	〃	第1講義室	研究員
3 6/30(火)	水田の害虫	2	〃	第1講義室	研究員
4 7/1(水)	作物の地下部に発生する病害	2	〃	視聴覚室	研究員
5 7/2(木)	作物の地上部に発生する病害	2	〃	視聴覚室	研究員
6 7/7(火)	花きの虫害と防除法	2	〃	視聴覚室	研究員
7 7/10(金)	施設野菜の虫害と防除法	2	〃	視聴覚室	研究員
8 7/14(火)	露地野菜の虫害と防除法	2	〃	第1講義室	研究員
9 7/21(火)	農薬の種類と特性	2	〃	視聴覚室	研究員
10 7/29(水)	農薬取締法とGAP	2	〃	視聴覚室	研究員
11 8月	定期試験	2	〃		

他の科目との関連並びに留意事項

教材	テキスト	参考書
		・　静岡県農作物病害虫防除基準 （静岡県植物防疫協会） ・　写真で見る農作物病害虫診断ガイドブック （静岡県植物防疫協会）

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	園芸病害虫と土壌肥料（土壌肥料）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科　野菜・花きｺｰｽ	学年・学期	2年・前期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・0.5単位（18単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

土壌肥料の基礎から最新の事例まで学び、学生自らが土壌肥料の問題を解決できる力を養う。

授業計画

回数（月日）	項目及び内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1 7/6(月) 3時限目	有機物を活用した土壌管理技術	2	講義	第1講義室	研究員
2 7/9(木) 3時限目	土壌診断と環境に配慮した施肥技術	2	〃	視聴覚教室	研究員
3 7/13(月) 4時限目	県内農耕地土壌の特徴と土づくり	2	〃	視聴覚教室	研究員
4 7/20(月) 3時限目	肥料の種類と施用方法	2	〃	第1講義室	研究員
5 7/28(月) 3時限目	生理障害の原因と対策	2	〃	視聴覚教室	研究員
6 7/30(木) 4時限目	作物に合わせた効率的施肥技術	2	〃	視聴覚教室	研究員
7 8月	定期試験	2			

他の科目との関連並びに留意事項：　プロジェクタを用い講義を行う。

教材	テキスト	参考書　静岡県土壌肥料ハンドブック

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　園芸学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
園芸病害虫と土壌肥料	80	20		－	100

評価のポイント

授業科目	農業経営研究講座		
担当者	園芸2年生担当者		
開講学科	園芸学科	学年・学期	2年・前期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・1単位（36単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

市場での流通の仕組みや、県内の先進的な野菜・花きの経営事例を学び、就農後の経営に役立つ生産・流通上の実践知識を習得するとともに、就農5年後を想定した経営計画を策定する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～18	先進経営体、市場の仕組みと運営	・青果市場及び花き市場の仕組み ・生産法人等の生産実態	12	現地視察	現地	園芸2年生担当者、
	生産・流通上の新しい動き	・農業経営の原理 ・生産段階及び流通段階における新しい取組み	12	現地視察	現地	園芸2年生担当者、
	経営計画の策定と発表	・300万円以上の所得を得るための農業経営計画の策定 ・計画の発表	12	演習	教室	園芸2年生担当者、

他の科目との関連並びに留意事項

なし

教材	テキスト	参考書
	なし	なし

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部園芸学科　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
農業経営研究講座	0	20	10	70	100

評価のポイント
興味関心の強さ、実践力、考察の深さを重視するため、試験は行なわない。「講義中心の科目Ⅱ」を適用する。
上記項目について、「態度」「技能・レポート（発表会の内容等）」により評価する。

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	大型機械		
担当者	山本千晶　鈴木鉄夫　鈴木利雄		
開講学科	園芸・茶業・果樹・畜産	学年・学期	2年　前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・2単位(72単位時間)	免許・資格との関係	大特(農耕)取得を目指す

授業内容

大型乗用トラクターの運転操作、点検保守管理及び各種作業機の取扱いの技能とトラクターの構造と機能の知識、及び農作業安全について習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	トラクターの機能と基本操作Ⅰ	トラクター概論、各部の構造と機能	4	講義	講義室	鈴木利雄
2	トラクターの機能と基本操作Ⅱ	各部の構造と機能、基本作業と耕法・機械化作業体系(作業機)	4	講義	講義室	鈴木利雄
3	トラクターの機能と基本操作Ⅲ	燃料と潤滑油、各種工具の使用方法	4	講義	講義室	鈴木利雄
4	農作業安全	農作業事故を起こさないために注意すること	4	講義	講義室	山本他
5	仕業点検と保守管理	トラクターの点検方法	8	実習	格納庫	鈴木鉄夫他
6	作業機の着脱・調整	ロータリ・プラウの着脱・調整	4	実習	格納庫	鈴木鉄夫他
7	耕耘整地方法	ロータリ・プラウによる耕耘	4	実習	圃場	鈴木鉄夫他
8	コース走行練習	道路交通法による運転操作	30	実習	コース	山本他
9	成績評価試験	学科と仕業点検の試験	4	試験	講義室格納庫	山本他
10	運転免許試験	大特(農耕)の運転免許試験	4	実習	コース	山本他
11	免許即日交付手続き	免許の作成、公道走行の注意事項	2	講義	西部運転免許センター	山本他

他の科目との関連並びに留意事項

普通免許を未取得の場合、大特(農耕)の運転免許試験を受験できないため、本授業が開始される前に、普通免許を必ず取得しておくこと。

教材	テキスト	参考書
	「トラクターの機能と基本操作（改訂版）」 編著者：全国農業機械化研修連絡会 発行所：一般社団法人　日本農業機械化協会	

令和2年度　授業評価基準

学部・学科・コース　養成部（園芸、畜産、林業、茶業、果樹）　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
大型機械	70	15	15	0	100

評価のポイント
・試験、出席、態度により評価する。試験は学科及び実技（仕業点検）を実施する。
・学科試験は100点満点で採点し、5割未満は再試を行う。再試は同一問題で行い7割5分以上を合格とする。再試合格の評価は50点、不合格は不可とする。
・実技試験は100点満点で採点し、5割未満は再試を行う。再試は同一問題で行い7割5分以上を合格とする。再試合格の評価は50点、不合格は不可とする。
・出席点は15点満点で出席コマ数により計算する。遅刻早退はその割合により減点する。
・態度点は授業態度（講義・実習）により採点する。無断欠席1日につき5点減点する。

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	園芸流通		
担当者	萩原、園芸２年担当者		
開講学科	園芸学科　野菜・花きｺｰｽ	学年・学期	２年・前期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・１単位（36 単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

野菜・花き類の市場流通の仕組みや、小売店段階での消費動向を調査するとともに、小売段階での販売戦略事例を調査し、農産物の流通の実際を学ぶ。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～2	調査	調査場所の選定 調査地の概要調査 視察先のアポイント	4	講義 調査	講義室	萩原、園芸２年担当者
3～16	卸売市場の役割と機能	青果市場及び生花市場の仕組みと役割 市場の機能と新しい動き 流通側からの生産者への意見	28	視察研修 調査	現地	萩原、園芸２年担当者
	小売店における消費動向	小売店における消費動向の変化 消費からの生産者への意見 小売店の販売戦略		視察研修 調査	現地	萩原、園芸２年担当者
	農産物の消費動向	流通・消費の最近の動向 地域特有の流通・消費動向		視察研修 調査	現地	萩原、園芸２年担当者
	生産技術の動向	植物工場の現状 最新技術の動向と課題		調査 視察研修	現地	萩原、園芸２年担当者
17～18	調査報告	調査報告書の作成及び発表	4	発表	視聴覚ホール	萩原、園芸２年担当者

他の科目との関連並びに留意事項

なし

教材	テキスト	参考書
	なし	なし

令和2年度　授業評価基準

学部・学科・コース　養成部園芸学科　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
園芸流通		20	10	70	100

評価のポイント
班別小売店等調査活動、個人レポート評価による評価を重視する。
態度には、研修中の態度、報告会の内容を加味する。

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	花き栽培特論（鉢物）		
担当者	萩原		
開講学科	園芸学科花きコース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・16単位（576単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

栽培管理の実習等を通して、主要な鉢花、花壇苗などの栽培技術、主要な病害虫防除対策と経営の考え方、複合環境制御の方法、省力技術などについて習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～288	施設栽培一般と経営管理	花き経営の考え方 複合環境制御方法と維持修理 農業機械・器具の利用方法及び操作方法 花きの病害虫防除	40	実習 講義	ほ場 現場教室	担任
	花壇苗の栽培	は種と鉢上げ かん水と温度管理 摘心の方法 施肥管理 出荷調整の方法	248	実習 講義	ほ場 現場教室	担任
	鉢花の栽培	は種と鉢上げ 底面給水とその特徴 生育調節剤の利用 施肥管理 出荷調整の方法	140	実習 講義	ほ場 現場教室	担任
	観葉植物の栽培	挿し木の方法 鉢上げとかん水 施肥管理 整枝及び仕立て方法、利用方法	68	実習 講義	ほ場 現場教室	担任
	洋ランの栽培	ファレノプシスの交配、無菌は種、培養、鉢上げ 施肥管理 出荷調整の方法	80	実習 講義	ほ場 現場教室	担任

他の科目との関連並びに留意事項

卒業論文

教材	テキスト なし	参考書 「鉢物栽培技術マニュアル」誠文堂新光社 「農業技術体系（花き編）」農文協　他

令和2年度農林大学校シラバス

授　業　科　目	花き栽培特論（切花）		
担　当　者	名越		
開　講　学　科	園芸学科　花きコース	学年・学期	2年　前後期
必選の別・単位数(単位時間)	選択必須・16単位(576単位時間)	免許・資格との関係	なし

授業内容

バラ、カーネーション、トルコギキョウ等の切花類の栽培管理に関する実習を行いながら、県内の主要な切花の栽培技術と経営の考え方、環境制御方法、病害虫防除対策、切花の鮮度保持技術等について習得する。

授業計画

回数	項目	内　容	時間	授業方法	実施場所	講師
1 ～ 45	施設栽培一般と経営管理	花き経営の考え方 環境とその制御 機械、器具の利用 花きの病害虫防除、除草管理	90	実習 講義	ほ場 現場教室	担当
46 ～ 115	バラの栽培	整枝、剪定、施肥、かん水管理 温度管理、収穫、調整 養液栽培の管理	140	実習 講義	ほ場 現場教室	担当
116 ～ 160	カーネーションの隔離ベッド栽培	定植、仕立て管理 施肥、かん水管理 温度管理　　収穫、調整	90	実習 講義	ほ場 現場教室	担当
161 ～ 213	トルコギキョウの栽培	は種、育苗管理 定植、仕立て管理 施肥、かん水管理 温度管理　　収穫、調整	106	実習 講義	ほ場 現場教室	担当
214 ～ 253	ガーベラの養液栽培	培地作成 定植、葉かき管理 施肥・かん水　培養液管理 温度管理　　収穫、調整	80	実習 講義	ほ場 現場教室	担当
254 ～ 278	特産花き及び有望花きの栽培	特産花きの栽培：ｷﾝｷﾞｮｿｳ、葉物　他	50	実習 講義	ほ場 現場教室	担当
279 ～ 288	校外学習	県内外の先進経営体や花き振興事業の視察・調査	20	視察実習 講義	現地 現場教室	先進経営体他担当
計			576			

他の科目との関連並びに留意事項

卒業論文

教材	テキスト なし	参考書 花き概論Ⅰ・Ⅱで用いたテキスト・参考書 農業技術体系（花き編）農文協　他

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	花き生産技術特論（育種）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科	学年・学期	2年　前・後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・16単位（576単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

育種学の基礎と植物育種の基本技術、バイオテクノロジー技術の利用などについて学ぶ。

授業計画

回数	項目及び内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～288	(1) 野菜、花きの育種・栽培技術	176	実習	研究所圃場他	研究員
	(2) 培地の調製方法と実験器具の使用方法	100	実習	〃	研究員
	(3) 植物組織培養技術	100	実習	〃	研究員
	(4) 放射線育種	100	実習	〃	研究員
	(5) 遺伝子導入技術、DNAマーカー	100	実習	〃	研究員

他の科目との関連並びに留意事項

教材	テキスト	参考書

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目	農業ロボット経営戦略特論		
担 当 者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科	学年・学期	２学年　前・後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・16単位（576単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

経営についての資料や文献の解析、現地調査などを行うことで、農業経営についての知識と技術を習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～288		(1) ビジネス経営体育成モデル	144	実習	研究所	研究員
		(2) 農産物流通とマーケティング	144	実習	研究所	研究員
		(3) 機械導入による農作業の効率化	144	実習	研究所	研究員
		(4) 開発した技術の経営的評価	144	実習	研究所	研究員
		(5) 移動運搬ロボットの開発	144	実習	研究所	研究員

他の科目との関連並びに留意事項

教材	テキスト	参考書

授業科目名	加工技術特論		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・16単位（576単位時間）	免許・資格との関係	な し

授業内容

野菜、果物の生産・加工・流通段階での品質管理技術、品質評価法および加工法について実習を行い習得する。

授業計画　（５７６時間）

	教育内容	時期	教育方法	担当者
(1)	野菜、果物の品質管理法	４～２月	実習・ゼミ	研究員
(2)	野菜、果物の品質評価技術	４～２月	実習・ゼミ	研究員
(3)	野菜、果物の加工法	４～２月	実習・ゼミ	研究員

他の科目との関連並びに留意事項

農林技術研究所内以外にも、現地のほ場、加工、貯蔵施設等で調査する場合もある。

教材	テキスト	参考書
	特になし	講義内容に関連する参考文献等

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	植物保護環境保全特論（植物保護）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科	学年・学期	2年 前・後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・16単位（576単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

植物保護に関する実験技術、研究課題に即した技術、及び環境保全型農業を進めるための基礎知識などについて学ぶ。

授業計画

回数	項目及び内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～288	(1) 施設野菜の病害の発生と防除	144	実習	研究所圃場他	研究員
	(2) 施設花きの虫害の発生と防除	144	実習	〃	研究員
	(3) 露地野菜の病害の発生と防除	144	実習	〃	研究員
	(4) 露地花きの虫害の発生と防除	144	実習	〃	研究員

他の科目との関連並びに留意事項

教材	テキスト ・静岡県農産物病害虫防除基準 （静岡県植物防疫協会） ・写真で見る農作物病害虫診断ガイドブック （静岡県植物防疫協会）	参考書 課題に関連した参考文献

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部園芸学科花きコース　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
特論 （全特論共通）	0	20	10	70	100

評価のポイント
興味関心の強さ、実践力、考察の深さを重視するため、試験は行なわない。「講義中心の科目Ⅱ」を適用する。
上記項目について、「態度」「技能・レポート」により評価する。
出席には、当番活動をカウントせず、授業のみカウントする。欠席1コマにつき、0.5点を減点する。遅刻、早退は静岡県立農林大学校授業等に関する規定　第8条第1項による。
態度には、当番活動を含む。当番の欠席は態度の評価に含む。

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	果樹育種		
担当者	山崎俊弘、農林技術研究所研究員		
開講学科	果樹学科	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・１単位（３６単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

まず、花器及び果実の発生、果実の形態、植物の遺伝と育種などカンキツの育種を学ぶうえでの基礎について講義し、その後、カンキツの育種の具体的方法や今日に至るまでの育種の経過について解説する。

また、バイオテクノロジーなどの最先端の育種技術についても、これらの研究を手がける研究者自らにより紹介する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	柑橘	花器及び果実の発生１	2	講義･実習	教室・圃場等	研究員
2	柑橘	花器及び果実の発生２	2	講義･実習	教室・圃場等	研究員
3	柑橘	花器及び果実の発生３	2	講義･実習	教室・圃場等	研究員
4	柑橘	果実の形態１	2	講義･実習	教室・圃場等	研究員
5	柑橘	果実の形態２	2	講義･実習	教室・圃場等	研究員
6	柑橘	果実の形態３	2	講義･実習	教室・圃場等	研究員
7	柑橘	植物の遺伝と育種１	2	講義･実習	教室・圃場等	研究員
8	柑橘	植物の遺伝と育種２	2	講義･実習	教室・圃場等	研究員
9	柑橘	植物の遺伝と育種３	2	講義･実習	教室・圃場等	研究員
10	柑橘	柑橘の育種１	2	講義･実習	教室・圃場等	研究員
11	柑橘	柑橘の育種２	2	講義･実習	教室・圃場等	研究員
12	柑橘	柑橘の育種３	2	講義･実習	教室・圃場等	研究員
13	柑橘	柑橘の種類・品種とその特性１	2	講義･実習	教室・圃場等	研究員
14	柑橘	柑橘の種類・品種とその特性２	2	講義･実習	教室・圃場等	研究員
15	柑橘	柑橘の繁殖方法	2	実習	教室・圃場	研究員
16	柑橘	植物組織培養法１	2	講義	教室	研究員
17	柑橘	植物組織培養法２	2	講義	教室	研究員
18	総合	柑橘育種に関する事項	2	試験	教室	山崎
	計		３６			

他の科目との関連並びに留意事項

評価は、定期試験の他、出席率、実習等受講態度、レポート作成等も考慮する。

教材	テキスト	参考書
	果樹園芸学の基礎 （伴野潔・山田寿他：農文協）	月刊誌「柑橘」（経済連みかん園芸部）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部果樹学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
果樹育種	50	10	10	30	100

評価のポイント
出席の評価は1回欠席につき3点減点、遅刻・早退1回につき1点減点。態度の評価は、良（減点なし）～不良（10点減点）で評価。講義6コマ、視察2コマ、実習9コマ、試験1コマ　計18コマ（単位数　1）

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	果樹栽培		
担当者	山崎俊弘、農林技術研究所研究員		
開講学科	果樹学科	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・２単位（７２単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

カンキツ・落葉果樹の発育生態、結実管理法、気象とカンキツ・落葉果樹の生態との関係など、カンキツ・落葉果樹を栽培するうえでの基礎を学ぶとともに、高品質安定生産を実践するにあたり有効と考えられる先端技術について修得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	柑橘	カンキツの発育生態１	4	講義・実習	教室・圃場等	研究員
2	柑橘	カンキツの発育生態２	4	講義・実習	教室・圃場等	研究員
3	柑橘	カンキツの結実管理法１	4	講義・実習	教室・圃場等	研究員
4	柑橘	カンキツの結実管理法２	4	講義・実習	教室・圃場等	研究員
5	柑橘	気象とカンキツの生態変化１	4	講義・実習	教室・圃場等	研究員
6	柑橘	気象とカンキツの生態変化２	4	講義・実習	教室・圃場等	研究員
7	柑橘	カンキツの高品質生産技術１	4	視察等	現場	研究員
8	柑橘	カンキツの高品質生産技術２	4	視察等	現場	研究員
9	落葉果樹	落葉果樹栽培の基礎	4	講義・実習	教室・圃場等	研究員
10	落葉果樹	落葉果樹の結実管理法１	4	講義・実習	教室・圃場等	研究員
11	落葉果樹	落葉果樹の結実管理法２	4	講義・実習	教室・圃場等	研究員
12	落葉果樹	落葉果樹の高品質生産技術１	4	視察等	現場	山崎
13	落葉果樹	落葉果樹の高品質生産技術２	4	視察等	現場	山崎
14	落葉果樹	気象と落葉果樹の発育生態	4	講義	教室	研究員
15	柿	落葉果樹の剪定技術１	4	実習	圃場等	研究員 山崎
16	梨	落葉果樹の剪定技術２	4	実習	圃場等	研究員 山崎
17	柑橘	カンキツの剪定技術	4	実習	圃場等	研究員 山崎
18	総合	栽培に関する事項	4	試験	教室	山崎
	計		７２			

他の科目との関連並びに留意事項

評価は、定期試験の他、出席率、実習等受講態度、レポート作成等も考慮する。

教材	テキスト	参考書
	果樹園芸学の基礎 （伴野潔・山田寿他：農文協）	月刊誌「柑橘」（経済連みかん園芸部）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部果樹学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
果樹栽培	50	10	10	30	100

評価のポイント
出席の評価は1回欠席につき3点減点、遅刻・早退1回につき1点減点。態度の評価は、良（減点なし）～不良（10点減点）で評価。講義15コマ、視察8コマ、実習11コマ、試験2コマ　計36コマ（単位数　2）

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	果樹土壌肥料		
担当者	山崎俊弘、農林技術研究所研究員		
開講学科	果樹学科	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・１単位（３６単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

果樹園における土壌の特性と果樹の養分吸収の特性に基づき適正な施肥の方法や土壌の管理方法について解説する。

また、実用場面で重要な樹体の栄養診断やその判定ならびに対処方法について修得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	柑橘	果樹園の土壌管理法１	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
2	柑橘	果樹園の土壌管理法２	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
3	柑橘	果樹園の土壌管理法３	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
4	柑橘	果樹園の土壌管理法４	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
5	柑橘	果樹園の土壌管理法５	2	視察等	現場	山崎
6	柑橘	果樹園の土壌管理法６	2	視察等	現場	山崎
7	柑橘	果樹園の施肥法１	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
8	柑橘	果樹園の施肥法２	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
9	柑橘	果樹園の施肥法３	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
10	柑橘	果樹園の施肥法４	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
11	柑橘	果樹園の施肥法５	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
12	柑橘	果樹園の施肥法６	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
13	柑橘	果樹の栄養生理と診断１	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
14	柑橘	果樹の栄養生理と診断２	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
15	柑橘	果樹の栄養生理と診断３	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
16	柑橘	果樹の栄養生理と診断４	2	実習	実験室	研究員
17	柑橘	果樹の栄養生理と診断５	2	実習	実験室	研究員
18	総合	柑橘土壌肥料に関する事項	2	試験	教室	山崎
	計		３６			

他の科目との関連並びに留意事項

評価は、定期試験の他、出席率、実習等受講態度、レポート作成等も考慮する。

教材	テキスト	参考書
	果樹園芸学の基礎 （伴野潔・山田寿他：農文協）	静岡県土壌肥料ハンドブック 月刊誌「柑橘」（経済連みかん園芸部）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部果樹学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
果樹土壌肥料	50	10	10	30	100

評価のポイント
出席の評価は1回欠席につき3点減点、遅刻・早退1回につき1点減点。態度の評価は、良（減点なし）～不良（10点減点）で評価。講義6コマ、視察4コマ、実習7コマ、試験1コマ　計18コマ（単位数　1）

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	果樹病害虫		
担当者	山崎俊弘、農林技術研究所研究員		
開講学科	果樹学科	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・１単位（３６単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

果樹の病害ならびに害虫の生態を学び、その特徴を踏まえたうえで最も有効な防除方法について修得する。

また、近年高まりを見せている環境保全型農業について、農薬の使用量の削減を目指した天敵を中心とした総合防除体系について解説する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	柑橘	果樹病害虫の生態と防除１	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
2	柑橘	果樹病害虫の生態と防除２	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
3	柑橘	果樹病害虫の生態と防除３	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
4	柑橘	果樹病害虫の生態と防除４	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
5	柑橘	果樹病害虫防除方法の特徴５	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
6	柑橘	果樹病害虫防除方法の特徴６	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
7	柑橘	果樹病害虫防除方法の特徴１	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
8	柑橘	果樹病害虫防除方法の特徴２	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
9	柑橘	果樹病害虫防除方法の特徴３	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
10	柑橘	果樹病害虫防除方法の特徴４	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
11	柑橘	果樹病害虫防除方法の特徴５	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
12	柑橘	果樹病害虫防除方法の特徴６	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
13	柑橘	果樹害虫防除の生物防除法１	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
14	柑橘	果樹害虫防除の生物防除法２	2	実習	実験室	研究員
15	柑橘	果樹害虫防除の生物防除法３	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
16	柑橘	果樹害虫防除の生物防除法４	2	実習	実験室	研究員
17	柑橘	果樹害虫防除の生物防除法５	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
18	総合	柑橘病害虫に関する事項	2	試験	教室	山崎
	計		３６			

他の科目との関連並びに留意事項

評価は、定期試験の他、出席率、実習等受講態度、レポート作成等も考慮する。

教材	テキスト	参考書
	カンキツ病害虫防除暦と指導要領（経済連みかん園芸部）	写真で見る農作物病害虫診断ガイドブック改訂版 月刊誌「柑橘」（経済連みかん園芸部）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部果樹学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
果樹病害虫	50	10	10	30	100

評価のポイント
出席の評価は1回欠席につき3点減点、遅刻・早退1回につき1点減点。態度の評価は、良（減点なし）～不良（10点減点）で評価。講義12コマ、実習5コマ、試験1コマ　計　18コマ（単位数　1）

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	果樹施設環境生理		
担当者	山崎俊弘、農林技術研究所研究員		
開講学科	果樹学科	学年・学期	２年・後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・１単位（３６単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

講義ならびに産地視察を通し、今日に至るまでの果樹の施設栽培の経過と現状について技術ならびに経営的な支店から解説する。

また、果実の貯蔵技術については、果実の生理に基づいた適正な貯蔵方法について具体的な事例を通して解説する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	柑橘	カンキツの施設栽培１	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
2	柑橘	カンキツの施設栽培２	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
3	柑橘	カンキツの施設栽培３	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
4	柑橘	カンキツの施設栽培４	2	視察	現場	研究員
5	柑橘	カンキツの施設栽培５	2	視察	現場	研究員
6	柑橘	カンキツの施設栽培６	2	視察	現場	山崎
7	柑橘	カンキツの施設栽培７	2	視察	現場	山崎
8	柑橘	果樹の貯蔵技術１	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
9	柑橘	果樹の貯蔵技術２	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
10	柑橘	果樹の貯蔵技術３	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
11	柑橘	果樹の貯蔵技術４	2	講義・実習	教室・圃場等	研究員
12	柑橘	果樹の貯蔵技術５	2	視察	現場	山崎
13	柑橘	果樹の貯蔵技術６	2	視察	現場	山崎
14	柑橘	果樹の貯蔵技術７	2	視察	現場	山崎
15	柑橘	施設栽培果樹産地の視察研修１	2	視察	現場	山崎
16	柑橘	施設栽培果樹産地の視察研修２	2	視察	現場	山崎
17	柑橘	施設栽培果樹産地の視察研修３	2	視察	現場	山崎
18	総合	施設・貯蔵に関する事項	2	試験	教室	山崎
	計		３６			

他の科目との関連並びに留意事項

評価は、定期試験の他、出席率、研修等受講態度、レポート作成等も考慮する。

教材	テキスト	参考書
	果樹園芸学の基礎 （伴野潔・山田寿他：農文協）	月刊誌「柑橘」（経済連みかん園芸部）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部果樹学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
果樹施設環境生理	30	10	10	50	100

評価のポイント
出席の評価は1回欠席につき3点減点、遅刻・早退1回につき1点減点。態度の評価は、良（減点なし）～不良（10点減点）で評価。技能レポートの評価は、良（減点なし）～不良（10点）とし、無提出は0点。
講義3コマ、視察8コマ、実習6コマ、試験1コマ　計18コマ　（単位数　1）

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	果樹経営		
担当者	山崎俊弘、農林技術研究所研究員		
開講学科	果樹学科	学年・学期	２年・後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・１単位（３６単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

果樹経営の特徴について種々の統計数字によって明らかにするとともに、今後、果樹経営を進める上での課題について言及する。

また、果樹研究センター落葉果樹研究拠点ならびに伊豆農業研究センターなどの実習を通じて果樹産地や果樹産業を取り巻く環境について情報収集を行う。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	果樹全般	果樹生産と消費動向１	2	講義･現場	教室	研究員
2	果樹全般	果樹生産と消費動向２	2	講義･現場	教室	研究員
3	果樹全般	果樹経営の特徴と今後の課題１	2	講義･現場	教室	研究員
4	果樹全般	果樹経営の特徴と今後の課題２	2	講義･現場	教室	研究員
5	柑橘	中部地域の柑橘生産１	2	視察	現場	研究員
6	柑橘	中部地域の柑橘生産２	2	視察	現場	研究員
7	柑橘	伊豆地域の柑橘生産１	2	実習	現地	山崎
8	柑橘	伊豆地域の柑橘生産２	2	実習	現地	山崎
9	柑橘	伊豆地域の柑橘生産３	2	実習	現地	山崎
10	柑橘	伊豆地域の柑橘生産４	2	実習	現地	山崎
11	柑橘	伊豆地域の柑橘生産５	2	実習	現地	山崎
12	柑橘	西部地域の柑橘生産１	2	研修	現地	山崎
13	柑橘	西部地域の柑橘生産２	2	研修	現地	山崎
14	柑橘	西部地域の柑橘生産３	2	研修	現地	山崎
15	柑橘	西部地域の柑橘生産４	2	研修	現地	山崎
16	落葉果樹	落葉果樹の収穫と商品化１	2	実習	現地	山崎
17	落葉果樹	落葉果樹の収穫と商品化２	2	実習	現地	山崎
18	総合	果樹経営に関する事項	2	試験	教室	山崎
	計		３６			

他の科目との関連並びに留意事項

評価は、定期試験の他、出席率、実習等受講態度、レポート作成等も考慮する。

教材	テキスト	参考書
	静岡県果樹園芸の生産と流通（静岡県） 担当者作成によるテキスト	果樹園芸学の基礎 （伴野潔・山田寿他：農文協） 月刊誌「柑橘」（経済連みかん園芸部）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部果樹学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
果樹経営	30	10	10	50	100

評価のポイント
出席の評価は1回欠席につき3点減点、遅刻・早退1回につき1点減点。態度の評価は、良（減点なし）～不良（10点減点）で評価。技能レポートの評価は、良（減点なし）～不良（10点）とし、無提出は0点。
講義3コマ、視察14コマ、試験1コマ　計18コマ　（単位数　1）

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	果樹経営分析		
担当者	山崎俊弘		
開講学科	果樹学科	学年・学期	２年・前期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・１単位（３６単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

果樹経営を展開するうえで、基本となる経営管理方法ならびに経営分析方法について、県の技術原単位等を用いた演習を通じて修得する。

また、優良な果樹経営事例を通して、経営者として必要な視点や考え方について学ぶ。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	果樹全般	経営分析の手法１	2	演習	教室	山崎
2	果樹全般	経営分析の手法２	2	演習	教室	山崎
3	果樹全般	経営分析の手法３	2	演習	教室	山崎
4	果樹全般	果樹経営分析の手法１	2	演習	現場	山崎
5	果樹全般	果樹経営分析の手法２	2	演習	現場	山崎
6	果樹全般	果樹経営分析の手法３	2	演習	現場	山崎
7	果樹全般	果樹経営分析の手法４	2	演習	現場	山崎
8	果樹全般	果樹経営分析の手法５	2	演習	現場	山崎
9	果樹全般	果樹経営分析の手法６	2	演習	現場	山崎
10	果樹全般	果樹経営分析の手法７	2	演習	現場	山崎
11	果樹全般	果樹産地の優良事例調査１	2	視察	現場	山崎
12	果樹全般	果樹産地の優良事例調査２	2	視察	現場	山崎
13	果樹全般	果樹産地の優良事例調査３	2	視察	現場	山崎
14	果樹全般	果樹産地の優良事例調査４	2	視察	現場	山崎
15	果樹全般	果樹産地の優良事例調査５	2	視察	現場	山崎
16	果樹全般	果樹産地の優良事例調査６	2	視察	現場	山崎
17	果樹全般	果樹産地の優良事例調査７	2	視察	現場	山崎
18	総合	経営分析に関する事項	2	試験	教室	山崎
	計		３６			

他の科目との関連並びに留意事項

評価は、定期試験の他、出席率、演習等受講態度、レポート作成等も考慮する。

教材	テキスト	参考書
	静岡県技術原単位 担当者作成によるテキスト	果樹園芸学の基礎 （伴野潔・山田寿他：農文協） 月刊誌「柑橘」（経済連みかん園芸部）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部果樹学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
果樹経営分析	30	10	10	50	100

評価のポイント
出席の評価は1回欠席につき3点減点、遅刻・早退1回につき1点減点。
態度の評価は、良（減点なし）～不良（10点減点）で評価。技能レポートの評価は、良（減点なし）～不良（10点）とし、無提出は0点。
講義3コマ、視察14コマ、試験1コマ　計18コマ　（単位数　1）

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	果樹流通加工		
担当者	山崎俊弘		
開講学科	果樹学科	学年・学期	２年・後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・１単位（３６単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

果樹の流通・加工の現状について、講義や現地視察研修を通して理解を深めるとともに、今後の課題について言及する。

また、鮮度の高い情報を得るため、現場の最前線（市場）で活躍する人の現地講義も行う。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	果樹全般	青果物の流通・消費の動向１	2	講義	教室	山崎
2	果樹全般	青果物の流通・消費の動向２	2	講義	教室	山崎
3	果樹全般	青果物の流通・消費の動向３	2	講義	教室	山崎
4	果樹全般	青果物の流通・消費の動向４	2	視察	現地	山崎
5	果樹全般	果実の加工について１	2	実習	現場	山崎
6	果樹全般	果実の加工について２	2	視察	現地	山崎
7	果樹全般	果実の加工について３	2	視察	現地	山崎
8	果樹全般	果実の加工について４	2	視察	現地	山崎
9	果樹全般	果実の加工について５	2	視察	現地	山崎
10	果樹全般	果実の加工について６	2	視察	現地	山崎
11	果樹全般	果実の加工について７	2	視察	現地	山崎
12	果樹全般	果実加工の現状と課題１	2	視察	現地	山崎
13	果樹全般	果実加工の現状と課題２	2	視察	現地	山崎
14	果樹全般	果実加工の現状と課題３	2	視察	現地	山崎
15	果樹全般	果実加工の現状と課題４	2	視察	現地	山崎
16	果樹全般	果実加工の現状と課題５	2	視察	現地	山崎
17	果樹全般	果実加工の現状と課題６	2	視察	現地	山崎
18	総合	流通・加工に関する事項	2	試験	教室	山崎
	計		３６			

他の科目との関連並びに留意事項

評価は、定期試験の他、出席率、研修等受講態度、レポート作成等も考慮する。

教材	テキスト	参考書
	担当者作成によるテキスト	月刊誌「柑橘」（経済連みかん園芸部）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部果樹学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
果樹流通加工	30	10	10	50	100

評価のポイント
出席の評価は1回欠席につき3点減点、遅刻・早退1回につき1点減点。態度の評価は、良（減点なし）～不良（10点減点）で評価。技能レポートの評価は、良（減点なし）～不良（10点）とし、無提出は0点。
講義3コマ、視察12コマ、実習2コマ、試験1コマ　計18コマ　（単位数　1）

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	大型機械		
担当者	山本千晶　鈴木鉄夫　鈴木利雄		
開講学科	園芸・茶業・果樹・畜産	学年・学期	2年　前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・2単位(72単位時間)	免許・資格との関係	大特(農耕)取得を目指す

授業内容

大型乗用トラクターの運転操作、点検保守管理及び各種作業機の取扱いの技能とトラクターの構造と機能の知識、及び農作業安全について習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	トラクターの機能と基本操作Ⅰ	トラクター概論、各部の構造と機能	4	講義	講義室	鈴木利雄
2	トラクターの機能と基本操作Ⅱ	各部の構造と機能、基本作業と耕法・機械化作業体系(作業機)	4	講義	講義室	鈴木利雄
3	トラクターの機能と基本操作Ⅲ	燃料と潤滑油、各種工具の使用方法	4	講義	講義室	鈴木利雄
4	農作業安全	農作業事故を起こさないために注意すること	4	講義	講義室	山本他
5	仕業点検と保守管理	トラクターの点検方法	8	実習	格納庫	鈴木鉄夫他
6	作業機の着脱・調整	ロータリ・プラウの着脱・調整	4	実習	格納庫	鈴木鉄夫他
7	耕耘整地方法	ロータリ・プラウによる耕耘	4	実習	圃場	鈴木鉄夫他
8	コース走行練習	道路交通法による運転操作	30	実習	コース	山本他
9	成績評価試験	学科と仕業点検の試験	4	試験	講義室格納庫	山本他
10	運転免許試験	大特(農耕)の運転免許試験	4	実習	コース	山本他
11	免許即日交付手続き	免許の作成、公道走行の注意事項	2	講義	西部運転免許センター	山本他

他の科目との関連並びに留意事項

普通免許を未取得の場合、大特(農耕)の運転免許試験を受験できないため、本授業が開始される前に、普通免許を必ず取得しておくこと。

教材	テキスト 「トラクターの機能と基本操作（改訂版）」 編著者：全国農業機械化研修連絡会 発行所：一般社団法人　日本農業機械化協会	参考書

令和2年度　授業評価基準

学部・学科・コース　養成部（園芸、畜産、林業、茶業、果樹）　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
大型機械	70	15	15	0	100

評価のポイント
・試験、出席、態度により評価する。試験は学科及び実技（仕業点検）を実施する。
・学科試験は100点満点で採点し、5割未満は再試を行う。再試は同一問題で行い7割5分以上を合格とする。再試合格の評価は50点、不合格は不可とする。
・実技試験は100点満点で採点し、5割未満は再試を行う。再試は同一問題で行い7割5分以上を合格とする。再試合格の評価は50点、不合格は不可とする。
・出席点は15点満点で出席コマ数により計算する。遅刻早退はその割合により減点する。
・態度点は授業態度（講義・実習）により採点する。無断欠席1日につき5点減点する。

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	品種特論		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	果樹学科	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択・１２単位（４３２単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

卒業論文のテーマを中心に、研究室が取り組んでいる研究課題全般について、調査・分析補助を行うことにより学習する。また、研究室が管理するフィールドワークに積極的に参加し、果樹栽培を実践する上での基礎技術・知識を習得する。

果樹品種特論では、結実している樹の管理・調査を行うことにより、その樹の栽培特性を把握するとともに、果実の収穫・分析・試食を行うことにより果実特性を把握することを基本としている。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	柑橘	柑橘新品種の特性１	24	実習	研究室	研究員
2	柑橘	柑橘新品種の特性２	24	実習	研究室	研究員
3	柑橘	柑橘新品種の特性３	24	実習	研究室	研究員
4	柑橘	柑橘新品種の特性４	24	実習	研究室	研究員
5	柑橘	柑橘新品種の特性５	24	実習	研究室	研究員
6	柑橘	柑橘台木の特性１	24	実習	圃場	研究員
7	柑橘	柑橘台木の特性２	24	実習	圃場	研究員
8	柑橘	柑橘台木の特性３	24	実習	圃場	研究員
9	柑橘	柑橘台木の特性４	24	実習	圃場	研究員
10	柑橘	柑橘台木の特性５	24	実習	圃場	研究員
11	柑橘	市場流通果実の特性調査１	24	実習	実験室	研究員
12	柑橘	市場流通果実の特性調査２	24	実習	実験室	研究員
13	柑橘	市場流通果実の特性調査３	24	実習	実験室	研究員
14	柑橘	市場流通果実の特性調査４	24	実習	実験室	研究員
15	柑橘	柑橘の組織培養個体の特性調査１	24	実習	実験室	研究員
16	柑橘	柑橘の組織培養個体の特性調査２	24	実習	実験室	研究員
17	柑橘	柑橘の組織培養個体の特性調査３	24	実習	実験室	研究員
18	柑橘	柑橘の組織培養個体の特性調査４	24	実習	実験室	研究員
	計		432			

他の科目との関連並びに留意事項

評価は、出席率や実習受講態度、技能を中心に行う。

教材	テキスト	参考書
	静岡県農林技術研究所成績集 静岡県農林技術研究所研究報告	果樹園芸学の基礎 （伴野潔・山田寿他：農文協） 月刊誌「柑橘」（経済連みかん園芸部）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部果樹学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
果樹品種特論	0	10	10	80	100

評価のポイント
出席の評価は1回欠席につき3点減点、遅刻・早退1回につき1点減点。態度の評価は、良（減点なし）～不良（10点減点）で評価。

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	栽培特論		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	果樹学科	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択・１２単位（４３２単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

卒業論文のテーマを中心に、研究室が取り組んでいる研究課題全般について、調査・分析補助を行うことにより学習する。また、研究室が管理するフィールドワークに積極的に参加し、果樹栽培を実践する上での基礎技術・知識を習得する。

栽培特論では、柑橘の生態調査を通じて気象が柑橘の生育と果実品質に及ぼす影響を学ぶとともに、高品質果実の安定生産に向けた新栽培システムについての調査補助を行う。さらに、近年育成され、市場での評価が高い新品種‘不知火’、‘はるみ’の安定生産ための技術開発の調査を行う。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	柑橘	気象と柑橘の生態１	24	実習	圃場	研究員
2	柑橘	気象と柑橘の生態２	24	実習	圃場	研究員
3	柑橘	気象と柑橘の生態３	24	実習	圃場	研究員
4	柑橘	気象と柑橘の生態４	24	実習	圃場	研究員
5	柑橘	青島温州の新栽培システム１	24	実習	圃場	研究員
6	柑橘	青島温州の新栽培システム２	24	実習	圃場	研究員
7	柑橘	青島温州の新栽培システム３	24	実習	圃場	研究員
8	柑橘	青島温州の新栽培システム４	24	実習	圃場	研究員
9	柑橘	青島温州の新栽培システム５	24	実習	実験室	研究員
10	柑橘	青島温州の新栽培システム６	24	実習	実験室	研究員
11	柑橘	青島温州の新栽培システム７	24	実習	実験室	研究員
12	柑橘	青島温州の新栽培システム８	24	実習	実験室	研究員
13	柑橘	中晩柑類の生態１	24	実習	圃場	研究員
14	柑橘	中晩柑類の生態２	24	実習	圃場	研究員
15	柑橘	中晩柑類の生態３	24	実習	圃場	研究員
16	柑橘	中晩柑類の貯蔵法１	24	実習	貯蔵庫	研究員
17	柑橘	中晩柑類の貯蔵法２	24	実習	実験室	研究員
18	柑橘	中晩柑類の貯蔵法３	24	実習	実験室	研究員
	計		432			

他の科目との関連並びに留意事項

評価は、出席率や実習受講態度、技能を中心に行う。

教材	テキスト	参考書
	静岡県農林技術研究所成績集 静岡県農林技術研究所研究報告	果樹園芸学の基礎 （伴野潔・山田寿他：農文協） 月刊誌「柑橘」（経済連みかん園芸部）

学部・学科・コース　養成部果樹学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
果樹栽培特論	0	10	10	80	100

評価のポイント
出席の評価は1回欠席につき3点減点、遅刻・早退1回につき1点減点。態度の評価は、良（減点なし）～不良（10点減点）で評価。

授業科目名	果樹栄養特論		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	果樹学科	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択・１２単位（４３２単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

卒業論文のテーマを中心に、研究室が取り組んでいる研究課題全般について、調査・分析補助を行うことにより学習する。また、研究室が管理するフィールドワークに積極的に参加し、果樹栽培を実践する上での基礎技術・知識を習得する。

栄養特論では、特に土壌及び樹体のサンプリングから分析、データの解析までの一連の作業を通じて、果樹栄養に関わる技術と知識を深化させる。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	柑橘	果樹園の土壌管理法１	24	実習	研究室	研究員
2	柑橘	果樹園の土壌管理法２	24	実習	研究室	研究員
3	柑橘	果樹園の土壌管理法３	24	実習	研究室	研究員
4	柑橘	果樹園の施肥法１	24	実習	研究室	研究員
5	柑橘	果樹園の施肥法２	24	実習	研究室	研究員
6	柑橘	果樹園の施肥法３	24	実習	研究室	研究員
7	柑橘	果樹の栄養診断と分析１	24	実習	実験室	研究員
8	柑橘	果樹の栄養診断と分析２	24	実習	実験室	研究員
9	柑橘	果樹の栄養診断と分析３	24	実習	実験室	研究員
10	柑橘	果樹の栄養診断と分析４	24	実習	実験室	研究員
11	柑橘	果樹園の土壌分析１	24	実習	実験室	研究員
12	柑橘	果樹園の土壌分析２	24	実習	実験室	研究員
13	柑橘	果樹園の土壌分析３	24	実習	実験室	研究員
14	柑橘	果樹園の土壌分析４	24	実習	実験室	研究員
15	柑橘	果樹園の土壌分析５	24	実習	実験室	研究員
16	柑橘	果樹園の土壌分析６	24	実習	実験室	研究員
17	柑橘	果樹園の土壌分析７	24	実習	実験室	研究員
18	柑橘	果樹園の土壌分析８	24	実習	実験室	研究員
	計		432			

他の科目との関連並びに留意事項

評価は、出席率や実習受講態度、技能を中心に行う。

教材	テキスト 静岡県農林技術研究所成績集 静岡県農林技術研究所研究報告	参考書 静岡県土壌肥料ハンドブック

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部果樹学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
果樹栄養特論	0	10	10	80	100

評価のポイント
出席の評価は1回欠席につき3点減点、遅刻・早退1回につき1点減点。態度の評価は、良（減点なし）～不良（10点減点）で評価。

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	果樹病害虫特論		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	果樹学科	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択・１２単位（４３２単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

卒業論文のテーマを中心に、研究室が取り組んでいる研究課題全般について、調査・分析補助を行うことにより学習する。また、研究室が管理するフィールドワークに積極的に参加し、果樹栽培を実践する上での基礎技術・知識を習得する。

病害虫特論では、病害虫の種類や密度を自ら調査し、発生の予察法や耐性菌の検定、殺虫剤感受性検定法を学ぶことにより、適正な薬剤防除のあり方を習得する。

また、天敵等の活用による生物防除を通じて、総合的な病害虫防除のあり方を身につける。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	柑橘	病原菌の分離・判定法１	24	実習	実験室	研究員
2	柑橘	病原菌の分離・判定法２	24	実習	実験室	研究員
3	柑橘	病原菌の分離・判定法３	24	実習	実験室	研究員
4	柑橘	耐性菌の検定法１	24	実習	実験室	研究員
5	柑橘	耐性菌の検定法２	24	実習	実験室	研究員
6	柑橘	耐性菌の検定法３	24	実習	実験室	研究員
7	柑橘	害虫の密度・被害調査法１	24	実習	実験室	研究員
8	柑橘	害虫の密度・被害調査法２	24	実習	実験室	研究員
9	柑橘	害虫の密度・被害調査法３	24	実習	実験室	研究員
10	柑橘	農薬の効率的利用法１	24	実習	実験室	研究員
11	柑橘	農薬の効率的利用法２	24	実習	実験室	研究員
12	柑橘	農薬の効率的利用法３	24	実習	実験室	研究員
13	柑橘	天敵類の識別および発生調査法１	24	実習	実験室	研究員
14	柑橘	天敵類の識別および発生調査法２	24	実習	実験室	研究員
15	柑橘	天敵類の識別および発生調査法３	24	実習	実験室	研究員
16	柑橘	害虫の発生予察法１	24	実習	実験室	研究員
17	柑橘	害虫の発生予察法２	24	実習	実験室	研究員
18	柑橘	害虫の発生予察法３	24	実習	実験室	研究員
	計		432			

他の科目との関連並びに留意事項

評価は、出席率や実習受講態度、技能を中心に行う。

教材		
	テキスト 静岡県農林技術研究所成績集 静岡県農林技術研究所研究報告	参考書 月刊誌「柑橘」（経済連みかん園芸部）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部果樹学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
果樹病害虫特論	0	10	10	80	100

評価のポイント
出席の評価は1回欠席につき3点減点、遅刻・早退1回につき1点減点。態度の評価は、良（減点なし）～不良（10点減点）で評価。

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	落葉果樹栽培育種特論		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	果樹学科	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択・１２単位（４３２単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

卒業論文のテーマを中心に、研究室が取り組んでいる研究課題全般について、調査・分析補助を行うことにより学習する。また、研究室が管理するフィールドワークに積極的に参加し、果樹栽培を実践する上での基礎技術・知識を習得する。

落葉果樹栽培品種特論では、ナシ、カキ、キウイ、ブルーベリーなどの開花結実から収穫後管理までの管理・調査を通じて、落葉果樹の栽培特性と生産技術を学ぶ。また、近年新たに育成された品種について、安定生産ための技術開発の調査を行う。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	落葉果樹	気象と落葉果樹の生態１	24	実習	圃場	研究員
2	落葉果樹	気象と落葉果樹の生態２	24	実習	圃場	研究員
3	落葉果樹	気象と落葉果樹の生態３	24	実習	実験室	研究員
4	落葉果樹	気象と落葉果樹の生態４	24	実習	実験室	研究員
5	落葉果樹	落葉果樹の生産性向上技術１	24	実習	圃場	研究員
6	落葉果樹	落葉果樹の生産性向上技術２	24	実習	圃場	研究員
7	落葉果樹	落葉果樹の生産性向上技術３	24	実習	圃場	研究員
8	落葉果樹	落葉果樹の生産性向上技術４	24	実習	圃場	研究員
9	落葉果樹	落葉果樹の生産性向上技術５	24	実習	圃場	研究員
10	落葉果樹	落葉果樹の生産性向上技術６	24	実習	圃場	研究員
11	落葉果樹	落葉果樹の収穫後管理・流通利用１	24	実習	実験室	研究員
12	落葉果樹	落葉果樹の収穫後管理・流通利用２	24	実習	実験室	研究員
13	落葉果樹	落葉果樹の収穫後管理・流通利用３	24	実習	実験室	研究員
14	落葉果樹	落葉果樹の収穫後管理・流通利用４	24	実習	実験室	研究員
15	落葉果樹	新品種の育成と利用法の開発１	24	実習	圃場	研究員
16	落葉果樹	新品種の育成と利用法の開発２	24	実習	実験室	研究員
17	落葉果樹	新品種の育成と利用法の開発３	24	実習	圃場	研究員
18	落葉果樹	新品種の育成と利用法の開発４	24	実習	実験室	研究員
	計		432			

他の科目との関連並びに留意事項

評価は、出席率や実習受講態度、技能を中心に行う。

教材	テキスト	参考書
	静岡県農林技術研究所成績集 静岡県農林技術研究所研究報告	果樹園芸学の基礎 （伴野潔・山田寿他：農文協） 月刊誌「柑橘」（経済連みかん園芸部）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部果樹学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
落葉果樹栽培育種特論	0	10	10	80	100

評価のポイント
出席の評価は1回欠席につき3点減点、遅刻・早退1回につき1点減点。態度の評価は、良（減点なし）～不良（10点減点）で評価。

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	畜産経営		
担　当　者	芹澤宗一郎、農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科大家畜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修　・３単位（108単位時間）	免許・資格との関係	

授業内容

各畜産経営形態の特徴を把握すると共に、複式簿記による経営管理技術を学び、効率的な経営感覚を習

授業計画

回数	項　目	内　　容	時間	授業方法	実施場所	講師
2	1 畜産経営の展開と特質	(1)日本の畜産経営の展開過程 (2)日本の畜産経営の特質	4	講義、見学	畜産分校 現地	研究員
4	2　静岡県の畜産行政施策	(1)静岡県における畜産行政 （静岡県の畜産、事業の進め方）参照	8	講義	畜産分校	研究員
6	3 日本の農業	(1)日本農業の基礎知識　P28～37 (2)日本の農政　P38～47 (3)日本の農業を支える組織　P60～63 (4)世界経済の中の日本農業　P64～69 (1)加速する農業のビジネス化　P70～87	20	講義、実習、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
8	4 日本農業の最前線	(2)農業を進化させるテクノロジー　P90～97 (3)持続可能な農業に向けて　P98～103	8	講義、実習、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
6	5 畜産のイロハ	(1)日本の畜産グローバルアップ　P152～159 (2)牛を知ろう　P160～165	8	講義、実習	畜産分校	研究員
8	6 日本と世界の農と食	(1)日本の食糧事情　P202～211 (2)日本の農をめぐる動き　P212～219 (3)世界の食糧事情　P226～231 (4)世界の食をめぐる問題　P232～249	20	講義、実習、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
10	7　複式経営簿記	(1)複式簿記の目的としくみ (2)複式簿記演習	20	講義、演習	畜産分校	芹澤
10	8　畜産の経営管理	(1)経営活動と経営管理 (2)優良経営事例の分析	20	講義、演習、見学	畜産分校 現地	芹澤

108

他の科目との関連並びに留意事項

乳牛飼養管理、肉牛飼養管理、飼料生産調製、家畜管理実習、卒業論文、先進経営研修

教材	テキスト	参考書
	「プロが教える農業のすべてがわかる本」ナツ 「「わかる」から「できる」へ複式農業簿記実践テキスト」全国農業会議所	「畜産事業の進め方」静岡県畜産課

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　畜産学科(大家畜コース)　　学年　2学年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
畜産経営	80	10	10	―	100

評価のポイント

4名の職員が分担しており、態度・ﾚﾎﾟｰﾄ等を個々に評価できないため、試験評価を80%とし技能・ﾚﾎﾟｰﾄは評価しない。

養成部　2年　専門科目　専攻科目Ⅱ

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	乳牛飼養管理		
担　当　者	芹澤宗一郎、農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科大家畜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修　・３単位（108単位時間）	免許・資格との関係	家畜人工授精師

授業内容
乳牛飼養管理に関する知識・技術を習得させる。

授業計画

回数	項　目	内　容	時間	授業方法	実施場所	講師
4	1　乳牛と酪農	(1)日本の酪農　P26～32 (2)世界の品種　P33～44 (3)乳牛と環境　P45～70	8	講義、実習	畜産分校	研究員
18	2　乳牛の一生	(1)哺育と育成　P72～87 (2)泌乳と乾乳　P89～153	20	講義、実習、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
		(3)乳房炎とその防除　P154～174 (4)飼料と飼料給与　P175～186 (5)乳牛の飼養標準	16	講義、実習、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
7	3　乳牛の繁殖管理	(1)繁殖管理　P187～210	14	講義、実習	畜産分校	研究員 芹澤
6	4　乳牛の行動	(1)乳牛の行動と心理　P212～220 (2)乳牛の摂食行動と飼料給与　P221～232 (3)休息、運動、排泄行動　P233～246	12	講義、実習、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
4	5　アニマルウェルフェア（家畜福祉）	(1)アニマルウェルフェア　P328～336	8	講義、実習	畜産分校	研究員 芹澤
6	6　農場のバイオセキュリティ	(1)バイオセキュリティとは　P338 (2)進入を防止すべき重要な疾病　P338～341 (3)酪農現場の衛生対策　P341～348	12	講義、実習、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
5	7　牛の見方と乳検情報の見方	(1)乳牛の見方　P350～370 (2)乳検情報の見方　P371～382	10	講義、実習、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
4	8　牛舎と施設	(1)各牛舎施設　P268～303 (2)換気構造　P304～310	8	講義、実習、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
			108			

他の科目との関連並びに留意事項
肉牛飼養管理、繁殖、家畜管理実習、卒業論文、先進経営研修

教材	テキスト	参考書
	「乳牛管理の基礎と応用」ﾃﾞｰﾘｨｼﾞｬﾊﾟﾝ社 「家畜人工授精師講習会ﾃｷｽﾄ」(社)日本家畜人工授精師協会 「日本飼養標準(乳牛用)」中央畜産会	

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　畜産学科(大家畜コース)　学年　2学年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
乳牛飼養管理	80	10	10	―	100

評価のポイント

3名の職員が分担しており、態度・レポート等を個々に評価できないため、試験評価を80%とし技能・レポートは評価しない。

養成部　2年　専門科目　専攻科目Ⅱ

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	肉牛飼養管理		
担　当　者	芹澤宗一郎、農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科大家畜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修　・３単位（108単位時間）	免許・資格との関係	家畜人工授精師

授業内容

肉牛飼養管理に関する知識・技術を習得させる。

授業計画

回数	項　目	内　　容	時間	授業方法	実施場所	講師
5	総論	(1)肉用牛の基本技術の発達と普及 (2)肉用牛肥育技術の発達 (3)肉牛経営の特徴と動向 (4)肉用牛の機能と役割 (5)飼育環境と施設	10	講義	畜産分校	研究員 芹澤
6	育種	(1)品種 (2)登録 (3)黒毛和種の育種改良と展望	10	講義、実習、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
14	繁殖	(1)雌牛の繁殖生理 (2)雄牛の繁殖生理 (3)繁殖障害 (4)最近の繁殖技術 (5)繁殖牛の栄養 (6)繁殖管理と経営 (7)放牧と繁殖	28	講義、実習、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
14	哺育 栄養	(1)　肉牛飼料の栄養成分 (2)消化と反芻生理 (3)育成牛の栄養 (4)発育と成長 (5)子牛・育成牛の生理と発育 (6)哺育管理	28	講義、実習、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
14	肥育	(1)産肉生理 (2)肥育牛の飼育技術 (3)肥育技術の基礎 (4)肥育素牛の導入 (5)肥育牛の飼料と使い方 (6)牛肉のおいしさ評価と健康価値	28	講義、実習、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
2	衛生	(1)伝染病、中毒、代謝病等の特徴と対応	4	講義、実習、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
			108			

他の科目との関連並びに留意事項

乳牛飼養管理、繁殖、家畜管理実習、卒業論文、先進経営研修

教材	テキスト	参考書
	「肉用牛の科学」養賢堂 「家畜人工授精師講習会ﾃｷｽﾄ」(社)日本家畜人工授精師協会 「日本飼養標準(肉用牛用)」中央畜産会 「どんどんよくなる肥育管理」㈱日本畜産振興会	「肉牛大辞典」農山漁村文化協会

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　畜産学科(大家畜コース)　学年　2学年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
肉牛飼養管理	80	10	10	—	100

評価のポイント

3名の職員が分担しており、態度・レポート等を個々に評価できないため、試験評価を80%とし技能・レポートは評価しない。

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	家畜管理実習		
担　当　者	芹澤宗一郎、農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科大家畜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修　・４単位（144単位時間）	免許・資格との関係	家畜人工授精師

授業内容
実習を通じて家畜飼養・飼料生産・環境保全の一般管理を学ぶ。

授業計画

回数	項　目	内　　容	時間	授業方法	実施場所	講師
72	1 飼養管理実習	(1) 乳牛の飼養管理 (2) 肉牛の飼養管理 (3) 放牧の飼養管理 (4) 草地の利用	144	実習	畜技研	芹澤 研究員
			144			

他の科目との関連並びに留意事項
畜産経営、乳牛飼養管理、肉牛飼養管理、環境保全、飼料生産調製、卒業論文、先進経営研修

教材	テキスト	

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　畜産学科(大家畜コース)　学年　2学年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
家畜管理実習	―	10	10	80	100

評価のポイント

各専攻別の科長による評価

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	繁　殖		
担　当　者	農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科大家畜コース	学年・学期	２年・後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修　・２単位（72単位時間）	免許・資格との関係	家畜人工授精師

授業内容
家畜の人工授精技術及び家畜改良技術の習得並びに家畜人工授精師資格を取得する。

授業計画

回数	項　目	内　容	時間	授業方法	実施場所	講師
16	1 人工授精	(1)人工授精技術の発展の歴史 (2)人工授精の意義及び得失 (3)精液の採取 (4)精液及び精子の検査 (5)保存液の特性及び精液の希釈 (6)精液の液状保存及び凍結保存 (7)精液の注入 (8)人工授精用器具等の種類及び特性 (9)消毒の原理及び方法	62	講義、実習	畜技研	各研究員
2	2 精液精子検査法	(1)精液及び精子の検査法	8	実習	畜技研	各研究員
1	3 関係法規	(1)家畜改良増殖法 (2)家畜伝染病予防法 (3)獣医師法	3	講義	畜技研	畜産振興課
		ＡＩ講習会は10日間(73時間)開催される。	73			

他の科目との関連並びに留意事項
乳牛飼養管理、肉牛飼養管理、家畜管理実習、卒業論文、先進経営研修

教材	テキスト	参考書
	「家畜人工授精師講習会ﾃｷｽﾄ」(社)日本家畜人工授精師協会	

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　畜産学科(大家畜コース)　　学年　2学年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
繁殖	80	10	10	—	100

評価のポイント

8名の職員が分担しており、態度・レポート等を個々に評価できないため、試験評価を80%とし技能・レポートは評価しない。

試験評価は、家畜人工授精師養成講習を兼ねているため、本講習会の試験成績を使用する。

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	環境保全		
担　当　者	芹澤宗一郎、農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科大家畜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修　・１単位（36単位時間）	免許・資格との関係	

授業内容
家畜ふん尿処理の知識･技術及び家畜ふん尿の利用並びに環境保全対策技術を習得する。

授業計画

回数	項　目	内　　容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	1 家畜糞尿処理・利用の基礎	(1)処理・利用の基本的考え方1～2 (2)家畜糞尿に関する基礎知識3～10 (3)処理利用システムの概要11～14	2	講義	畜産分校	研究員 芹澤
6	2 家畜ふん尿処理技術	(1)畜舎構造とふん尿搬出15～16 (2)固液分離処理17～25 (3)乾燥処理26～30 (4)堆肥化処理31～38 (5)スラリー処理39～42 (6)尿汚水の浄化処理43～52 (7)その他の処理53～56	12	講義、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
6	3 家畜ふん尿の利用	(1)家畜ふん尿処理物の品質57～62 (2)家畜ふん尿処理物の農地施用の基礎63～67 (3)家畜ふん尿処理物の施用量68～74	12	講義、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
3	4 悪臭の防止	(1)悪臭の基礎知識75～96 (2)畜舎における臭気対策97～100 (3)家畜ふん尿処理における臭気対策101～103 (4)施設・装置による脱臭技術104～114	6	講義、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
2	5 衛生害虫	(1)畜産分野の衛生害虫115～117 (2)衛生害虫が問題になる背景118 (3)防除対策118～121 (4)畜舎での害虫管理法121～124	4	講義	畜産分校	研究員
		36				

他の科目との関連並びに留意事項
乳牛飼養管理、肉牛飼養管理、卒業論文、先進経営研修

教材	テキスト	参考書
	「家畜ふん尿処理･利用の手引き」(財)畜産環境整備機構	

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　畜産学科(大家畜コース)　学年　2学年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
環境保全	80	10	10	―	100

評価のポイント

2名の職員が分担しており、態度・ﾚﾎﾟｰﾄ等を個々に評価できないため、試験評価を80%とし技能・ﾚﾎﾟｰﾄは評価しない。

授業科目名	飼料生産調製		
担　当　者	芹澤宗一郎、農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科大家畜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修　・２単位（72単位時間）	免許・資格との関係	

授業内容

飼料作物の生産及び利用技術と大型機械利用技術を習得する。

授業計画

回数	項　目	内　容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	1 土作り	(1)草地の更新と維持管理12～34	2	講義	畜産分校	研究員
9	2 牧草サイレージ・乾草	(1)品種の特性と栽培方法36～51 (2)収穫・貯蔵の留意点52～58 (3)収穫・貯蔵のシステム59～63 (4)サイレージ・乾草調製における目標栄養価64～66	18	講義、見学	畜産分校 現地	研究員
10	3 トウモロコシサイレージ	(1)品種の特性と栽培方法68～79 (2) 収穫・貯蔵と発酵品質・栄養価80～88 (3) 収穫・貯蔵のシステム89～93 (4) 不耕起栽培94～98	20	講義、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
7	4 ソルガムサイレージ、えん麦サイレージ	(1) ソルガムサイレージの特徴と栽培100～105 (2) えん麦サイレージの調製と発酵品質106～110	14	講義、見学	畜産分校	研究員 芹澤
3	5 飼料イネ	(1) 飼料イネサイレージ112～122	6	講義、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
3	6 TMR	(1)TMRの調製技術124～160	6	講義、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
3	7 放牧	(1) 放牧草地の維持管理と放牧方法162～168 (2) 水田放牧169～173	6	講義、見学	畜産分校 現地	研究員 芹澤
		72				

他の科目との関連並びに留意事項

乳牛飼養管理、肉牛飼養管理、家畜管理実習、卒業論文、先進経営研修

教材	テキスト	参考書
	「飼料生産・調製マニュアル」デーリィマン社	

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　畜産学科(大家畜コース)　　学年　2学年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
飼料生産調製	80	10	10	―	100

評価のポイント

3名の職員が分担しており、態度・レポート等を個々に評価できないため、試験評価を80%とし技能・レポートは評価しない。

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	流通加工		
担　当　者	芹澤宗一郎、農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科大家畜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修　・１単位（36単位時間）	免許・資格との関係	

授業内容
畜産物自給、価格政策、流通機構に関わる知識及び畜産物加工技術を習得する。

授業計画

回数	項　目	内　容	時間	授業方法	実施場所	講師
4	1 畜産物需給の概要	(1) 畜産物輸入の現状 (2) 畜産物の流通 (3) わが国の需給状況	2	講義･見学	畜産分校現地	研究員芹澤
1	2 政府の畜産物価格政策	(1) 価格安定制度	6	講義	畜産分校	芹澤
6	3 牛乳、乳製品の流通機構	(1) 酪農と乳業(乳業工学2～9) (2) 飲用牛乳・乳製品の組成と性質10～12 (3) 牛乳の加熱・殺菌・滅菌23～28 (4) 牛乳・乳製品の均質化36～40 (5) その他乳製品の製造73～126 (6) 生乳取引の現状と乳質(経済連資料)	8	講義･見学	畜産分校現地	研究員芹澤
3	4 肉牛の出荷・牛肉の流通機構	(1) 肉質の判定と出荷の方法（肉牛飼養全科182～187) (2) 枝肉取引規格(肉牛飼養全科187～192、枝肉取引解説書) (3) 牛肉流通の仕組み(ホームページ資料) (4) と畜場・卸売市場の概要(ホームページ資料)	6	講義･見学	畜産分校現地	研究員芹澤
4	5 加工実習	(1) アイスクリーム、バター、チーズ、ヨーグルト等乳製品作り (2) 肉製品作り	14	実習	畜産分校	研究員芹澤(外来講師)
			36			

他の科目との関連並びに留意事項
畜産経営、乳牛飼養管理、肉牛飼養管理、卒業論文、先進経営研修

教材	テキスト	参考文献
	「畜産事業の進め方」静岡県畜産振興室 「牛･豚枝肉部分肉枝肉取引解説書」（社)日本食肉格付協会 「改訂　肉牛飼養全科(第2版)」農文協	農水省ＨＰ資料 (社)日本食肉市場卸売協会ＨＰ

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　畜産学科(大家畜コース)　　学年　2学年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
流通加工	80	10	10	―	100

評価のポイント

4名の職員が分担しており、態度・レポート等を個々に評価できないため、試験評価を80%とし技能・レポートは評価しない。

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	大型機械		
担当者	山本千晶　鈴木鉄夫　鈴木利雄		
開講学科	園芸・茶業・果樹・畜産	学年・学期	2年　前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・２単位(72 単位時間)	免許・資格との関係	大特(農耕)取得を目指す

授業内容

大型乗用トラクターの運転操作、点検保守管理及び各種作業機の取扱いの技能とトラクターの構造と機能の知識、及び農作業安全について習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	トラクターの機能と基本操作Ⅰ	トラクター概論、各部の構造と機能	4	講義	講義室	鈴木利雄
2	トラクターの機能と基本操作Ⅱ	各部の構造と機能、基本作業と耕法・機械化作業体系(作業機)	4	講義	講義室	鈴木利雄
3	トラクターの機能と基本操作Ⅲ	燃料と潤滑油、各種工具の使用方法	4	講義	講義室	鈴木利雄
4	農作業安全	農作業事故を起こさないために注意すること	4	講義	講義室	山本他
5	仕業点検と保守管理	トラクターの点検方法	8	実習	格納庫	鈴木鉄夫他
6	作業機の着脱・調整	ロータリ・プラウの着脱・調整	4	実習	格納庫	鈴木鉄夫他
7	耕耘整地方法	ロータリ・プラウによる耕耘	4	実習	圃場	鈴木鉄夫他
8	コース走行練習	道路交通法による運転操作	30	実習	コース	山本他
9	成績評価試験	学科と仕業点検の試験	4	試験	講義室格納庫	山本他
10	運転免許試験	大特(農耕)の運転免許試験	4	実習	コース	山本他
11	免許即日交付手続き	免許の作成、公道走行の注意事項	2	講義	西部運転免許センター	山本他

他の科目との関連並びに留意事項

普通免許を未取得の場合、大特(農耕)の運転免許試験を受験できないため、本授業が開始される前に、普通免許を必ず取得しておくこと。

教材	テキスト 「トラクターの機能と基本操作（改訂版）」 編著者：全国農業機械化研修連絡会 発行所：一般社団法人　日本農業機械化協会	参考書

令和2年度　授業評価基準

学部・学科・コース　養成部（園芸、畜産、林業、茶業、果樹）　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
大型機械	70	15	15	0	100

評価のポイント
・試験、出席、態度により評価する。試験は学科及び実技（仕業点検）を実施する。
・学科試験は100点満点で採点し、5割未満は再試を行う。再試は同一問題で行い7割5分以上を合格とする。再試合格の評価は50点、不合格は不可とする。
・実技試験は100点満点で採点し、5割未満は再試を行う。再試は同一問題で行い7割5分以上を合格とする。再試合格の評価は50点、不合格は不可とする。
・出席点は15点満点で出席コマ数により計算する。遅刻早退はその割合により減点する。
・態度点は授業態度（講義・実習）により採点する。無断欠席1日につき5点減点する。

養成部　2年　専門科目　専攻科目Ⅱ

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	酪農特論		
担　当　者	芹澤宗一郎、農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科大家畜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修　・２単位（72単位時間）	免許・資格との関係	大型特殊自動車免許、けん引免許

授業内容

酪農に関する専攻研究の補完を行うとともに、必要な大型機械の操作練習と資格取得を行う。

授業計画

回数	項　目	内　　容	時間	授業方法	実施場所	講師
18	1　卒業論文Ⅱ	(1) 卒業論文の補完	36	講義 演習 実習	畜産分校 畜技研	芹澤 研究員
18	2 大型機械応用研修	(1) 大型特殊自動車(限定解除)の運転技術習得 (2) けん引自動車(農耕車)の運転技術習得 (3) 上記免許試験受験	36	演習 実習	畜産分校 機械研修場	芹澤 研究員

他の科目との関連並びに留意事項

畜産経営、乳牛飼養管理、卒業論文、先進経営研修

教材	テキスト	

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　畜産学科(大家畜コース)　　学年　2学年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
酪農特論	―	10	10	80	100

評価のポイント

技能・レポート配点
酪農科卒論担当研究員による評価　40点
農業機械応用研修による評価　　40点

養成部　2年　専門科目　専攻科目Ⅱ

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	肉牛特論		
担　当　者	芹澤宗一郎、農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科大家畜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修　・２単位（72単位時間）	免許・資格との関係	大型特殊自動車免許、けん引免許

授業内容

肉牛に関する専攻研究の補完を行うとともに、必要な大型機械の操作練習と資格取得を行う。

授業計画

回数	項　目	内　　容	時間	授業方法	実施場所	講師
18	1　卒業論文Ⅱ	(1)　卒業論文の補完	36	講義 演習 実習	畜産分校 畜技研	芹澤 研究員
18	2　大型機械応用研修	(1)　大型特殊自動車(限定解除)の運転技術習得 (2)　けん引自動車(農耕車)の運転技術習得 (3)　上記免許試験受験	36	演習 実習	畜産分校 機械研修場	芹澤 研究員

他の科目との関連並びに留意事項

畜産経営、肉牛飼養管理、卒業論文、先進経営研修

教材	テキスト	

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　畜産学科(大家畜コース)　　学年　2学年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
肉牛特論	―	10	10	80	100

評価のポイント

技能・レポート配点
肉牛科卒論担当研究員による評価　40点
農業機械応用研修による評価　　40点

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	飼料環境特論		
担　当　者	芹澤宗一郎、農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科大家畜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修　・２単位（72単位時間）	免許・資格との関係	大型特殊自動車免許、けん引免許

授業内容

飼料環境に関する専攻研究の補完を行うとともに、必要な大型機械の操作練習と資格取得を行う。

授業計画

回数	項　目	内　　容	時間	授業方法	実施場所	講師
18	1　卒業論文Ⅱ	(1) 卒業論文の補完	36	講義 演習 実習	畜産分校 畜技研	芹澤 研究員
18	2 大型機械応用研修	(1) 大型特殊自動車(限定解除)の運転技術習得 (2) けん引自動車(農耕車)の運転技術習得 (3) 上記免許試験受験	36	演習 実習	畜産分校 機械研修場	芹澤 研究員

他の科目との関連並びに留意事項

畜産経営、環境保全、飼料生産調整、卒業論文、先進経営研修

教材	テキスト	

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　畜産学科(大家畜コース)　　学年　2学年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
飼料環境特論	―	10	10	80	100

評価のポイント

技能・レポート配点
飼料環境科卒論担当研究員による評価　40点
農業機械応用研修による評価　40点

授業科目名	茶樹育種		
担当者	小柳津勤、農林技術研究所研究員		
開講学科	茶業学科	学年・学期	2年・前期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・1単位（36単位時間）	免許・資格との関係	日本茶アドバイザー

【授業内容】

茶樹育種についての基礎的な知識と技術を習得させ、品種の特性や増殖方法を理解させるとともに、経営向上を図るための能力を養う。

【授業計画】

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1		育種の基礎	2	講義	分校	研究員
2		静岡県の奨励品種	2	講義	分校	研究員
3～6		（第2回先進研修生）品種茶調査	8	実習	センター	研究員
3, 4		（第1回先進研修生）品種茶調査	4	実習	センター	研究員
5, 6		（第1回先進研修生）茶の挿木	4	実習	センター	研究員
7		バイオテクノロジー概論	2	講義	分校	研究員
8		茶の育種I	2	講義	分校	研究員
9		期待される新品種	2	講義	分校	研究員
10, 11		品種茶互評会	4	実習	センター	研究員
12		バイオテクノロジー各論	2	講義	分校	研究員
13		茶の育種II	2	講義	分校	研究員
14		品種の利用	2	講義	分校	研究員
15		茶におけるバイオテクノロジーの利用	2	講義	分校	研究員
16		定期試験	2	試験	分校	小柳津
17, 18		茶の採種	4	実習	センター	研究員
計			36			

【他の科目との関連並びに留意事項】

・評定は定期試験のほか出席率、学習態度も考慮する。

教材	【テキスト】	【参考書】
	・講義の際に講師から配布される。	・茶の品種（(社)静岡県茶業会議所） ・茶生産指導指針（静岡県農林水産部編）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　茶業学科　　学年　2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
茶樹育種	80	10	10		100

評価のポイント
・試験：定期試験を100点満点で実施し、評価時に80/100にする。
・出席：授業への出席率を評価時に10/100にする。
・態度：講義や実習等の授業態度を100点満点で採点し、評価時に10/100にする。

授業科目名	茶樹栽培Ⅰ		
担当者	小柳津勤、農林技術研究所研究員		
開講学科	茶業学科	学年・学期	2年・前期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・1単位（36単位時間）	免許・資格との関係	なし

【授業内容】

茶樹栽培技術のうち重要な摘採についての基礎的な知識と技術を習得させ、茶樹の特性や管理方法、茶園の改良方法を理解させるとともに、経営向上を図るための能力を養う。

【授業計画】

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1		茶の摘採の注意点	2	講義	分校	小柳津研究員
2～5		茶の手摘み実習	8	実習	センター	小柳津
6～18		茶の摘採	26	実習	センター	小柳津研究員
計			36			

【他の科目との関連並びに留意事項】

・評定は技能、学習態度、出席率により行う。

教材	【テキスト】	【参考書】
	・茶生産指導指針（静岡県農林水産部編） ・茶生産の最新技術－栽培編	・

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　茶 業 学 科　　学年　２ 年

科目名	実習技能	実習態度	出席率		合計
茶樹栽培Ⅰ	40	30	30		100

評価のポイント
・実習中心の授業構成のため、実習での技能、態度と出席率をそれぞれ100点満点で採点し、それらの平均で評価する。

授業科目名	茶樹栽培Ⅱ		
担当者	小栁津勤、農林技術研究所研究員		
開講学科	茶業学科	学年・学期	2年・後期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・1単位（36単位時間）	免許・資格との関係	日本茶アドバイザー

【授業内容】

茶樹栽培についての基礎的な知識と技術を習得させ、茶樹の特性や管理方法、茶園の改良方法を理解させるとともに、経営向上を図るための能力を養う。

【授業計画】

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1,2		秋整枝	4	実習	センター	研究員
3		茶園管理の機械化① 摘採機	2	講義	分校	研究員
4		茶の定植	2	講義	分校	研究員
5		幼木園の管理	2	講義	分校	研究員
6		茶園管理の機械化② その他機械	2	講義	分校	研究員
7		幼木園の管理	2	講義	分校	研究員
8		茶の気象災害	2	講義	分校	研究員
9		茶業技術発表会等聴講	2	視察	校外	小栁津
10		茶栽培状況視察	2	視察	校外	小栁津
11		栽培技術事例①	2	講義	分校	研究員
12		茶園管理の機械化③ 安全利用	2	講義	分校	研究員
13		被覆栽培	2	講義	分校	研究員
14,15		県外視察研修	4	視察	校外	小栁津
16		栽培技術事例②	2	講義	分校	研究員
17		栽培技術事例③	2	講義	分校	研究員
18		期末試験	2	試験	分校	小栁津
計			36			

【他の科目との関連並びに留意事項】

・評定は定期試験のほか学習態度、出席率も考慮する。

教材	【テキスト】	【参考書】
	・茶生産指導指針（静岡県農林水産部編） ・講義の際に講師から配布される。	

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　茶業学科　　学年　2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
茶樹栽培Ⅱ	80	10	10		100

評価のポイント
・試験：定期試験を100点満点で実施し、評価時に80/100にする。
・出席：授業への出席率を評価時に10/100にする。
・態度：講義や実習等の授業態度を100点満点で採点し、評価時に10/100にする。

授業科目名	茶樹土壌肥料		
担当者	小柳津勤、農林技術研究所研究員		
開講学科	茶業学科	学年・学期	2年・後期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・1単位（36単位時間）	免許・資格との関係	日本茶アドバイザー

【授業内容】

茶樹土壌肥料についての基礎的な知識と技術を習得させ、茶園土壌の特性と茶樹の栄養生理の特性及び施肥方法を理解させるとともに、経営向上を図るための能力を養う。

【授業計画】

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1		環境と茶園土壌1	2	講義	分校	研究員
2		茶園施肥の考え方（基本）	2	講義	分校	研究員
3		環境と茶園土壌2	2	講義	分校	研究員
4		肥料について考える.（肥料の分類）	2	講義	分校	研究員
5～6		肥料の製造	2	講義	校外	小柳津 研究員
7		茶業技術協会発表会聴講	2	視察	校外	小柳津
8		茶業課題別研究会聴講	2	視察	校外	小柳津
9		茶の栄養生理1	2	講義	分校	研究員
10～11		施用肥料の動態	2	講義	校外	小柳津 研究員
12		肥料について考える（各種肥料の特性）	2	講義	分校	研究員
13～15		県外視察研修	6	視察	校外	小柳津
16		茶の栄養生理2	2	講義	分校	研究員
17		肥料について考える（施肥設計）	2	講義	分校	研究員
18		定期試験	2	試験	分校	小柳津
計			36			

【他の科目との関連並びに留意事項】

・評定は定期試験のほか出席率、レポート、学習態度も考慮する。

教材	【テキスト】	【参考書】
	・講義の際に講師から配布される。	・茶生産指導指針（静岡県農林水産部編） ・土壌肥料ハンドブック（静岡県）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　茶業学科　　学年　2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
茶樹土壌肥料	80	10	10		100

評価のポイント
・試験：定期試験を100点満点で実施し、評価時に80/100にする。
・出席：授業への出席率を評価時に10/100にする。
・態度：講義や実習等の授業態度を100点満点で採点し、評価時に10/100にする。

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目名	茶樹病害虫		
担当者	小柳津勤、農林技術研究所研究員		
開講学科	茶業学科	学年・学期	2年・後期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・1単位（36単位時間）	免許・資格との関係	日本茶アドバイザー

【授業内容】

茶樹病害虫についての基礎的な知識と技術を習得させ、病害虫の発生生態と防除方法を理解させるとともに、経営向上を図るための能力を養う。

【授業計画】

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1		病害の基礎知識①	2	講義	分校	研究員
2		害虫の基礎知識①	2	講義	分校	研究員
3		茶農薬総論	2	講義	分校	研究員
4		病害の基礎知識②	2	講義	分校	研究員
5		害虫の基礎知識②	2	講義	分校	研究員
6		殺虫剤の作用特性	2	講義	分校	研究員
7		茶業技術協会発表会聴講	2	視察	校外	小柳津
8		茶業課題別研究会聴講	2	視察	校外	小柳津
9		茶の主要病害①	2	講義	分校	研究員
10		茶害虫の生態と防除対策①	2	講義	県外	研究員
11		殺菌剤の作用特性	2	講義	校外	研究員
12～14		県外視察研修	6	視察	校外	小柳津
15		茶の主要病害②	2	講義	分校	研究員
16		茶害虫の生態と防除対策②	2	講義	分校	研究員
17		農薬取締法	2	講義	分校	研究員
18		定期試験	2	試験	分校	小柳津
計			36			

【他の科目との関連並びに留意事項】

評定は定期試験のほか出席率、レポート、学習態度も考慮する。

教材	【テキスト】	【参考書】
	・講義の際に講師から配布される。	・茶生産指導指針（静岡県農林水産部編） ・新・目で見る茶の病害虫（小泊重洋他、静岡県茶業会議所）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　茶業学科　　学年　2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
茶樹病害虫	80	10	10		100

評価のポイント
・試験：定期試験を100点満点で実施し、評価時に80/100にする。
・出席：授業への出席率を評価時に10/100にする。
・態度：講義や実習等の授業態度を100点満点で採点し、評価時に10/100にする。

授業科目	茶製造		
担当者	小柳津勤、農林技術研究所研究員、外来講師		
開講学科	茶業学科	学年・学期	2年・前期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・1単位(36単位時間)	免許・資格との関係	日本茶アドバイザー

【授業内容】

茶製造についての基礎的な知識と技術を習得させ、製造法や製茶科学について理解させるとともに、機械管理等の経営向上を図るための能力を養う。

【授業計画】

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1		各工程の意義と操作	2	講義	分校	研究員
2		生葉及び荒茶の品質管理	2	講義	分校	研究員
3,4		(第2回先進研修学生) 茶期前の製茶工場の管理 (第1回先進研修学生) 茶期後の製茶工場の管理	4	実習	センター	研究員
5～10		製茶機による普通煎茶製造	12	実習	センター等	小柳津
11		製茶機械の工程別制御1	2	講義	分校	研究員
12		製茶機械の工程別制御2	2	講義	分校	研究員
13		製茶機械の保守・整備2	2	講義	センター、分校	外部講師)
14		校外学習(カワサキ機工㈱)	4	視察	校外	小柳津
15,16		茶製造における水分管理	2	講義	分校	研究員
17		製茶機械の工程別制御3	4	講義	分校	研究員
18		定期試験	2	試験	分校	小柳津
計			36			

【他の科目との関連並びに留意事項】

・評定は定期試験のほか出席率、レポート、技能力、学習態度も考慮する。

教材	【テキスト】	【参考書】
	・講義の際に講師から配布される。	・茶生産指導指針（静岡県農林水産部編）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　茶業学科　　学年　2年

科目名	試験	出席	態度	技能	合計
茶製造	60	10	10	20	100

評価のポイント
・試験：定期試験を100点満点で実施し、評価時に60/100にする。
・出席：授業への出席率を評価時に10/100にする。
・態度：講義や実習等の授業態度を100点満点で採点し、評価時に10/100にする。
・技能：実習時の技能の習得程度を100点満点で採点し、評価時に20/100にする。

授業科目	手もみ技術Ⅱ		
担当者	小柳津勤、外来講師		
開講学科	茶業学科	学年・学期	2年・後期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・1単位（36単位時間）	免許・資格との関係	手もみ教師補資格

【授業内容】

茶の手揉みについての基礎的な知識と技術を習得させ、機械製造との関係を理解させるとともに，経営向上を図るための能力を養う。

【授業計画】

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～4		茶手揉み実習 （蒸熱済み生葉使用）	8	実習	本校	外部講師、小柳津
5～8		茶手揉み実習 （蒸熱済み生葉使用）	8	実習	本校	外部講師、小柳津
9～12		茶手揉み実習 （蒸熱済み生葉使用）	8	実習	本校	外部講師、小柳津
13～16		茶手揉み実習 （蒸熱済み生葉使用）	8	実習	本校	外部講師、小柳津
17, 18 (19, 20)		実技試験 （全国手揉み茶振興会教師補）	4	実技試験	本校	審査員を全国手揉み茶振興会に派遣要請
計			36			

【他の科目との関連並びに留意事項】

・評定は実技試験、出席率、学習態度も考慮する。
・全員が全国手揉み茶振興会教師補認定審査を受験する。（2月上旬・認定料5,000円）

教材	【テキスト】	【参考書】
	・新手揉製茶解説・茶業ミニ辞典（(社) 静岡県茶手揉保存会）	・新手揉み製茶法（DVD）（(社) 静岡県茶手揉保存会）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　茶業学科　　学年　2年

科目名	技能	出席	態度		合計
手もみ技術Ⅱ	70	10	20		100

評価のポイント
・技能：手揉み技術の習得度合いを外部講師と100点満点で採点し、評価時に70/100にする。
・出席：授業への出席率を評価時に10/100にする。
・態度：実習の授業態度を100点満点で採点し、評価時に20/100にする。

授業科目	各種茶		
担当者	小柳津勤、農林技術研究所研究員、外来講師		
開講学科	茶業学科	学年・学期	2年・後期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・1単位（36単位時間）	免許・資格との関係	日本茶アドバイザー

【授業内容】

様々な種類の茶についての基礎的な知識と技術を習得させ、各種茶の製造法や二次加工及び茶の再製・審査などについて理解させる。

【授業計画】

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1, 2		茶の再製法	4	実習	センター	研究員
3, 4		茶の審査	4	実習	分校、センター	外部講師
5		各種茶製造法	2	講義	分校	研究員
6, 7		県内視察	4	視察	校外	小柳津
8, 9		茶の香り	4	講義	分校	研究員
10, 11		緑茶の表示	4	講義	分校	研究員
12		茶の成分（化学性）	2	講義	分校	研究員
13, 14		緑茶の効果、効能	4	講義	分校	研究員
15, 16		食品衛生関係・ＪＧＡＰなど	4	講義	分校	研究員
17		乾燥工程とは	2	講義	分校	研究員
18		定期試験	2	試験	分校	小柳津
計			36			

【他の科目との関連並びに留意事項】

評定は定期試験のほか出席率、レポート、学習態度も考慮する。

教材	【テキスト】	【参考書】
	・講義の際に講師から配布される。	・茶生産指導指針（静岡県産業部）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　茶 業 学 科　　学年　2 年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
各種茶	80	10	10		100

評価のポイント
・試験：定期試験を100点満点で実施し、評価時に80/100にする。
・出席：授業への出席率を評価時に10/100にする。
・態度：講義や実習等の授業態度を100点満点で採点し、評価時に10/100にする。

授業科目名	茶業経営		
担当者	小柳津勤、農林技術研究所研究員、外部講師、お茶振興課		
開講学科	茶業学科	学年・学期	2年・前期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・1単位（36単位時間）	免許・資格との関係	日本茶アドバイザー

【授業内容】

茶業経営についての基礎的な知識と手法を習得させ、経営の概念や具体的事例等について理解させるとともに、経営向上を図るための能力を養う。

【授業計画】

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1		茶業の経営形態と特徴(1)	2	講義	分校	小柳津
2,3		茶業発展の歴史、茶業関係技術開発の現状	2	視察	校外	研究員
3		日本の茶業の現状	2	講義	分校	研究員
4		茶業の経営形態と特徴(2)	2	講義	分校	研究員
5～7		茶業経営の抱える課題と今後の方向（校外学習）	6	視察	校外	小柳津
8～11		地域茶業振興・茶業経営体（校外学習）	8	視察	校外	小柳津
12～14		形態別茶業経営の抱える課題と今後の方向・農業経営者の目指すべき姿	6	講義	分校	外部講師
15		静岡県の茶業振興施策	2	講義	分校	県庁お茶振興課）
16		茶業技術開発の今後の方向	2	講義	分校	研究員
17		最近の研究開発の成果事例	2	講義	分校	研究員
18		定期試験	2	試験	分校	小柳津
計			36			

【他の科目との関連並びに留意事項】

・評定は定期試験のほか出席率、レポート、学習態度も考慮する。

教材	【テキスト】	【参考書】
	・講義の際に講師から配布される。	・茶生産指導指針（静岡県農林水産部編） ・月刊「茶」（静岡県茶業会議所）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　茶業学科　　学年　2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
茶業経営	30	10	10	50	100

評価のポイント
・試験：定期試験を100点満点で実施し、評価時に30/100にする。
・出席：授業への出席率を評価時に10/100にする。
・態度：講義や実習等の授業態度を100点満点で採点し、評価時に10/100にする。
・校外学習等のレポートを100点満点で採点し、評価時に50/100にする。

授業科目名	茶業流通		
担当者	外部講師（静岡県経済連、他）、小柳津勤		
開講学科	茶業学科	学年・学期	2年　後期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・1単位（36単位時間）	免許・資格との関係	日本茶アドバイザー

【授業内容】

茶業流通についての基礎的な知識を習得させ、取引や消費の実態、先進地の現状について理解させるとともに、経営向上を図るための能力を養う。

【授業計画】

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1, 2		県内の茶の流通	4	視察	校外	静岡茶市場
3, 4		茶の加工と販売	4	視察	校外	茶加工販売業者
5		茶流通の現状と課題	2	講義	分校	外部講師（静岡経済連）
6		県外研修事前学習	2	講義	分校	小柳津
7, 8		茶の消費提案	4	視察	校外	小柳津
9～16		県外視察研修	16	視察	県外	小柳津
17, 18		県外研修レポート作成	4	実習	分校	小柳津
計			36			

【他の科目との関連並びに留意事項】

・評定は出席率、レポート、学習態度により判断する。

教材	【テキスト】	【参考書】
	・講義の際に講師から配布される	・茶生産指導指針（静岡県産業部） ・月刊「茶」（静岡県茶業会議所）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　茶 業 学 科　　学年　2 年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
茶業流通		10	10	80	100

評価のポイント
・試験：県外研修レポートを100点満点で採点し、評価時に80/100にする。
・出席：授業への出席率を評価時に10/100にする。
・態度：講義等の授業態度を100点満点で採点し、評価時に10/100にする。

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	大型機械		
担当者	山本千晶　鈴木鉄夫　鈴木利雄		
開講学科	園芸・茶業・果樹・畜産	学年・学期	2年　前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・2単位(72単位時間)	免許・資格との関係	大特(農耕)取得を目指す

授業内容

大型乗用トラクターの運転操作、点検保守管理及び各種作業機の取扱いの技能とトラクターの構造と機能の知識、及び農作業安全について習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	トラクターの機能と基本操作Ⅰ	トラクター概論、各部の構造と機能	4	講義	講義室	鈴木利雄
2	トラクターの機能と基本操作Ⅱ	各部の構造と機能、基本作業と耕法・機械化作業体系(作業機)	4	講義	講義室	鈴木利雄
3	トラクターの機能と基本操作Ⅲ	燃料と潤滑油、各種工具の使用方法	4	講義	講義室	鈴木利雄
4	農作業安全	農作業事故を起こさないために注意すること	4	講義	講義室	山本他
5	仕業点検と保守管理	トラクターの点検方法	8	実習	格納庫	鈴木鉄夫他
6	作業機の着脱・調整	ロータリ・プラウの着脱・調整	4	実習	格納庫	鈴木鉄夫他
7	耕耘整地方法	ロータリ・プラウによる耕耘	4	実習	圃場	鈴木鉄夫他
8	コース走行練習	道路交通法による運転操作	30	実習	コース	山本他
9	成績評価試験	学科と仕業点検の試験	4	試験	講義室格納庫	山本他
10	運転免許試験	大特(農耕)の運転免許試験	4	実習	コース	山本他
11	免許即日交付手続き	免許の作成、公道走行の注意事項	2	講義	西部運転免許センター	山本他

他の科目との関連並びに留意事項

普通免許を未取得の場合、大特(農耕)の運転免許試験を受験できないため、本授業が開始される前に、普通免許を必ず取得しておくこと。

教材	テキスト 「トラクターの機能と基本操作（改訂版）」 編著者：全国農業機械化研修連絡会 発行所：一般社団法人　日本農業機械化協会	参考書

令和2年度　授業評価基準

学部・学科・コース　養成部（園芸、畜産、林業、茶業、果樹）　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
大型機械	70	15	15	0	100

評価のポイント
・試験、出席、態度により評価する。試験は学科及び実技（仕業点検）を実施する。
・学科試験は100点満点で採点し、5割未満は再試を行う。再試は同一問題で行い7割5分以上を合格とする。再試合格の評価は50点、不合格は不可とする。
・実技試験は100点満点で採点し、5割未満は再試を行う。再試は同一問題で行い7割5分以上を合格とする。再試合格の評価は50点、不合格は不可とする。
・出席点は15点満点で出席コマ数により計算する。遅刻早退はその割合により減点する。
・態度点は授業態度（講義・実習）により採点する。無断欠席1日につき5点減点する。

授業科目	栽培特論		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	茶業学科	学年・学期	2年・前後期
必選の別・単位数(単位時間)	選択必須・11単位（396単位時間）	免許・資格との関係	なし

【授業内容】

茶栽培についての専門的な知識や技術を習得させ、基盤整備や茶樹の生育特性及び栽培技術、機械化体系などについての理解を深めるとともに、経営向上を図るための能力を養う。

【授業計画】

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1		茶樹の栽培	396	実験及び実習	茶業研究センター内施設及びほ場	研究員
2		茶樹の気象災害防止法				
3		茶園造成				
4		機械化栽培				
5		山間地茶業				
6		茶業経営				

【他の科目との関連並びに留意事項】

・卒業論文の研究テーマに沿った実験、実習も行う。
・評定は出席率、技能力、学習態度を考慮する。

教材	【テキスト】	【参考書】
	・担当職員より配布される。	・担当職員より専門書を指定される場合がある。

授業科目名	病害虫特論		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	茶業学科	学年・学期	2年・前後期
必選の別・単位数(単位時間)	選択必須・11単位（396単位時間）	免許・資格との関係	なし

【授業内容】

茶の病害虫についての専門的な知識や技術を習得させ、病害虫や天敵類の分類同定と発生調査技術及び高度な病害虫の防除技術、防除体系などについての理解を深めるとともに、経営向上を図るための能力を養う。

【授業計画】

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
	1	病害虫や天敵の分類同定	396	実験及び実習	茶業技術センター内施設及びほ場	研究員
	2	防除法と体系化				
	3	病害虫の発生生態				

【他の科目との関連並びに留意事項】

・卒業論文の研究テーマに沿った実験、実習も行う。
・評定は出席率、技能力、学習態度を考慮する。

教材	【テキスト】	【参考書】
	担当職員より配布される。	担当職員より専門書を指定される場合がある。

授業科目名	土壌肥料特論		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	茶業学科	学年・学期	2年・前後期
必選の別・単位数(単位時間)	選択必須・11単位（396単位時間）	免許・資格との関係	なし

【授業内容】

茶土壌肥料についての専門的な知識や技術を習得させ、茶樹の栄養特性や肥培管理技術、土壌管理技術などについての理解を深めるとともに、経営向上を図るための能力を養う。

【授業計画】

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1		施肥管理	396	実験及び実習	茶業研究センター内施設及びほ場	研究員
2		土壌管理				
3		茶樹の栄養生理				

【他の科目との関連並びに留意事項】

・卒業論文の研究テーマに沿った実験、実習も行う。
・評定は出席率、技能力、学習態度を考慮する。

教材	【テキスト】	【参考書】
	・担当職員より配布される。	・担当職員より専門書を指定される場合がある。

授業科目	育種特論		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	茶業学科	学年・学期	2年・前後期
必選の別・単位数(単位時間)	選択必須・11単位（396単位時間）	免許・資格との関係	なし

【授業内容】

茶の育種についての専門的な知識や技術を習得させ、品種特性や育種手法、繁殖方法などについての理解を深めるとともに、経営向上を図るための能力を養う。

【授業計画】

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1		品種と特性	396	実験及び実習	茶業研究センター内施設及びほ場	研究員
2		育種の理論と手法				
3		遺伝と繁殖				
4		バイテク技法				

【他の科目との関連並びに留意事項】

・卒業論文の研究テーマに沿った実験、実習も行う。
・評定は出席率、技能力、学習態度を考慮する。

教材	【テキスト】	【参考書】
	・担当職員から配布される。	・担当職員より専門書を指定される場合がある。

授業科目	製茶新製品特論		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	茶業学科	学年・学期	2年・前後期
必選の別・単位数(単位時間)	選択必須・11単位（396単位時間）	免許・資格との関係	なし

【授業内容】

製茶や新製品についての専門的な知識や技術を習得させ、煎茶製造法や仕上げ加工、科学的品質評価法，製茶科学茶の新製品開発、茶の機能性成分などについての理解を深めるとともに、経営向上を図るための能力を養う。正規

【授業計画】

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1		煎茶製造法	396	実験及び実習	茶業研究センター内施設	研究員
2		仕上げ加工				
3		科学的品質評価法				
4		製茶科学				
5		各種茶の製造法				
6		二次加工品と新製品開発				
7		茶の機能性成分				
8		新しい製茶法				
9		生葉管理				
10		微生物検査法				
11		製茶工程の計測、制御				
12		粉砕加工				
13		茶成分測定				
14		官能検査と品評会				

【他の科目との関連並びに留意事項】

・卒業論文の研究テーマに沿った実験、実習も行う。
・評定は出席率、技能力、学習態度を考慮する。

教材	【テキスト】	【参考書】
	・担当職員より配布される。	・担当職員より専門書を指定される場合がある。

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　茶業学科　　学年　2年

科目名	技能	出席	態度		合計
特論 (栽培,育種,土壌肥料, 病害虫,製茶・新製品)	100/3	100/3	100/3		100

評価のポイント
・前期に技能、態度についてそれぞれ100点満点ずつで評価し、出席率を含めた三項目の平均で中間評価をする。
・後期にも同様の項目について評価し、最終の成績は中間評価と後期の評価の平均とする。

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	中小家畜経営		
担　当　名	元水昌仁、農林技術研究所研究員		
開　講　学　科	畜産学科中小家畜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・２単位(72単位時間)	免許・資格との関係	なし

授業内容

養豚、養鶏の経営を管理するために必要な基本知識やマーケティング、食の安全、環境保全、計数管理、税務対策等について学習する。

授業計画

回数	項目	内　　容	時間	授業方法	実施場所	講　師
1	養鶏	養鶏の歴史・産地と分布	2	講義	講義室	研究員
2	〃	養鶏産業の現状	2	講義	講義室	
3	〃	鶏卵、鶏肉の規格と流通	2	講義	講義室	
4, 5	〃	採卵鶏経営計画、生産費、収益性	4	講義	講義室	
6, 7	〃	ブロイラー経営計画、生産費、収益性	4	講義	講義室	
8	〃	採卵鶏・ブロイラー優良事例検討	2	講義	講義室	
9	〃	試験	2	講義	講義室	
10	養豚	養豚産業の歴史と現状	2	講義	講義室	研究員
11, 12	〃	ＳＰＦ豚の特徴と普及の現状	4	講義	講義室	
13, 14	〃	養豚の経営類型、種豚の更新導入	4	講義	講義室	
15, 16	〃	おいしい豚肉の研究、静岡型銘柄豚	4	講義	講義室	
17	〃	生産技術指標、設備投資	2	講義	講義室	
18	〃	試験	2	講義	講義室	
19, 20	〃	動物福祉・アニマルウェルフェア	4	講義	講義室	元水昌仁
21～24	〃	飼料安全法、ポジティブリスト制度、食品衛生法、食品表示法	8	講義	講義室	
25, 26	〃	環境保全（ハエ・ネズミ）	4	講義	講義室	
27, 28	〃	飼料米給与、エコフィード	4	講義	講義室	
29～35	〃	技術指標、経営計画、生産費、経営分析、税務対策	14	講義	講義室	
36	〃	試験	2	講義	講義室	
計			72			

他の科目との関連並びに留意事項

中小家畜経営については、養鶏を養豚に分けて担当する。

教材

テキスト

「最新　畜産ハンドブック」
扇元敬司ほか：講談社

参考書

「養豚ハンドブック」丹羽太左衛門：養賢堂

「採卵鶏飼養管理マニュアル」：畜産技術協会

「新編養鶏ハンドブック」
田先威和夫ほか：養賢堂

「ウィークリー養豚マニュアル」
：全農畜産生産部

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部畜産学科　中小家畜コース　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
中小家畜経営	70	10	10	10	100

評価のポイント
・試験は養豚と養鶏毎にそれぞれ50点の配点で、その合計点数を試験配分割合に乗ずる。
・出席は欠席1回につきマイナス1点とする。（遅刻早退3回で1回欠席、最高マイナス10点）
・態度は講義中の授業態度、取り組み意欲を評価する。
・技能・レポートは主に実験、演習等の習熟度で評価する。

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	中小家畜施設		
担当名	農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科中小家畜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・１単位(36単位時間)	免許・資格との関係	なし

授業内容

中小家畜（鶏、豚）を安全で効率的に飼育する畜舎施設の知識を習得する。
また、動物福祉を考慮した施設についても学習する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	養鶏	建築物の基礎知識	2	講義	講義室	
2	〃	鶏舎構造（基礎、床）	2	講義	講義室	
3	〃	鶏舎構造（屋根、天井、壁）	2	講義	講義室	
4	〃	換気	2	講義	講義室	
5	〃	ウインドウレス鶏舎の経済性	2	講義	講義室	研究員
6	〃	鶏舎と地震対策	2	講義	講義室	
7	〃	福祉ケージ	2	講義	講義室	
8	〃	施設見学	2	講義	養豚エリア	
9	〃	試験	2	講義	講義室	
10	養豚	農業施設とＩＳＯ	2	講義	講義室	
11	〃	汚水処理施設（前処理装置）	2	講義	講義室	
12	〃	汚水処理施設（活性汚泥法）	2	講義	講義室	
13	〃	堆肥化施設と脱臭装置	2	講義	講義室	
14	〃	養豚施設の規模算定（１）	2	講義	講義室	研究員
15	〃	養豚施設の規模算定（２）	2	講義	講義室	
16	〃	低コスト施設	2	講義	講義室	
17	〃	施設見学	2	講義	養豚エリア	
18	〃	試験	2	講義	講義室	
計			36			

他の科目との関連並びに留意事項

教材

テキスト

「最新　畜産ハンドブック」
扇元敬司ほか：講談社

参考書

「養豚ハンドブック」　丹羽太左衛門：養賢堂
「新編養鶏ハンドブック」　田先威和夫ほか：養賢堂
「養鶏」　後藤悦男：ｺﾞﾄｳﾃｸﾆｶﾙ
「採卵鶏飼養管理マニュアル」
：畜産技術協会
「農業施設ハンドブック」
農業施設学会：東洋書店
「豚舎と施設」養豚界：畜産出版

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部畜産学科　中小家畜コース　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
中小家畜施設	70	15	15	－	100

評価のポイント
・試験は養豚と養鶏毎にそれぞれ50点の配点で、その合計点数を試験配分割合に乗ずる。
・出席は欠席1回につきマイナス2点とする。（遅刻早退3回で1回欠席、最高マイナス10点）
・態度は講義中の授業態度、取り組み意欲を評価する。

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	飼養管理（養豚）		
担当名	元水昌仁、農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科中小家畜コース	学年・学期	２年
必選の別・単位数（単位時間）	必須　7単位(252単位時間)	免許・資格との関係	家畜人工授精師(豚)免許

授業内容

豚の種付けと分娩、飼料給与、飼養管理を通じ、豚の特性にあった飼養管理技術を習得する。
家畜人工授精講習会の人工授精、精液精子検査法の実習は本科目内で対応する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～12	養豚	ＳＰＦ豚の飼養管理	24	実習	養豚ｴﾘｱ	研究員 元水昌仁
13～24	〃	子豚の飼養管理　豚舎消毒	24	実習	養豚ｴﾘｱ	
25～36	〃	環境保全　糞尿処理	24	実習	養豚ｴﾘｱ	
37～42	〃	防暑対策	12	実習	養豚ｴﾘｱ	
43～54	〃	肥育豚の飼養管理　発情鑑定	24	実習	養豚ｴﾘｱ	
55～66	〃	繁殖豚飼養管理　候補豚管理	24	実習	養豚ｴﾘｱ	
67～74	〃	防寒対策　呼吸器病対策	16	実習	養豚ｴﾘｱ	
75～86	〃	繁殖計画　病豚の見分け方	24	実習	養豚ｴﾘｱ	
87～100	〃	繁殖、肥育成績のまとめ	28	実習	養豚ｴﾘｱ	
101～122	講習会	家畜人工授精講習会 （人工授精）	44	実習	養豚ｴﾘｱ	
123～126	〃	家畜人工授精講習会 （精液精子検査法）	8	実習	養豚ｴﾘｱ	
計			252			

他の科目との関連並びに留意事項

養豚専攻の学生が行う科目である。

教材	テキスト	参考書
	「最新　畜産ハンドブック」 扇元敬司ほか：講談社	「養豚ハンドブック」 丹羽太左衛門：養賢堂

養成部　２年　専門科目（専攻科目Ⅱ）

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	飼養管理（養鶏）		
担当名	元水昌仁、農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科中小家畜コース	学年・学期	２年
必選の別・単位数（単位時間）	必須　7単位(252単位時間)	免許・資格との関係	家畜人工授精師(豚)免許

授業内容

鶏の孵化と育成、飼料給与、四季の飼養管理を通じ、鶏の特性にあった飼養管理技術を習得する。
家畜人工授精講習会の人工授精、精液精子検査法の実習は本科目内で対応する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～12	養鶏	餌付け　ﾃﾞﾋﾞｰｸ　育すう管理 点灯管理①	24	実習	養鶏ｴﾘｱ	研究員 元水昌仁
13～24	〃	育成管理　駄鶏淘汰　ｹｰｼﾞ移動①	24	実習	養鶏ｴﾘｱ	
25～36	〃	環境保全　糞尿処理	24	実習	養鶏ｴﾘｱ	
37～44	〃	防暑対策	16	実習	養鶏ｴﾘｱ	
45～56	〃	初産調整　点灯管理	24	実習	養鶏ｴﾘｱ	
57～68	〃	餌付け　ﾃﾞﾋﾞｰｸ　育すう管理 点灯管理	24	実習	養鶏ｴﾘｱ	
69～80	〃	育成管理　駄鶏淘汰　ｹｰｼﾞ移動	24	実習	養鶏ｴﾘｱ	
81～92	〃	防寒対策　廃鶏出荷	24	実習	養鶏ｴﾘｱ	
93～100	〃	鶏舎水洗消毒	16	実習	養鶏ｴﾘｱ	
101～122	講習会	家畜人工授精講習会 （人工授精）	44	実習	養豚ｴﾘｱ	
123～126	〃	家畜人工授精講習会 （精液精子検査法）	8	実習	養豚ｴﾘｱ	
計			252			

他の科目との関連並びに留意事項

養鶏専攻の学生が行う科目である。
養鶏専攻であっても、家畜人工授精講習会を受講する。

教材

テキスト
「最新　畜産ハンドブック」
扇元敬司ほか：講談社

参考書
「新編　養鶏ハンドブック」
：田先威和夫ほか：養賢堂
「養鶏」　後藤悦男：ｺﾞﾄｳﾃｸﾆｶﾙ
「採卵鶏飼養管理マニュアル」
：畜産技術協会

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部畜産学科　中小家畜コース　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
飼養管理	－	10	10	80	100

評価のポイント
・
・出席は欠席1回につきマイナス1点とする。（遅刻早退3回で欠席1回、最高マイナス10点）
・態度は実習への取り組み姿勢を評価する。
・技能、レポートは、飼養管理技術の習熟状況を評価する。

養成部　２年　専門科目（専攻科目Ⅱ）

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	繁殖育種		
担当名	農林技術研究所研究員、畜産振興課職員等		
開講学科	畜産学科中小家畜コース	学年・学期	２年
必選の別・単位数（単位時間）	必修・２単位(72単位時間)	免許・資格との関係	家畜人工授精師(豚)免許

授業内容

品種の特性、生殖器の構造と機能、人工授精技術、育種改良に必要な知識を習得する。
本県で開催される家畜人工授精に関する講習会の講義分は本科目内で対応する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1，2	養鶏	品種とその特性	4	講義	講義室	研究員
3	〃	日本の銘柄鶏	2	講義	講義室	
4	〃	生殖器の構造と機能	2	講義	講義室	
5	〃	性ホルモンの種類と作用	2	講義	講義室	
6～８	〃	孵化、人工授精、雌雄鑑別	6	講義	講義室	
9	〃	試験　補講	2	講義	講義室	
10～13	養鶏	育種の基礎（質的、量的形質）	8	講義	講義室	研究員
14～16	〃	集団遺伝学、選抜法、交配	6	講義	講義室	
17	〃	遺伝と環境の相互作用	2	講義	講義室	
18	〃	試験　補講	2	講義	講義室	
19	養豚	品種とその特性	2	講義	講義室	研究員
20	〃	日本の銘柄豚	2	講義	講義室	
21，22	〃	生殖器の構造と機能	4	講義	講義室	
23，24	〃	性ホルモンの種類と作用	4	講義	講義室	
25．26	〃	育種の基礎（質的、量的形質）	4	講義	講義室	
27～34	講習会	人工授精講習会（人工授精等）	16	講義	講義室	
35	〃	人工授精講習会（法規等）	2	講義	講義室	畜産振興課職員等
36	〃	人工授精講習会（終業試験）	2	講義	講義室	
計			72			

他の科目との関連並びに留意事項

家畜人工授精講習会で行う人工授精、精液精子検査法の実習については「飼養管理」の実習として対応する。

教材

テキスト

日本家畜人工授精師協会：
「家畜人工授精講習会テキスト」

参考書

「養豚ハンドブック」　丹羽太左衛門：養賢堂
「新編　養鶏ハンドブック」田先威和夫ほか：養賢堂
「最新　畜産ハンドブック」
扇元敬司ほか：講談社
「採卵鶏飼養管理マニュアル」
：畜産技術協会
「養鶏」　後藤悦男：ｺﾞﾄｳﾃｸﾆｶﾙ

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部畜産学科　中小家畜コース　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
繁殖育種	50	10	10	30	100

評価のポイント
・試験：養豚と養鶏毎にそれぞれ50点で100点満点とし、点数を試験配分割合に乗ずる。
　養豚は家畜人工授精講習会の修業試験も加味する。
・出席は欠席1回につきマイナス1点とする。（遅刻早退3回で1回欠席、最高マイナス10点）
・態度は講義及び演習等での取り組み姿勢や授業態度で評価する。
・技能・レポートは主に実験、演習等の習熟度で評価する。

養成部　２年　専門科目（専攻科目Ⅱ）

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	衛生疾病		
担当名	農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科中小家畜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・１単位(36単位時間)	免許・資格との関係	なし

授業内容

養鶏、養豚における一般的な衛生管理と各種疾病、消毒薬、ワクチンについて必要な知識を習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	養鶏	養鶏場の衛生管理	2	講義	講義室	研究員
2	〃	細菌病	2	講義	講義室	
3	〃	ウィルス病	2	講義	講義室	
4	〃	寄生虫病	2	講義	講義室	
5	〃	消毒薬と消毒方法	2	講義	講義室	
6	〃	ワクチンとその応用	2	講義	講義室	
7	〃	家畜伝染病予防法、薬事法	2	講義	講義室	
8	〃	鶏の解剖	2	実習	養鶏ｴﾘｱ	
9	〃	試験	2	講義	講義室	
10	養豚	ＳＰＦ養豚場の衛生管理	2	講義	講義室	研究員
11	〃	細菌病	2	講義	講義室	
12	〃	ウィルス病	2	講義	講義室	
13	〃	寄生虫病	2	講義	講義室	
14	〃	消毒薬と消毒方法	2	講義	講義室	
15	〃	ワクチンとその応用	2	講義	講義室	
16	〃	家畜伝染病予防法、薬事法	2	講義	講義室	
17	〃	豚の解剖	2	講義	養豚ｴﾘﾔ	
18	〃	試験	2	講義	講義室	
計			36			

他の科目との関連並びに留意事項

教材

テキスト

「最新　畜産ハンドブック」
扇元敬司ほか：講談社

参考書

「養豚ハンドブック」　丹羽太左衛門：養賢堂
「新編　養鶏ハンドブック」田先威和夫ほか：養賢堂
「養鶏」　後藤悦男：ｺﾞﾄｳﾃｸﾆｶﾙ
「採卵鶏飼養管理マニュアル」：畜産技術協会
「カラーマニュアル鳥の病気」：鶏病研究会
「豚病学」熊谷哲夫ほか：養賢堂

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部畜産学科　中小家畜コース　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
衛生疾病	70	15	15	－	100

評価のポイント
・試験は養豚と養鶏毎にそれぞれ50点の配点で、その合計点数を試験配分割合に乗ずる。
・出席は欠席1回につきマイナス2点とする。（遅刻早退3回で1回欠席、最高マイナス10点）
・態度は講義中の授業態度、取り組み意欲を評価する。

養成部　２年　専門科目（専攻科目Ⅱ）

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	栄養生理		
担当名	農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科中小家畜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・１単位(36単位時間)	免許・資格との関係	なし

授業内容

鶏及び豚の生理的特質を学び、必要とする栄養や飼料について学び、飼料給与に関する必要な知識を習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	養鶏	鶏の生体構造と調節機構	2	講義	講義室	研究員
2	〃	産卵機構	2	講義	講義室	
3	〃	飼料の種類と特性	2	講義	講義室	
4	〃	家畜栄養素と飼料成分	2	講義	講義室	
5	〃	エネルギー代謝（１）	2	講義	講義室	
6	〃	エネルギー代謝（２）	2	講義	講義室	
7	〃	家禽の飼養標準（１）	2	講義	講義室	
8	〃	家禽の飼養標準（２）	2	講義	講義室	
9	〃	試験	2	講義	講義室	
10	養豚	豚の生体構造と調節機構	2	講義	講義室	研究員
11	〃	産肉機構	2	講義	講義室	
12	〃	飼料の種類と特性	2	講義	講義室	
13	〃	家畜栄養素と飼料成分	2	講義	講義室	
14	〃	エネルギー代謝（１）	2	講義	講義室	
15	〃	エネルギー代謝（２）	2	講義	講義室	
16	〃	豚の飼養標準（１）	2	講義	講義室	
17	〃	豚の飼養標準（２）	2	講義	講義室	
18	〃	試験	2	講義	講義室	
計			36			

他の科目との関連並びに留意事項

教材

テキスト

「最新　畜産ハンドブック」
扇元敬司ほか：講談社

参考書

「養豚ハンドブック」　丹羽太左衛門：養賢堂
「新編　養鶏ハンドブック」田先威和夫ほか：養賢堂
「養鶏」　後藤悦男：ｺﾞﾄｳﾃｸﾆｶﾙ
「採卵鶏飼養管理マニュアル」
：畜産技術協会
「日本飼養標準」家禽、豚、飼料成分表
：中央畜産会

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部畜産学科　中小家畜コース　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
栄養生理	70	15	15	－	100

評価のポイント
・試験は養豚と養鶏毎にそれぞれ50点の配点で、その合計点数を試験配分割合に乗ずる。
・出席は欠席1回につきマイナス2点とする。（最高マイナス10点）
・態度は講義中の授業態度、取り組み意欲を評価する。

養成部　２年　専門科目（専攻科目Ⅱ）

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	環境保全		
担当名	農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科中小家畜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・１単位(36単位時間)	免許・資格との関係	なし

授業内容

環境関連法規を理解し、適切なふん尿処理と堆肥化技術を習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	法規	家畜排せつ物処理法	2	講義	講義室	研究員
2	〃	その他の環境関連法規	2	講義	講義室	
3	汚水処理	汚水処理施設（１）	2	講義	講義室	
4	〃	汚水処理施設（２）	2	講義	講義室	
5	〃	汚水処理施設の維持管理	2	講義	講義室	
6	〃	汚水処理の悪臭防止対策	2	講義	講義室	
7	〃	〃　臭気測定	2	講義	講義室	
8	〃	汚水処理施設見学	2	見学	環境エリア	
9	試験	試験	2	講義	講義室	
10	法規	家畜排せつ物処理法	2	講義	講義室	研究員
11	〃	その他の環境関連法規	2	講義	講義室	
12	堆肥化	堆肥化施設（１）	2	講義	講義室	
13	〃	堆肥化施設（２）	2	講義	講義室	
14	〃	堆肥化施設の維持管理	2	講義	講義室	
15	臭気対策	堆肥化施設の悪臭防止対策	2	講義	講義室	
16	〃	〃　臭気測定	2	講義	講義室	
17	〃	堆肥化施設見学	2	見学	環境エリア	
18	試験	試験	2	講義	講義室	
計			36			

他の科目との関連並びに留意事項

教材

テキスト

「最新　畜産ハンドブック」
扇元敬司ほか：講談社

参考書

「養豚ハンドブック」　丹羽太左衛門：養賢堂
「新編　養鶏ハンドブック」田先威和夫ほか：養賢堂
「家畜糞尿処理利用の知識とその実際」
：中央畜産会
「堆肥化施設設計マニュアル」
：中央畜産会
「養鶏」　後藤悦男：ｺﾞﾄｳﾃｸﾆｶﾙ
「採卵鶏飼養管理マニュアル」
：畜産技術協会

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部畜産学科　中小家畜コース　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
環境保全	70	15	15	－	100

評価のポイント
・試験は汚水処理と堆肥化臭気対策毎にそれぞれ50点の配点で、その合計点数を試験配分割合に乗ずる。
・出席は欠席1回につきマイナス2点とする。（最高マイナス10点）
・態度は講義中の授業態度、取り組み意欲を評価する。

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	流通加工		
担当名	農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科中小家畜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・１単位(36単位時間)	免許・資格との関係	なし

授業内容

鶏卵、鶏肉、豚肉の取引規格、品質や流通方法、消費動向を学ぶとともに、加工技術や方法を実習も交えて習得する。
また、静岡県における銘柄化の現状を学び、付加価値の高い畜産物の生産や加工商品の提供について修得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	採卵鶏	鶏卵の規格と品質	2	講義	講義室	研究員
2	〃	鶏卵の鮮度と貯蔵、ＧＰｾﾝﾀｰ	2	講義	講義室	
3	〃	鶏卵の加工と流通	2	講義	講義室	
4	肉用鶏	鶏肉の規格と品質	2	講義	講義室	
5	〃	食鳥検査とｲﾝﾃｸﾞﾚｰｼｮﾝ	2	講義	講義室	
6	〃	駿河シャモの現状	2	講義	講義室	
7	養鶏全般	鶏卵、鶏肉と消費者ニーズ	2	講義	講義室	
8	〃	施設見学	2	講義	養鶏ｴﾘｱ	
9	〃	試験　補講	2	講義	講義室	
10	養豚	豚肉の規格と品質	2	講義	講義室	研究員
11	〃	豚肉の鮮度と貯蔵、食肉ｾﾝﾀｰ	2	講義	講義室	
12	〃	枝肉取引規格	2	講義	講義室	
13	〃	銘柄豚の特質	2	講義	講義室	
14	〃	静岡型銘柄豚の現状	2	講義	講義室	
15	〃	食肉と消費者ニーズ	2	講義	講義室	
16	〃	豚肉の加工	2	講義	講義室	
17	〃	ハム、ソーセージ作り	2	実習	養豚ｴﾘｱ	
18	〃	試験　補講	2	講義	講義室	
計			36			

他の科目との関連並びに留意事項

教材

テキスト

「最新　畜産ハンドブック」
扇元敬司ほか：講談社

参考書

「養豚ハンドブック」　丹羽太左衛門：養賢堂
「新編　養鶏ハンドブック」田先威和夫ほか：養賢堂
「食肉が分かる用語集」
：日本食肉消費総合ｾﾝﾀｰ
「養鶏」　後藤悦男：ｺﾞﾄｳﾃｸﾆｶﾙ
「採卵鶏飼養管理マニュアル」
：畜産技術協会

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部畜産学科　中小家畜コース　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
流通加工	70	15	15	－	100

評価のポイント
・試験は養豚と養鶏毎にそれぞれ50点の配点で、その合計点数を試験配分割合に乗ずる。
・出席は欠席1回につきマイナス2点とする。（遅刻、早退3回で欠席1回とし、最高マイナス10点）
・態度は講義中の授業態度、取り組み意欲を評価する。

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	大型機械		
担当者	山本千晶　鈴木鉄夫　鈴木利雄		
開講学科	園芸・茶業・果樹・畜産	学年・学期	2年　前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・２単位(72 単位時間)	免許・資格との関係	大特(農耕)取得を目指す

授業内容

大型乗用トラクターの運転操作、点検保守管理及び各種作業機の取扱いの技能とトラクターの構造と機能の知識、及び農作業安全について習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	トラクターの機能と基本操作Ⅰ	トラクター概論、各部の構造と機能	4	講義	講義室	鈴木利雄
2	トラクターの機能と基本操作Ⅱ	各部の構造と機能、基本作業と耕法・機械化作業体系(作業機)	4	講義	講義室	鈴木利雄
3	トラクターの機能と基本操作Ⅲ	燃料と潤滑油、各種工具の使用方法	4	講義	講義室	鈴木利雄
4	農作業安全	農作業事故を起こさないために注意すること	4	講義	講義室	山本他
5	仕業点検と保守管理	トラクターの点検方法	8	実習	格納庫	鈴木鉄夫他
6	作業機の着脱・調整	ロータリ・プラウの着脱・調整	4	実習	格納庫	鈴木鉄夫他
7	耕耘整地方法	ロータリ・プラウによる耕耘	4	実習	圃場	鈴木鉄夫他
8	コース走行練習	道路交通法による運転操作	30	実習	コース	山本他
9	成績評価試験	学科と仕業点検の試験	4	試験	講義室格納庫	山本他
10	運転免許試験	大特(農耕)の運転免許試験	4	実習	コース	山本他
11	免許即日交付手続き	免許の作成、公道走行の注意事項	2	講義	西部運転免許センター	山本他

他の科目との関連並びに留意事項

普通免許を未取得の場合、大特(農耕)の運転免許試験を受験できないため、本授業が開始される前に、普通免許を必ず取得しておくこと。

教材	テキスト	参考書
	「トラクターの機能と基本操作（改訂版）」 編著者：全国農業機械化研修連絡会 発行所：一般社団法人　日本農業機械化協会	

令和2年度　授業評価基準

学部・学科・コース　養成部（園芸、畜産、林業、茶業、果樹）　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
大型機械	70	15	15	0	100

評価のポイント
・試験、出席、態度により評価する。試験は学科及び実技（仕業点検）を実施する。
・学科試験は100点満点で採点し、5割未満は再試を行う。再試は同一問題で行い7割5分以上を合格とする。再試合格の評価は50点、不合格は不可とする。
・実技試験は100点満点で採点し、5割未満は再試を行う。再試は同一問題で行い7割5分以上を合格とする。再試合格の評価は50点、不合格は不可とする。
・出席点は15点満点で出席コマ数により計算する。遅刻早退はその割合により減点する。
・態度点は授業態度（講義・実習）により採点する。無断欠席1日につき5点減点する。

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目	中小家畜飼養特論		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科中小家畜コース	学年・学期	２年・後期
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・5単位（180単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

（養鶏専攻）高品質鶏卵、鶏肉の生産のために必要な飼養管理技術を習得する。
（養豚専攻）高品質な豚肉の生産のために必要な飼養管理技術を修得する。
（共通事項）卒業論文の課題解決のためのデータ収集等も併せて行う。

授業計画

〔養鶏専攻〕

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～12	養鶏	点灯管理	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	研究員
13～24	〃	防暑対策、防寒対策	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
25～36	〃	初産調整	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
37～48	〃	卵殻改善	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
49～60	〃	強制換羽	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
61～72	〃	破卵対策	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
73～78	〃	鶏の解体	12	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
79～90		卒業論文関連データ収集	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
計			180			

〔養豚専攻〕

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～12	養豚	豚舎消毒 予防注射 下痢対策	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	研究員
13～24	〃	発情鑑定　種付け　防暑対策	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
25～36	〃	発情鑑定　種付け　精液検査	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
37～48	〃	衛生検査　候補豚管理	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
49～60	〃	呼吸器病対策　繁殖計画　防寒対策	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
61～72	〃	妊娠鑑定　繁殖成績まとめ	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
73～78	〃	肥育調査成績まとめ	12	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
79～90		卒業論文関連データ収集	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
計			180			

他の科目との関連並びに留意事項

卒業論文の課題と併せ、「中小家畜飼養」、「繁殖育種」、「衛生疾病」、「環境保全」の４つの特論から１つを選択する。
卒業論文に反映できるような幅広い知識を習得する。

教材

テキスト
「最新　畜産ハンドブック」
扇元敬司ほか：講談社

参考書
「新編　養鶏ハンドブック」
田先威和夫ほか：養賢堂
「養鶏」　後藤悦男：ｺﾞﾄｳﾃｸﾆｶﾙ
「採卵鶏飼養管理マニュアル」
：畜産技術協会
「養豚ハンドブック」丹羽太左衛門：養賢堂

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	育種繁殖特論		
担当名	農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科中小家畜コース	学年・学期	２年
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・5単位（180単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

（養鶏専攻）種鶏の維持のための遺伝・育種の知識や鶏の繁殖機能について習得する
（養豚専攻）豚の改良に必要な交配と選抜の基本を学び、系統造成、クローン技術についての知識を深める。
（共通事項）卒業論文の課題解決のためのデータ収集等も併せて行う。

授業計画

〔養鶏専攻〕

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～12	養鶏	質的形質の遺伝	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	研究員
13～24	〃	経済形質の遺伝	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
25～36	〃	交配様式	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
37～48	〃	閉鎖群育種	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
49～60	〃	ホルモン分泌	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
61～72	〃	卵巣機能、精巣機能	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
73～78	〃	人工授精	12	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
79～90		卒業論文関連データ収集	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
計			180			

〔養豚専攻〕

1～12	養豚	質的形質の遺伝	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	研究員
13～24	〃	経済形質の遺伝	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
25～36	〃	交配様式	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
37～48	〃	閉鎖群育種	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
49～60	〃	ホルモン分泌	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
61～72	〃	遺伝と環境	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
73～78	〃	ｱﾆﾏﾙﾃｸﾉﾛｼﾞｰ　調査成績まとめ	12	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
79～90		卒業論文関連データ収集	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
計			180			

他の科目との関連並びに留意事項

卒業論文の課題と併せ、「中小家畜飼養」、「繁殖育種」、「衛生疾病」、「環境保全」の４つの特論から１つを選択する。
卒業論文に反映できるような幅広い知識を習得する。

教材

テキスト

「最新　畜産ハンドブック」
扇元敬司ほか：講談社

参考書

「養豚ハンドブック」　丹羽太左衛門：養賢堂
「新編　養鶏ハンドブック」田先威和夫ほか：養賢堂
「養鶏」　後藤悦男：ｺﾞﾄｳﾃｸﾆｶﾙ
「採卵鶏飼養管理マニュアル」
：畜産技術協会
「家畜人工授精講習会テキスト」
：日本家畜人工授精師協会

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	衛生疾病特論		
担当名	農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科中小家畜コース	学年・学期	２年
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・5単位（180単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

（養鶏専攻）養鶏における日常的な各種衛生対策を習得する。
（養豚専攻）養豚における日常的な各種衛生対策を習得する。
（共通事項）ＨＡＣＣＰに基づく衛生管理方法を学ぶ。
卒業論文の課題解決のためのデータ収集等も併せて行う。

授業計画

〔養鶏専攻〕

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～12	養鶏	ＨＡＣＣＰに基づく衛生管理	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	研究員
13～24	〃	衛生プログラム	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
25～36	〃	サルモネラ対策	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
37～48	〃	ワクチン接種	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
49～60	〃	外部寄生虫対策	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
61～72	〃	虫卵検査、血清検査	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
73～78	〃	解剖検査	12	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
79～90		卒業論文関連データ収集	24	実習・講義	養鶏ｴﾘｱ	
計			180			

〔養豚専攻〕

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～12	養豚	ＳＰＦ豚衛生プログラム	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	研究員
13～24	〃	衛生動物対策	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
25～36	〃	子豚の下痢対策	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
37～48	〃	呼吸器病対策	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
49～60	〃	各種衛生検査法	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
61～72	〃	ＨＡＣＣＰに基づく衛生管理	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
73～78	〃	解剖検査　調査成績まとめ	12	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
79～90		卒業論文関連データ収集	24	実習・講義	養豚ｴﾘｱ	
計			180			

他の科目との関連並びに留意事項

卒業論文の課題と併せ、「中小家畜飼養」、「繁殖育種」、「衛生疾病」、「環境保全」の４つの特論から１つを選択する。
卒業論文に反映できるような幅広い知識を習得する。

教材	テキスト	参考書
	「最新　畜産ハンドブック」 扇元敬司ほか：講談社	「養豚ハンドブック」　丹羽太左衛門：養賢堂 「新編　養鶏ハンドブック」田先威和夫ほか：養賢堂 「養鶏」　後藤悦男：ｺﾞﾄｳﾃｸﾆｶﾙ 「採卵鶏飼養管理マニュアル」：畜産技術協会 「カラーマニュアル鳥の病気」：鶏病研究会 「豚病学」　熊谷哲夫ほか：養賢堂

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	環境保全特論		
担当名	農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科中小家畜コース	学年・学期	２年
必選の別・単位数（単位時間）	選択必須・5単位（180単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

環境関連法規を理解し、環境に配慮した実用的な糞尿処理技術を習得する。
卒業論文の課題解決のためのデータ収集等も併せて行う。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～12	法規	家畜排せつ物処理法	24	実習・講義	環境ｴﾘｱ	研究員
13～24	〃	畜産関連法規	24	実習・講義	環境ｴﾘｱ	
25～30	施設	堆肥化施設	12	実習・講義	環境ｴﾘｱ	
31～42	〃	施設の維持管理　調査まとめ	24	実習・講義	環境ｴﾘｱ	
43～60	堆肥化	堆肥化処理技術（１）	36	実習・講義	環境ｴﾘｱ	
61～78	〃	悪臭防止技術（１）、（２）	36	実習・講義	環境ｴﾘｱ	
79～90		卒業論文関連データ収集	24	実習・講義	環境ｴﾘｱ	
計			180			

他の科目との関連並びに留意事項

卒業論文の課題と併せ、「中小家畜飼養」、「繁殖育種」、「衛生疾病」、「環境保全」の４つの特論から１つを選択する。
卒業論文に反映できるような幅広い知識を習得する。

教材

テキスト

「最新　畜産ハンドブック」
扇元敬司ほか：講談社

参考書

「養豚ハンドブック」　丹羽太左衛門：養賢堂
「新編　養鶏ハンドブック」田先威和夫ほか：養賢堂
「家畜糞尿処理利用の知識とその実際」
：中央畜産会
「堆肥化施設設計マニュアル」
：中央畜産会
「養鶏」　後藤悦男：ｺﾞﾄｳﾃｸﾆｶﾙ
「採卵鶏飼養管理マニュアル」
：畜産技術協会

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部畜産学科　中小家畜コース　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
選択特論	－	10	10	80	100

評価のポイント
・中小家畜飼養、育種繁殖、衛生疾病、環境保全の中から選択する。
・卒業論文と連動した内容であり、その実験や調査研究の取り組みについて評価する。
・出席は欠席1回につきマイナス1点とする。（遅刻早退3回で欠席1回、最高マイナス10点）
・態度は講義中の授業態度、取り組み意欲を評価する。
・技能・レポートは主に実験、調査内容、取りまとめ等の習熟度、完成度で評価する。

養成部　２年　専門科目　専攻科目Ⅱ（H31 入学生）

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	森林保護		
担当者	静岡県猟友会、県自然保護課、外部講師、農林技術研究所研究員、樹木医		
開講学科	林業学科	学年・学期	２年　前・後期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・2.0 単位(72 単位時間)	免許・資格との関係	狩猟免許（わな）

授業内容

森林の育成及び管理の過程で発生する各種の病虫獣害等の種類・原因及びその防除法、緑化木などに関する病虫害の診断法を習得する。

また、農山村地域で深刻な問題となっている動物被害対策として、鳥獣被害管理と野生動物保護に関する知識を習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～4	樹木害虫等の種類と防除法	樹木病の種類と防除法及び樹木害虫の生態等	8	講義	林業分校	研究員 榊原道伸
5～8	松くい虫等被害	松くい虫やナラ枯れなど重要な病害虫のメカニズムや被害実態や防除法等	8	講義 実習	林業分校 浜松市天竜区等	
9～12	一般樹木病虫害の診断と防除	緑化木等一般樹木の病気の診断と防除方法	8	講義 実習	浜松市天竜区等	樹木医 研究員 榊原道伸
13～14	動物による被害と防除法	森林動物の生態と特徴	4	講義	林業分校	研究員 榊原道伸
15～18			8	実習	豊橋市動植物公園	
19～26		シカによる被害と防除法	16	講義 実習	浜松市天竜区等	研究員 榊原道伸
27～28		イノシシによる被害及び防除法	4	講義 実習	林業分校等	研究員 榊原道伸
29～30	鳥獣捕獲管理と野生生物保護管理	鳥獣捕獲管理と野生生物保護管理	4	講義	林業分校	自然保護課 榊原道伸、研究員
31～33		狩猟免許（わな）試験予備講習	6	講義 実習	静岡市駿河区	静岡県猟友会
34～36		狩猟免許（わな）試験	6	講義 実習	浜松市天竜区	静岡県猟友会
計			72	(30)		

他の科目との関連並びに留意事項

・２月に狩猟免許（わな）試験を受験する。

なお、希望者は、８月に狩猟免許（わな）試験を受験し２月に狩猟免許（鉄砲）試験を受験する。

教材	テキスト 講師が作成するテキスト	参考書 狩猟読本、樹病学（地球出版）、森林保護学（文永堂出版）、樹木病害虫図鑑（保育社）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部　林業学科　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
森林保護		10	10	80	100

評価のポイント

1　講義への出席、取組み態度及び質問等による理解度を評価します。
2　実習への出席、取組み態度及び技術習得状況を評価します。
3　レポートを指示された講義等については、レポートの提出及び内容を評価します。
4　小テストを指示された講義等については、テストの点数を評価します。
5　資格（狩猟免許）取得成果については、「技能・レポート」に含めて評価します。

授業科目名	環境保全		
担当者	県西部農林天竜農林局、県中遠農林事務所、外部講師、農林技術研究所研究員		
開講学科	林業学科	学年・学期	2年　前・後期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・1.5 単位(54 単位時間)	免許・資格との関係	

授業内容

森林における植生及び樹木の種類とその特性を講義すると共に、現地において植生・樹木を観察し、標本を採集し、採集品の整理と標本作りの方法を指導する。
森林の公益的機能として、山地治山や海岸防災林について現地視察により知識を学習する。
海岸防災林の造成管理技術を習得させる。
緑化木の根回し・移植実習により、緑化木の保育技術を習得する。
公園等の維持管理の知識や技術を習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～4	森林植生・樹木の種類と特性	概論及び森林植生調査	8	講義実習	分校教室 浜松市天竜区	研究員 榊原道伸
5～8	森林機能の強化	山地治山施工	8	講義実習	浜松市	西部農林事務所天竜農林局 榊原道伸、研究員
9～12		海岸防災林(防潮堤)施工	8		御前崎市他	中遠農林 榊原道伸 研究員
13～16	環境緑化	海岸防災林造成管理	8	講義実習	浜松市	研究員 榊原道伸
17～24	緑化木等の生産・管理	緑化木の管理、根回し及び移植	16	講義実習	浜松市浜北区	外来講師 榊原道伸 研究員
25～27		公園等の維持管理	6	講義実習	磐田市	外来講師 榊原道伸 研究員
計			54	(50)		

他の科目との関連並びに留意事項

・海岸防災林については、育林Ⅲで防潮堤への植栽実習で造成技術を学ぶ。

教材	テキスト	参考書
	講師が作成するテキスト	環境緑化の手引き（地球社　東堂行雄　著） 原色日本植物図鑑　木本編Ⅰ、Ⅱ（保育社　北村四郎　外著） 日本の野生植物　木本Ⅰ、木本Ⅱ（平凡社　佐竹義輔　外著）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部　林業学科　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
環境保全		10	10	80	100

評価のポイント

1　講義への出席、取組み態度及び質問等による理解度を評価します。
2　実習への出席、取組み態度及び技術習得状況を評価します。
3　レポートを指示された講義等については、レポートの提出及び内容を評価します。
4　小テストを指示された講義等については、テストの点数を評価します。

授業科目名	育林Ⅲ		
担当者	榊原道伸、天竜森林組合、県浜松土木事務所、県志太榛原農林事務所、外部講師、農林技術研究所研究員		
開講学科	林業学科	学年・学期	2年　前期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・1.5 単位(54 単位時間)	免許・資格との関係	

授業内容
多様な森林の造成に関する知識を講義等により習得する。
海岸林の造成について、植栽実習等を通じて知識を習得する。
コンテナ苗による植栽等を通じて、省力化への意識を高める。
刈払機の点検整備を学んだ上で、刈払機等による下刈実習により技術を習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～2	森林の造成	多様な森林の造成及び土壌構成	4	講義実習	林業分校	研究員
3～6		海岸林の造成（植栽）	8	実習等	浜松市南区等	浜松土木事務所 榊原道伸、研究員
7～10		山林の造成（植栽）	8	実習等	浜松市天竜区等	天竜森林組合 榊原道伸、研究員
11～13		山林の造成（コンテナ苗）	6	実習等	藤枝市等	志太榛原農林事務所 榊原道伸、研究員
14～17	森林管理	刈払機の点検整備	8	実習	林業分校	外来講師
18～19		下刈り（刈払機等）	4	実習等	林業分校等	研究員 榊原道伸
20～23			8	実習等	センター演習林等	
24～27			8	実習等	浜松市天竜区等	天竜森林組合 榊原道伸、研究員
計			54	(50)		

他の科目との関連並びに留意事項
・海岸防災林については、環境保全（森林機能強化）での治山事業実習のなかで学ぶ。

教材	テキスト	参考書
	刈払機取扱作業者必携（林材業労災防止協会、厚生労働省安全衛生課　編）	造林学－三訂版－（朝倉書店、川名　明、片岡寛純著）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部　林業学科　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
育林Ⅲ		10	10	80	100

評価のポイント

1　講義への出席、取組み態度及び質問等による理解度を評価します。
2　実習への出席、取組み態度及び技術習得状況を評価します。
3　レポートを指示された講義等については、レポートの提出及び内容を評価します。
4　小テストを指示された講義等については、テストの点数を評価します。

授業科目名	育林Ⅳ		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	林業学科	学年・学期	2年　前・後期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・2.0 単位(72 単位時間)	免許・資格との関係	

授業内容

育苗と母樹管理、育種の基礎と最新の育林技術、エリートツリーに関する知識を講義や実習等により習得する。

また、良質材生産技術として、枝打ち技術等を習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～2	育苗	播種量の算定	4	講義	林業分校等	研究員 榊原道伸
3～6		種子採取、育苗、母樹管理	8	実習等	研究センター等	研究員 榊原道伸
7～10			8	実習等	研究センター等	研究員 榊原道伸
11～12	林木育種	林木育種事業の概要	4	講義等	林業分校	研究員 榊原道伸
13～14		新しい育林技術	4	講義等	林業分校等	
15～16		スギ･ヒノキの挿し木	4	実習等	研究センター等	
17～18		エリートツリー（生長量調査）	4	講義等	林業分校等	研究員 榊原道伸
19～28			20	実習等	育種場等	
29～36	森林管理	枝打ち	16	実習等	浜松市天竜区等	研究員 榊原道伸
計			72	(56)		

他の科目との関連並びに留意事項

教材	テキスト	参考書
	講師が作成するテキスト	林木育種学（文永堂出版、上飯坂実、堤利夫、武居有恒　著） 静岡県枝打・間伐技術指針（静岡県、県農地森林部　編） さし木の理論と実際（地球出版　森下義郎、大山浪雄　著）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部　林業学科　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
育林Ⅳ		10	10	80	100

評価のポイント

1　講義への出席、取組み態度及び質問等による理解度を評価します。
2　実習への出席、取組み態度及び技術習得状況を評価します。
3　レポートを指示された講義等については、レポートの提出及び内容を評価します。
4　小テストを指示された講義等については、テストの点数を評価します。

授業科目名	林業経営Ⅱ		
担当者	榊原道伸、天竜森林組合、外部講師、農林技術研究所研究員		
開講学科	林業学科	学年・学期	2年　前・後期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・1.5 単位(54 単位時間)	免許・資格との関係	

授業内容

林業経営を行なうには、森林を適正に評価することが基礎となることから、森林調査等を行い、データ処理と森林の評価等を演習する。また、近年、ICT 活用について様々な研究がなされ新たな調査方法が開発・提案されてきていることから、ドローンを使用した森林調査方法等についても習得する。

ドローンを利用した森林調査については、静岡大学演習林等をフィールドとし、大学の協力を得て実施する。

また、コスト計算、丸太評価及び日報等の再検討で林業経営等について学習する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～12	森林評価	森林調査 （周囲測量、毎木調査等）	24	実習等	浜松市天竜区等	外来講師 榊原道伸 研究員
13～19		演習 （製図、データ処理等）	14	演習等	林業分校等	
20～23	林業経営論	効率的な林業経営の方法等	8	講義 演習等	林業分校等	研究員 榊原道伸
24～27		コスト計算と丸太評価等	8	講義 演習等	林業分校等	天竜森林組合 榊原道伸 研究員
計			54	(50)		

他の科目との関連並びに留意事項

また、林内で行う全ての作業が経営に結びつくことから、伐木集運材（Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ）、木材利用（Ⅲ、Ⅳ）及び育林（Ⅲ、Ⅳ）とも関連が深い。

教材	テキスト	参考書
	講師が作成するテキスト	林業技術ハンドブック（全林協、編集委員会　編） 森林・林業白書（日本林業協会、林野庁　編）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部　林業学科　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
林業経営Ⅱ		10	10	80	100

評価のポイント

1　講義への出席、取組み態度及び質問等による理解度を評価します。
2　実習への出席、取組み態度及び技術習得状況を評価します。
3　レポートを指示された講義等については、レポートの提出及び内容を評価します。
4　小テストを指示された講義等については、テストの点数を評価します。

授業科目名	伐木集運材Ⅱ		
担当者	林業技術者協会、林災防・静岡県支部、外部講師		
開講学科	林業学科	学年・学期	2年 前期
必選の別・単位数(単位時間)	必須・1.5 単位(54 単位時間)	免許・資格との関係	機械集材装置運転業務特別教育 林業架線作業主任者免許

授業内容

林業架線作業による集運材に関する知識と基礎的技術について修得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～3	集運材（機械集材装置）	機械集材装置に関する基礎知識	6	講義	林業分校	林業技術者協会 榊原道伸，研究員
4～7		機械集材装置運転業務特別教育	8	講義	研究センター	林災防 静岡県支部
8～11			8	実習		
12～15		機械集材装置の構造	8	講義・実習	浜松市	外来講師 榊原道伸 研究員
16～19		鋼索の継ぎ方	8	実習	林業分校	外来講師 榊原道伸 研究員
20～23		林業架線作業主任者に必要な基礎知識	8	講義	林業分校	林業技術者協会 榊原道伸 研究員
24～27		集材機運転練習	8	実習		
計			54	(24)		

他の科目との関連並びに留意事項

・林業架線作業主任者免許試験は、希望者が受験する。
・実習では安全管理に留意する。

教材	テキスト	参考書
	林業架線作業主任者テキスト　(林材業労災防止協会) 林業架線作業主任者免許試験標準問題集（　〃　） 集材機運転者安全必携　（　〃　） その他講師が準備する資料等	

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部　林業学科　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
伐木集運材Ⅱ		10	10	80	100

評価のポイント

1　講義への出席、取組み態度及び質問等による理解度を評価します。
2　実習への出席、取組み態度及び技術習得状況を評価します。
3　レポートを指示された講義等については、レポートの提出及び内容を評価します。
4　小テストを指示された講義等については、テストの点数を評価します。
5　資格（機械集材装置運転業務特別教育）取得成果については、「技能・レポート」に含めて評価します。

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	伐木集運材Ⅲ		
担当者	林災防静岡県支部、榊原道伸、春野森林組合、外部講師、農林技術研究所研究員		
開講学科	林業学科	学年・学期	2年　前・後期
必選の別・単位数(単位時間)	必須・2.0 単位(72 単位時間)	免許・資格との関係	走行集材機運転業務特別教育

授業内容

高性能林業機械を含めた車両系機械による集運材に関する知識と基礎的技術を習得する。
また、車両系機械導入の基礎となる路網に関する知識を学習する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	林道・林業専用道	林道概論	2	講義	林業分校	研究員 榊原道伸
2～9		測量	16	実習	浜北森林公園	
10～13		製図	8	演習	林業分校	
14～21	森林作業道	作業道開設のポイント 作業道と林業機械	16	講義・実習	浜松市天竜区	外来講師 研究員 榊原道伸
22～25	林内作業車	走行集材機運転業務特別教育講習	8	講義	静岡市等	林災防 静岡県支部
26～29			8	実習		
30～33	大型林業機械	大型林業機械の最新事情	8	講義・実習	林業分校 浜松市天竜区	研究員 外来講師 榊原道伸
34～36		林業機械の操作等	6	講義・実習	浜松市天竜区	研究員 春野森林組合 榊原道伸
計			72	(58)		

他の科目との関連並びに留意事項

・車両系（グラップル等）特別講習や小型車両系建設機械等は、（夏休み期間等に）希望者受講させる。
・実習では安全管理に留意する。

教材	テキスト	参考書
	林道概論（県山林協会、県農林道整備室編） 講師が作成するテキスト	林道必携（日本林道協会、林道技術研究会編） 森林土木ハンドブック(林業土木コンサッルタント、南方　康、秋谷孝一　著)

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部　林業学科　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
伐木集運材Ⅲ		10	10	80	100

評価のポイント

1　講義への出席、取組み態度及び質問等による理解度を評価します。
2　実習への出席、取組み態度及び技術習得状況を評価します。
3　レポートを指示された講義等については、レポートの提出及び内容を評価します。
4　小テストを指示された講義等については、テストの点数を評価します。
5　資格（走行集材機運転業務特別教育）取得成果については、「技能・レポート」に含めて評価します。

授業科目名	伐木集運材Ⅳ		
担当者	榊原道伸、外部講師、農林技術研究所研究員		
開講学科	林業学科	学年・学期	2年　前・後期
必選の別・単位数(単位時間)	必須・1.5 単位(54 単位時間)	免許・資格との関係	伐木等の業務特別教育

授業内容

伐採の基礎道具であるチェンソー機械の整備について習得する。
また、チェンソー点検整備とともに、目立ての方法についても再確認する。
受け口追い口の反復練習を行い、学生間で受け口等の正確性等を競うことも実施する。
伐木・造材に関する基礎的技術を習得する。

授業計画

項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
伐木・造材	チェーンソーの点検整備	8	実習	森林・林業研究センター	外来講師 榊原道伸 研究員
	受け口追い口の安全実施等	8	実習	林業分校 浜北森林公園等	研究員 榊原道伸
	中・大径木伐採	38	実習	浜松市天竜区	研究員 榊原道伸
		54	(54)		

他の科目との関連並びに留意事項

・実習では安全管理に留意する。

教材	テキスト	参考書
	伐木作業者安全衛生必携（林材業労災防止協会） その他講師が準備する資料等	間伐の手引き（日林協、林野庁　編）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部　林業学科　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
伐木集運材Ⅳ		10	10	80	100

評価のポイント

1　講義への出席、取組み態度及び質問等による理解度を評価します。
2　実習への出席、取組み態度及び技術習得状況を評価します。
3　レポートを指示された講義等については、レポートの提出及び内容を評価します。
4　小テストを指示された講義等については、テストの点数を評価します。

授業科目名	木材利用Ⅲ		
担当者	静岡県森林組合連合会、外来講師、榊原道伸、農林技術研究所研究員		
開講学科	林業学科	学年・学期	2年　前期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・1.0 単位（36 単位時間）	免許・資格との関係	

授業内容

木材市場で、伐採後の材の動向について学習する。
木材の屋外施設利用例と屋外施設設置の留意事項等について学習する。
未利用木材資源のバイオマス利用や炭化処理等による有効活用に関する知識を習得する。
多様な木材利用のひとつとして、チップ・パルプ化について学習する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～2	木材利用	木材市場の現状	4	講義 見学	県内木材市場等	県森連 研究員 榊原道伸
3～6	木材の屋外利用	木材を利用した屋内外施設	8	講義 見学	草薙総合体育館他	榊原道伸 研究員
7～10			8	講義 見学	浜北森林公園他	研究員 榊原道伸 外来講師
11～14	木材利用	木質バイオマス化利用視察	8	講義 実習	駿東郡小山町他	榊原道伸 研究員
15～18		未利用間伐材の有効活用 チップ・パルプ化利用視察	8	講義 実習	川根本町 島田市	榊原道伸 研究員
計			36	(28)		

他の科目との関連並びに留意事項

教材	テキスト	参考書
	講師が作成するテキスト	

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部　林業学科　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
木材利用Ⅲ		10	10	80	100

評価のポイント

1　講義への出席、取組み態度及び質問等による理解度を評価します。
2　実習への出席、取組み態度及び技術習得状況を評価します。
3　レポートを指示された講義等については、レポートの提出及び内容を評価します。
4　小テストを指示された講義等については、テストの点数を評価します。

授業科目名	木材利用Ⅳ		
担当者	榊原道伸、外部講師、農林技術研究所研究員		
開講学科	林業学科	学年・学期	2年　前・後期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・2.0 単位(72 単位時間)	免許・資格との関係	

授業内容

県内の製材業者及び工務店等からマーケットインに関する手法等を学習する。
県内で生産されている製材（合板）合板工場を見学し、木材の利用方法について学習する。
木材加工実習を通じ、木材の特質を実体験する。
木材の材質的特性と木造住宅利用との関わりについて必要な基礎知識を学習する。
今後の木材流通において不可欠となるICTの活用について学習する。
特に、森林の評価におけるマルチローター（ドローン）の活用、地理情報システム（GIS）を利用した流通情報の共有、画像処理技術を活用した樹種特定等の最新技術の学習を通して、木材流通のありかた・将来像を学習する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～4	林業と木材利用との関わり	木材の特性と木造住宅の利用	8	講義 見学	県内製材業者 県内工務店等	外来講師 研究員 榊原道伸
5～6	木材流通の新技術	木材流通とICT 木材流通情報の共有化 画像処理技術	4	講義	林業分校 研究センター等	榊原道伸 研究員
7～16			20	実習		
17～20	木材加工	木材合板加工施設視察	8	講義 実習	富士川町等	榊原道伸 研究員
21～36		木材加工実習	32	講義 実習	浜北森林公園 木工体験館	榊原道伸 研究員
計			72	(52)		

他の科目との関連並びに留意事項

木材加工実習で、実践寮食堂の椅子等を制作する。

教材	テキスト 講師が作成するテキスト	参考書 林業技術ハンドブック（全林協、編集委員会　編） 木材工業ハンドブック（丸善株式会社、農林水産省林業試験場　編）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部　林業学科　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
木材利用Ⅳ		10	10	80	100

評価のポイント

1　講義への出席、取組み態度及び質問等による理解度を評価します。
2　実習への出席、取組み態度及び技術習得状況を評価します。
3　レポートを指示された講義等については、レポートの提出及び内容を評価します。
4　小テストを指示された講義等については、テストの点数を評価します。

授業科目名	特用林産Ⅲ		
担当者	外部講師、農林技術研究所研究員		
開講学科	林業学科	学年・学期	2年　前・後期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・1.5 単位(54 単位時間)	免許・資格との関係	

授業内容

しいたけは、中国産しいたけの輸入増加や東日本大震災の原発事故による風評被害等により価格が低迷しているが、山村地域の数少ない複合作目としてなくてはならない重要な作物である。

しいたけ等菌床栽培技術について講義・実習する。

また、野生きのこの生態等について講義・実習する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～6	分類と生態	きのこ及び野生きのこの分類と生態等	12	講義	林業分校	外来講師 榊原道伸山 研究員
7～10	野生きのこ	野生きのこの特徴、生態観察、食毒鑑定	8	実習	浜松市天竜区	研究員 榊原道伸
11～12	しいたけ等栽培	菌床栽培の知識	4	講義	林業分校	研究員 榊原道伸
13～18		原木しいたけ伐採	6	実習	島田市	
19～21		菌床製造及び発生管理	12		研究センター	
22～25		商品しいたけ取扱	8		藤枝市	
26～27		しいたけ栽培施設の見学等	4		島田市	
計			54	(38)		

他の科目との関連並びに留意事項

流通、販売、採算性に関わる知識は林業経営論との関連が深い。

原木しいたけ等栽培は、１年次（特用林産Ⅰ・Ⅱ）にも履修。

教材	テキスト	参考書
	講師が作成するテキスト	菌床椎茸のつくり方（農文協　大森清寿　著） きのこハンドブック（朝倉書店　小川真　外著） 椎茸栽培ハンドブック（県椎連、飯田寧、井上俊、渡辺慶一、山田庄作、武藤治彦　著）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部　林業学科　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
特用林産Ⅲ		10	10	80	100

評価のポイント

1　講義への出席、取組み態度及び質問等による理解度を評価します。
2　実習への出席、取組み態度及び技術習得状況を評価します。
3　レポートを指示された講義等については、レポートの提出及び内容を評価します。
4　小テストを指示された講義等については、テストの点数を評価します。

授業科目名	林業特論Ⅰ		
担当者	外来講師、森林・林業研究センター研究員・企画指導担当、浜松市消防局、榊原道伸、農林技術研究所研究員		
開講学科	林業学科	学年・学期	2年　前期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・2.5 単位(90 単位時間)	免許・資格との関係	フォークリフト運転技能講習

授業内容

・天竜地域の林業の祖である金原明善の教えと、新しい林業を目指す金原治山治水財団の取組みを学ぶ。
・林業災害防止対策として、熱中症対策、救急救命及び危険生物等について正しい知識を学ぶ。また、VR 等の最新装置を利用し安全作業の知識及び技術の習得を目指す。
・研究員の指導の下、研究業務の補助作業を行ない、専門技術の習熟度を上げる。
・土場等で使用されるフォークリフトについて、運転技能講習により知識及び技術を習得する。

授業計画

項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
金原明善の教え	天竜川の治水、天竜川流域の植林事業	8	講義	林業分校	外来講師
	明善記念館視察	4	講義等	浜松市東区	榊原道伸、研究員
林業災害防止	熱中症対策	8	講義	袋井市	榊原道伸、研究員
	救急救命	4	講義 実習	浜松市	榊原道伸、研究員 浜松市消防局
	危険生物（ハチ、ヘビ等）	4	講義	林業分校	榊原道伸、研究員
	チームワークコミュニケーション ビジネスマナー等	16	講義 演習	林業分校等	榊原道伸、研究員
	林業に関する安全教育 （VR等）	4	講義 実習	林業分校等	榊原道伸、研究員
森林・林業研究センター演習等	各科（森林育成科、木材林産科）の業務把握	4	講義 実習	研究センター等	研究センター研究員・企画指導担当 榊原道伸、研究員
	研究補助等	2			
	フォークリフト 運転技能講習	8	講習	陸運労災防止協会等	陸運労災防止協会 静岡県支部等
		24	実技		
	人材開発職業訓練校視察	4	講義 見学	浜松 テクノカレッジ	榊原道伸、研究員
		90	(56)		

他の科目との関連並びに留意事項

・卒業論文の課題を選定するための基礎として実施する。
・フォークリフト運転技能講習（陸運労災防止協会静岡県支部：4 日間）は、全員受講する。

教材	テキスト	参考書
	講師が作成するテキスト	

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部　林業学科　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
林業特論Ⅰ		10	10	80	100

評価のポイント

1　講義への出席、取組み態度及び質問等による理解度を評価します。
2　実習への出席、取組み態度及び技術習得状況を評価します。
3　レポートを指示された講義等については、レポートの提出及び内容を評価します。
4　小テストを指示された講義等については、テストの点数を評価します。
5　資格（フォークリフト運転技能講習及び救急救命）取得成果については、「技能・レポート」に含めて評価します。

授業科目名	林業特論Ⅱ		
担当者	榊原道伸、西部農林天竜農林局、外部講師、農林技術研究所研究員		
開講学科	林業学科	学年・学期	2年　前・後期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・2.5 単位(90 単位時間)	免許・資格との関係	

授業内容
・森林、林業及び環境等に関する内容について、幅広く学習する。
・木育（体験）により、一般県民への木材等の普及を体験するとともに、説明技術を向上する。
・竹林整備により竹への理解を深めると共に地域社会貢献を体験させる。
・森林を利用した地域の振興等について知識を深める。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～4	木育	木や竹の普及	8	実習	浜北区幼稚園	榊原道伸 研究員
5～6			4		西区小学校	
7～10	竹林対策	森の力再生事業視察（人工林整備を含む）	8	実習	浜松市天竜区他	西部農林事務所 天竜農林局 榊原道伸、研究員
11～22		竹林の整備	24	実習	浜松市西区	研究員 志都呂竹林協議会 榊原道伸
23～45	地域の振興対策等	地域の振興対策等（浜北森林公園等）	46	実習	浜松市浜北区等	外来講師 榊原道伸 研究員
計			90	(90)		

他の科目との関連並びに留意事項
・県外研修は、環境保全での森林機能の強化や、育林Ⅲでの森林造成に関する知識・技術の向上に役立つ。

教材	テキスト 講師が作成するテキスト	参考書 伐木作業者安全衛生必携 炭焼き教本（創森社、恩方一村逸品研究所編） 竹炭・竹酢液のつくり方と使い方（農文協、池嶋庸元）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部　林業学科　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
林業特論Ⅱ		10	10	80	100

評価のポイント

1　講義への出席、取組み態度及び質問等による理解度を評価します。
2　実習への出席、取組み態度及び技術習得状況を評価します。
3　レポートを指示された講義等については、レポートの提出及び内容を評価します。
4　小テストを指示された講義等については、テストの点数を評価します。

授業科目	先進経営研修		
担当者	藤田、園芸学科２年担当者		
開講学科	園芸学科	学年・学期	２年・前期・後期
必選の別・単位数（単位時間）	必須・１０単位（360 単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

先進的な経営を行う園芸農家、園芸法人で２ヶ月間研修し、栽培管理から出荷・調製・販売等の農業経営について体験するとともに、経営向上を図るための能力を養う。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
180	1 先進経営体での研修	(1) 研修テーマの選定 (2) 先進農家における実践研修 (3) 研修日誌の取りまとめ (4) 研修報告書の作成及び成果の発表	360	実習	園芸各先進経営体	藤田、園芸２年担当者

他の科目との関連並びに留意事項

・研修評価報告書、巡回時評価、研修記録簿、研修報告書、研修報告会の評価で科目評定を行う

教材	テキスト なし	参考書 なし

授業科目名	先進経営研修		
担当者	先進経営研修受入経営体、小柳津勤		
開講学科	茶業学科	学年・学期	2年・前期
必選の別・単位数(単位時間)	必須・10単位（360単位時間）	免許・資格との関係	なし

【授業内容】

先進的な経営を行う茶農家、茶業法人に2ヶ月間宿泊研修し、茶園管理から製造、販売等の茶業経営について体験するとともに、経営向上を図るための能力を養う。

【授業計画】

時期	内容
第1回（4月13日～6月5日） （前期組）	・農家への約8週間の宿泊研修 ・一番茶の摘採、製造、販売 ・茶園管理（整枝、施肥、防除など）
第2回（5月18日～7月10日） （後期組）	・農家への約8週間の宿泊研修 ・二番茶の摘採、製造、販売 ・茶園管理（整枝、施肥、防除など）
研修報告	・研修成果のとりまとめ ・研修報告会

※ 時間数：360時間

【他の科目との関連並びに留意事項】

・研修経過報告書、研修評価報告書、研修報告会の評価で科目評定を行う。

教材	【テキスト】	【参考書】
		茶生産指導指針（静岡県産業部）

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	先進経営研修		
担当者	山崎俊弘		
開講学科	果樹学科	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必須・１０単位（３６０単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

先進経営研修は、農業に携わる先進経営体に学生を約２ヶ月間依託し、先進経営体の持つ優れた技術や経営理念、経営管理能力等について、実践的に習得させるために行う（前・後期の２班に分けて実施）。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	果樹	先進経営体の優れた栽培技術の実践的習得	360	実習	受入れ農家	農家
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
	計		360			

他の科目との関連並びに留意事項

評価は、先進経営研修記録簿、先進経営研修巡回指導記録簿、先進経営研修経過報告書、先進経営研修評価報告書、先進経営研修報告書、先進経営研修報告発表会等に基づき、総合的に行う。

教材	テキスト	参考書
	先進経営研修上の注意事項 農林大学校先進経営研修報告書	なし

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	先進経営研修		
担　当　者	芹澤宗一郎		
開講学科	畜産学科大家畜コース	学年・学期	２年・前期
必選の別・単位数（単位時間）	必修　・10単位（360単位時間）	免許・資格との関係	

授業内容

県内の優れた酪農又は肉牛経営の先進経営体に学生を委託し、先進経営体の持つ優れた畜産技術や経営管理能力等を実践的に習得させる。

授業計画

回	項　目	内　　容	時間	授業方法	実施場所	講師
180	1 先進経営体での研修	(1)研修テーマの選定 (2)先進農家における実践研修 (3)研修日誌の取りまとめ (4)研修報告書の作成及び成果の発表	360	実習	畜産分校 各先進経営体	芹澤
			360			

他の科目との関連並びに留意事項

畜産経営、乳牛飼養管理、肉牛飼養管理、環境保全、飼料生産調製、家畜管理実習、卒業論文

教材	テキスト	

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	先進経営研修		
担当名	元水昌仁、先進経営体経営者等		
開講学科	畜産学科中小家畜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修・10単位（360単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

県内の先進経営体の持つ優れた畜産技術や経営管理能力等を実践的に習得させる。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～3	事前学習	研修中の注意事項 研修報告の説明 研修テーマの作成	6	講義 演習	講義室	元水昌仁
4～167	研修	先進経営体における実践研修（飼養管理、加工販売、経営管理等）	328	実習	現地（先進経営体）	先進経営体経営者等
168～180	事後学習	報告書の作成 研修成果報告会	26	講義 演習	講義室	元水昌仁
計			360			

他の科目との関連並びに留意事項

現場での実践学習の中で、問題点等を把握し、卒業論文の課題に結び付ける。

教材	テキスト	参考書

授業科目名	先進経営研修		
担当者	先進経営体、榊原道伸、農林技術研究所研究員		
開講学科	林業学科	学年・学期	2年　後期
必選の別・単位数(単位時間)	必須・10 単位(360 単位時間)	免許・資格との関係	

授業内容

農林家等の先進経営体（原則的に生産者）で、経営体の持つ優れた経営管理及び実践的技術を体得させると共に、長期間生活を共にする中から、林業担い手として必要な勤労精神と社会性を養う。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～4	事前指導	研修先の選定	8	講義	林業分校	榊原道伸 研究員
5～6		研修上の注意	4			
7～8		準備	4			
9～168	経営体での実践教育学習や生活体験	経営・技術の実践学習 日誌の記録 家族との共同生活 生活の中での役割の学習 家族との人間関係の学習	320	実習	森林組合 農林家 事業体等	森林組合 農林家 事業体等
169～172	とりまとめ	研修報告書の作成	8	演習	林業分校	榊原道伸 研究員
173～176		プレゼンテーションの作成	8			
177～180		研修成果の発表会	8			
計			360			

他の科目との関連並びに留意事項

先進経営体の行っている経営・技術は、林業経営論をはじめ、専攻学習で学ぶ基礎的な理論や技術の応用の中で、実践論との調整が必要な場合がある。

教材	テキスト	参考書

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　全学科共通　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
先進経営研修	*評価のポイント参照				100

評価のポイント
研修記録簿20点、巡回時評価・経過報告書20点、評価報告書20点、研修報告書20点、報告会・発表成績10点、出席・その他10点

授業科目	卒業論文（野菜コース）		
担当者	藤田主幹、荒川主任、本間主任、宮地技師		
開講学科	園芸学科野菜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必須・３単位（108 単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

特論学習の中で、特定の作目や項目を研究テーマとし、生産性や品質の向上等につながる技術の開発・実証等について、計画の立案、実施、調査、分析、考察、とりまとめを行うことにより、論文を作成し、課題解決の方法を習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～10	研究テーマ設定と計画策定	テーマの選定 試験計画の策定 関連資料の収集	20	講義 調査	講義室 図書室	担当
11～30	実験・調査の実施	実験、調査方法の検討と実施	40	調査 演習	ほ場 現場教室	担当
31～40	結果の分析と考察	試験データの分析 結果の考察 論文の作成	20	演習	現場教室	担当
41～46	発表要旨の作成	発表要旨の作成	12	演習 講義	現場教室	担当
47～54	論文内容の発表	発表	16	発表	視聴覚ホールほか	担当

他の科目との関連並びに留意事項

野菜栽培特論　　１年次営農ゼミ
園芸特論

教材	テキスト	参考書
	農林大学校及び農林短期大学校卒業論文 農林技術研究所（旧農業試験場）成績集 等	農業技術体系（野菜編）農文協 課題に関連した参考文献等

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	卒業論文（野菜生産技術科）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科	学年・学期	2年　前・後期
必選の別・単位数（単位時間）	必須・3単位（108単位時間）	免許・資格との関係	な　し

授業内容

学生が選定した研究テーマについて、計画・実験調査・分析・考察・取りまとめなど、一連の取り組みを通じ、野菜・花きに関する知識、技術の向上を目指す。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1 ～ 11	課題研究テーマの選定と実験調査計画策定	・課題研究に関わる試験成績等の調査 ・課題研究テーマの選定 ・テーマに基づく実験調査計画の策定	22	ゼミ実習	野菜生産技術科 研究所ほ場	研究員
12 ～ 30	実験調査の実施とデータ収集	・課題研究実験調査の実施 ・データ収集 ・データの取りまとめ	37	実習	野菜生産技術科 研究所ほ場	研究員
30 ～ 46	課題研究の分析とまとめ	・実験調査結果の分析 ・実験調査結果の考察 ・卒業論文の作成	33	実習	野菜生産技術科	研究員
47 ～ 54	卒業論文発表	・卒業論文発表、聴講	16	発表会	農大教室	農大園芸2年生担当
			108			

他の科目との関連並びに留意事項

園芸特論（野菜、花き）

教材	テキスト	参考書
		課題に関連した参考文献

授業科目	卒業論文（農業ロボット・経営戦略科）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科	学年・学期	2年 前・後期
必選の別・単位数（単位時間）	必須・3単位（108単位時間）	免許・資格との関係	な し

授業内容

学生が選定した研究テーマについて、計画・実験調査・分析・考察・取りまとめなど、一連の取り組みを通じ、経営・生産システムに関する知識、技術の向上を目指す。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～11	課題研究テーマの選定と実験調査計画策定	・課題研究に関わる試験成績等の調査 ・課題研究テーマの選定 ・テーマに基づく実験調査計画の策定	22	実習	研究所	研究員
12～30	実験調査の実施とデータ収集	・課題研究実験調査の実施 ・データ収集 ・データの取りまとめ	37	実習	研究所	研究員
30～46	課題研究の分析とまとめ	・実験調査結果の分析 ・実験調査結果の考察 ・卒業論文の作成	33	実習	研究所	研究員
47～54	卒業論文発表	・卒業論文発表、聴講	16	発表会	農大教室	農大園芸2年生担当
			108			

他の科目との関連並びに留意事項

教材	テキスト	参考書
		課題に関連した参考文献

授業科目名	卒業論文（加工技術科）		
担当者	農業技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必須・３単位（108単位時間）	免許・資格との関係	な し

授業内容

学生が選定した研究テーマについて、計画・実験調査・分析・考察・取りまとめなど、一連の取り組みを通じ、野菜・果物の貯蔵、品質評価技術、商品開発に関する知識、技術の向上を目指す。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～11	課題研究テーマの選定と実験調査計画策定	・課題研究に関わる試験成績等の調査 ・課題研究テーマの選定 ・テーマに基づく実験調査計画の策定	２２	ゼミ 実習	加工技術科実験室 研究所ほ場	担当
12～30	実験調査の実施とデータ収集	・課題研究実験調査の実施 ・データ収集 ・データの取りまとめ	３７	実習	加工技術科実験室 研究所ほ場	担当
30～46	課題研究の分析とまとめ	・実験調査結果の分析 ・実験調査結果の考察 ・卒業論文の作成	３３	実習	加工技術科実験室 研究所ほ場	担当
47～54	卒業論文発表	・卒業論文発表、聴講	１６	発表会	農林大視聴覚ホール	農林大園芸２年生担当
			１０８			

他の科目との関連並びに留意事項

加工技術特論

教材	テキスト	参考書
		課題に関連した参考文献

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	卒業論文（植物保護・環境保全科）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科	学年・学期	2年　前・後期
必選の別・単位数（単位時間）	必須・3単位（108単位時間）	免許・資格との関係	な　し

授業内容

学生が選定した研究テーマについて、計画・実験調査・分析・考察・取りまとめなど、一連の取り組みを通じ、病害虫に関する知識、技術の向上を目指す。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～11	課題研究テーマの選定と実験調査計画策定	・課題研究に関わる試験成績等の調査 ・課題研究テーマの選定 ・テーマに基づく実験調査計画の策定	22	ゼミ実習	病理実験室 害虫実験室	研究員
12～30	実験調査の実施とデータ収集	・課題研究実験調査の実施 ・データ収集 ・データの取りまとめ	38	実習	病理実験室 害虫実験室	研究員
31～46	課題研究の分析とまとめ	・実験調査結果の分析 ・実験調査結果の考察 ・卒業論文の作成	32	実習	病理実験室 害虫実験室	研究員
47～54	卒業論文発表	・卒業論文発表、聴講	16	発表会	視聴覚ホール	農林大園芸2年担当

他の科目との関連並びに留意事項

教材	テキスト	参考書
	・静岡県農産物病害虫防除基準（静岡県植物防疫協会） ・写真で見る農作物病害虫診断ガイドブック（静岡県植物防疫協会）	課題に関連した参考文献

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部・園芸学科・野菜コース　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
卒業論文	0	10	20	70	100

評価のポイント
　興味関心の強さ、実践力、考察の深さを重視するため、試験は行なわない。「講義中心の科目Ⅱ」を適用する。
　上記項目について、「態度」「技能・レポート」により評価する。

授業科目	卒業論文（花きコース）		
担当者	萩原、名越		
開講学科	園芸学科花きコース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必須・３単位（108単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

特論学習の中で、特定の作目や項目を研究テーマとし、生産性や品質の向上等につながる技術の開発・実証等について、計画の立案、実施、調査、分析、考察、とりまとめ等を行い、課題解決の方法を習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～10	研究テーマ設定と計画策定	テーマの選定 試験計画の策定 関連資料の収集	20	講義 調査	講義室 図書室	担当
11～30	試験、調査	試験、調査方法の検討と実施	40	調査 演習	ほ場 現場教室	担当
31～40	結果の分析と考察	試験データのとりまとめ、分析 結果の考察 論文の作成	20	演習	現場教室	担当
41～46	発表要旨の作成	発表要旨の作成	12	演習 講義	現場教室	担当
47～54	論文内容の発表	発表	16	発表	視聴覚ホール	担当

他の科目との関連並びに留意事項

花き栽培特論(鉢物、切花)
花き生産技術特論他の農林技術研究所で実施する特論
１年次営農ゼミ

教材	テキスト	参考書
	農林大学校及び農林短期大学校卒業論文 農林技術研究所（旧農業試験場）成績集 等	農業技術体系（花き編）農文協 課題に関連した参考文献等

令和2年度農林大学校シラバス

授業科目	卒業論文（花き生産技術科・育種）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科	学年・学期	2年　前・後期
必選の別・単位数（単位時間）	必須・3単位（108単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

学生が選定した研究テーマについて、計画、実験調査、分析、考察、取りまとめなど、一連の取り組みを通じ、野菜、花き等に関する知識、技術の向上を目指す。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～54	課題研究テーマの選定と実験調査計画策定	・課題研究に関わる試験成績等の調査 ・課題研究テーマの選定 ・テーマに基づいた実験調査計画の策定	22	実習	花き生産技術科研究所ほ場	研究員
	実験調査の実施とデータ収集	・課題研究実験調査の実施 ・データ収集 ・データの取りまとめ	38	実習	花き生産技術科研究所ほ場	研究員
	課題研究の分析とまとめ	・実験調査結果の分析 ・実験調査結果の考察 ・卒業論文の作成と成果の取りまとめ	32	実習	花き生産技術科	研究員
	卒業論文発表		16	発表	視聴覚ホール	農林大園芸2年担当

他の科目との関連並びに留意事項

花き生産技術特論（育種）

教材	テキスト	参考書
	特になし	課題に関連した参考文献

授業科目	卒業論文（農業ロボット・経営戦略科）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科	学年・学期	2年　前・後期
必選の別・単位数（単位時間）	必須・3単位（108単位時間）	免許・資格との関係	な　し

授業内容

学生が選定した研究テーマについて、計画・実験調査・分析・考察・取りまとめなど、一連の取り組みを通じ、経営・生産システムに関する知識、技術の向上を目指す。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～11	課題研究テーマの選定と実験調査計画策定	・課題研究に関わる試験成績等の調査 ・課題研究テーマの選定 ・テーマに基づく実験調査計画の策定	22	実習	研究所	研究員
12～30	実験調査の実施とデータ収集	・課題研究実験調査の実施 ・データ収集 ・データの取りまとめ	37	実習	研究所	研究員
30～46	課題研究の分析とまとめ	・実験調査結果の分析 ・実験調査結果の考察 ・卒業論文の作成	33	実習	研究所	研究員
47～54	卒業論文発表	・卒業論文発表、聴講	16	発表会	農大教室	農大園芸2年生担当
			108			

他の科目との関連並びに留意事項

教材	テキスト	参考書 課題に関連した参考文献

授業科目名	卒業論文（加工技術科）		
担当者	農業技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必須・３単位（108単位時間）	免許・資格との関係	な し

授業内容

学生が選定した研究テーマについて、計画・実験調査・分析・考察・取りまとめなど、一連の取り組みを通じ、野菜・果物の貯蔵、品質評価技術、商品開発に関する知識、技術の向上を目指す。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1 ～ 11	課題研究テーマの選定と実験調査計画策定	・課題研究に関わる試験成績等の調査 ・課題研究テーマの選定 ・テーマに基づく実験調査計画の策定	２２	ゼミ 実習	加工技術科実験室 研究所ほ場	担当
12～ 30	実験調査の実施とデータ収集	・課題研究実験調査の実施 ・データ収集 ・データの取りまとめ	３７	実習	加工技術科実験室 研究所ほ場	担当
30 ～ 46	課題研究の分析とまとめ	・実験調査結果の分析 ・実験調査結果の考察 ・卒業論文の作成	３３	実習	加工技術科実験室 研究所ほ場	担当
47～ 54	卒業論文発表	・卒業論文発表、聴講	１６	発表会	農林大視聴覚ホール	農林大園芸２年生担当
			１０８			

他の科目との関連並びに留意事項

加工技術特論

教材	テキスト	参考書
		課題に関連した参考文献

授業科目	卒業論文（植物保護・環境保全科）		
担当者	農林技術研究所研究員		
開講学科	園芸学科	学年・学期	2年　前・後期
必選の別・単位数（単位時間）	必須・3単位（108単位時間）	免許・資格との関係	な　し

授業内容

学生が選定した研究テーマについて、計画・実験調査・分析・考察・取りまとめなど、一連の取り組みを通じ、病害虫に関する知識、技術の向上を目指す。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～11	課題研究テーマの選定と実験調査計画策定	・課題研究に関わる試験成績等の調査 ・課題研究テーマの選定 ・テーマに基づく実験調査計画の策定	22	ゼミ実習	病理実験室 害虫実験室	研究員
12～30	実験調査の実施とデータ収集	・課題研究実験調査の実施 ・データ収集 ・データの取りまとめ	38	実習	病理実験室 害虫実験室	研究員
31～46	課題研究の分析とまとめ	・実験調査結果の分析 ・実験調査結果の考察 ・卒業論文の作成	32	実習	病理実験室 害虫実験室	研究員
47～54	卒業論文発表	・卒業論文発表、聴講	16	発表会	視聴覚ホール	農林大園芸2年担当

他の科目との関連並びに留意事項

教材	テキスト	参考書
	・静岡県農産物病害虫防除基準（静岡県植物防疫協会） ・写真で見る農作物病害虫診断ガイドブック（静岡県植物防疫協会）	課題に関連した参考文献

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部・園芸学科・花きコース　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
卒業論文	0	10	20	70	100

評価のポイント
興味関心の強さ、実践力、考察の深さを重視するため、試験は行なわない。
上記項目について、「態度」「技能・レポート」により評価する。

授業科目名	卒業論文		
担当者	小栁津勤、農林技術研究所研究員		
開講学科	茶業学科	学年・学期	2年・後期
必選の別・単位数(単位時間)	必修・3単位（108単位時間）	免許・資格との関係	なし

【授業内容】

卒業論文の作成を通じて、茶業技術の論理的理解させるとともに、課題解決について計画、実行、まとめの一連の流れを体験させる。

【授業計画】

教科計画	教科内容
1　課題研究テーマの選定と実験計画策定	・課題研究に関わる試験成績等の調査 ・課題研究テーマの選定 ・テーマに基づいた実験計画の策定
2　実験調査の実施とデータ収集	・課題研究実験調査の実施 ・データの取り方と収集 ・データのとりまとめ
3　課題研究の分析とまとめ	・実験調査結果の分析 ・実験調査結果の考察 ・卒業論文の作成と成果のとりまとめ
4　課題研究の発表	・卒業論文発表会

※ 時間数：108時間

【他の科目との関連並びに留意事項】

・専攻特論において調査実験及び論文作成を行う。
・評定は、出席状況、論文内容審査、取り組み態度および発表会での審査を考慮する。

教材	【テキスト】	【参考書】
		茶生産指導指針（静岡県経済産業部） 静岡県茶業の現状（静岡県経済産業部）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　茶業学科　　学年　2年

科目名	論文内容	取組態度	出席	発表会	合計
卒業論文	40	10	10	40	100

評価のポイント
・論文内容と発表会の審査結果を重視し、それぞれ4割ずつの配点とする。
・出席と態度は1割ずつの配点とする。

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	卒業論文		
担当者	山崎俊弘、農林技術研究所研究員		
開講学科	果樹学科	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必須・３単位（１０８単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

特論学習で各自が選んだ研究テーマについて、計画策定、実験・調査、分析、考察、取りまとめといった問題解決に向けての一連の取り組みを通じて、果樹に関する知識を深化させるとともに技術の向上を図る。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	果樹	卒業論文の研究テーマ設定	8	実習	研究室	研究員
2	果樹	研究テーマに関する資料の収集	１２	実習	図書室他	研究員
3	果樹	試験計画の策定	8	実習	研究室	研究員
4	果樹	実験・調査方法の検討	8	実習	研究室	研究員
5	果樹	実験・調査の実施	２０	実習	実験室他	研究員
6	果樹	実験・調査データの整理	１２	実習	研究室	研究員
7	果樹	試験データの分析	１２	実習	研究室	研究員
8	果樹	結果の考察	8	実習	研究室	研究員
9	果樹	卒業論文の作成	１６	実習	研究室	研究員・山崎
10	果樹	卒業論文の口頭発表	4	実習	会議室	山崎
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
	計		108			

他の科目との関連並びに留意事項

評価は、論文の内容と実習態度等を基に総合的に行う。

教材	テキスト	参考書
	農林大学校果樹分校卒業論文集	研究テーマに関連した参考文献・図書等

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部果樹学科　　学年 2年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
卒業論文	0	0	30	70	100

評価のポイント
態度の評価は、良（減点なし）～不良（30点減点）で評価。

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	卒業論文		
担　当　者	芹澤宗一郎、研究員		
開講学科	畜産学科大家畜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必修　・３単位（108単位時間）	免許・資格との関係	

授業内容

卒業論文の作成を通じて、乳牛･肉牛の飼養管理技術や飼料作物の栽培技術、ふん尿処理技術について理解させると共に、課題解決能力を養成する。

授業計画

回	項　目	内　容	時間	授業方法	実施場所	講師
3	1 研究テーマ設定と計画策定	(1)研究テーマの選定 (2)計画策定	6	講義 演習	畜産分校 畜技研	芹澤 研究員
26	2 実験及び調査	(1) 実験及び調査	52	講義 実験 調査 実習	畜産分校 畜技研	芹澤 研究員
25	3 結果の分析と考察	(1) 分析とまとめ (2) 研究成果集作成 (3) 研究成果発表	50	講義 演習	畜産分校 畜技研	芹澤 研究員
			108			

他の科目との関連並びに留意事項

畜産経営、乳牛飼養管理、肉牛飼養管理、環境保全、飼料生産調製、家畜管理実習、先進経営研修

教材	テキスト	

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　畜産学科(大家畜コース)　　学年　2学年

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
卒業論文	40	10	10	40	100

評価のポイント

試験は卒論発表会の審査員評価とする。
技能・レポートは卒論報告書の内容を評価する。

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	卒業論文		
担当名	元水昌仁、農林技術研究所研究員		
開講学科	畜産学科中小家畜コース	学年・学期	２年・前後期
必選の別・単位数（単位時間）	必須・３単位（108単位時間）	免許・資格との関係	なし

授業内容

自らテーマを設定し、調査・実験を実施し、結果の分析、まとめ、考察を行い、課題解決能力を習得する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1	課題設定	課題の選定	2	講義 演習	講義室	研究員 元水昌仁
2,3	計画策定	調査、実験計画の作成	4	演習	講義室	
4～52	調査及び実験	調査、試験の準備	98	講義 演習	研究室 講義室	
		調査及び実験		調査・実験		
		分析とまとめ		演習		
		卒業論文報告書の作成		演習		
53、54	発表	卒業論文発表会	4	演習	講義室	
計			108			

他の科目との関連並びに留意事項

「選択特論（飼養管理、衛生疾病、繁殖育種、環境保全）」は卒業論文の課題により選択する。
「先進経営研修」を活用し、現場での問題等を把握させ、課題設定の参考とする。
卒業論文で行う実験や調査は、「飼養管理」、「選択特論」も活用し実施する。

教材	テキスト	参考書

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部畜産学科　中小家畜コース　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
卒業論文	−’	10	10	80	100

評価のポイント
・出席は欠席1回につきマイナス1点とする。（遅刻早退3回で欠席1回、最高マイナス10点）
・態度は講義中の授業態度、取り組み意欲を評価する。
・技能、レポートは実験や調査研究の取組み、まとめ方等や卒業論文発表会、報告書の完成度で評価する。

令和２年度農林大学校シラバス

授業科目名	卒業論文		
担当者	森林・林業研究センター研究員、榊原道伸、農林技術研究所研究員		
開講学科	林業学科	学年・学期	2年　前・後期
必選の別・単位数(単位時間)	必須・３単位(108 単位時間)	免許・資格との関係	

授業内容

学生は定められた教科目により森林・林業に関することを学んでいることを踏まえ、総合的かつ理論的に問題を深く考察し、解決する能力を養う。

学生各自がそれぞれ一つの課題を設定し、問題の分析、実験、観察、調査等を行い、結論を導き出し、論文を作成する。

授業計画

回数	項目	内容	時間	授業方法	実施場所	講師
1～4	課題研究テーマの選定 実験等の計画策定	卒業論文テーマ選定 資料収集 資料取りまとめと検討 実験・調査等の計画	8	実習 演習	分校教室 研究センター	研究センター研究員 榊原道伸 研究員
5～24	実験・調査の実施 データの取りまとめ	実験・調査の実施 データの整理	40	実習 演習	分校教室 研究センター 現地	
25～44	結果の分析と考察 論文作成	データの分析と考察 論文の構成と仕上げ	40	実習 演習	分校教室 研究センター 現地	
45～48	卒業論文の発表	プレゼンテーション作成	8	実習	分校教室	
49～50			4			
51～54		卒業論文発表会の開催	8			
計			108			

他の科目との関連並びに留意事項

林業特論Ⅰ「森林林業研究センター演習」を参考に卒業論文の課題を選定する。

教材	テキスト	参考書
	論文の内容によって決定	論文・レポートの書き方 （日本実業出版社　三木正　著）

令和2年度授業評価基準

学部・学科・コース　養成部　林業学科　　学年　2

科目名	試験	出席	態度	技能・レポート	合計
卒業論文		10	10	80	100

評価のポイント

1　卒論の担当先生とのコミュニケーション、取組み態度、質問等による理解度を評価します。
2　卒業論文発表会での発表内容、態度等を「技能・レポート」で評価します。
3　卒業論文の提出及び内容を「技能・レポート」で評価します。